

陸軍歩兵少佐 竹本竹次郎殿著



應用戰術講授錄 第二卷

昭和
41 4 15
丙午

東京 兵事雜誌社

自序

予嚮キニ應用戰術講授錄第一卷ヲ刊行セシ以來速ニ第二卷ヲ完成セント欲スルノ意頗ル切ナリキ蓋シ第一卷ハ唯攻撃防禦ニ關スル原則ヲ單純ナル狀況ノ下ニ討究シタルニ過キスシテ野外勤務ニ關スル事項ハ之ヲ第二卷ニ於テ記述セント欲シタレハナリ然ルニ職務繁忙ニシテ速ニ此舉ニ出ツルコト能ハサリシハ予ノ遺憾ニ堪ヘサル所ナリシカ幸ニシテ茲ニ嘗テ予カ同郷人士ト共ニ研究セシ所ノモノヲ基礎トシ現時ノ趨勢ニ鑑照シテ大ニ之ヲ改訂増補シ搜索、前進、警戒、宿營、其他攻撃防禦追擊並ニ退却ニ關スル統帥法ヲ記述シ以テ第二卷ヲ完成スルヲ得タリ。

思フニ軍隊ノ統帥法ヲ研究スルニ方リテハ須ラク常ニ實戰ニ於ケ

ル状態ニ留意セサルヘカラス然ラサレハ統帥法ノ問題ハ恰モ簡易ナル數學上ノ問題ヲ答解スル如クニシテ極テ容易ナルモノナリ深ク研究スルノ價值ナキノ感アルヘシ然レトモ實戰ニ於テ高級指揮官ハ敵ヲ目前ニ明視スルコト甚稀レニシテ通常唯之ヲ遮蔽セル範圍内ニ見ルノミ而カモ半透明ノ幕後ニ動ク物體ノ如ク時トシテ四肢若クハ頭首ノ影又ハ其運動スルヲ見ルコトアレトモ全體ノ形貌ヲ見ルヲ得スシテ吾人ハ唯々推測ヲ爲スニ止マレリ且ツ又各方面ヨリ送致セララルル報告ハ彼此相齟齬シ何レニ信ヲ措クヘキカヲ判斷スルニ惱ムコト往々之レ有リ指揮官タルモノハ斯カル曖昧ナル狀況ヲ正當ニ判斷シ以テ事ニ處セサルヘカラス是レ實戰ニ於ケル統帥法ノ一ノ困難にシテ此ノ困難ニ克ツハ獨リ指揮官ノ健剛ナル意思ニ待ツノ外ナカルヘシ是レ余カ敢テ淺學ヲ顧ミス此主旨ヲ以

テ本書ニ於ケル諸般ノ問題ヲ答解セシ所以ナリ。

然リト雖予カ答解ヲ以テ悉ク正鵠ヲ得タリト思惟センコトハ固ヨリ要求スル所ニアラス要スルニ研究スヘキ方法ノ順序ヲ指示スルヲ主眼トス決シテ大言壯語ヲ弄シテ快トスルモノニアラサルナリ。狀況ノ記述ハ或ハ冗長ノ嫌ナキニアラサルヘシト雖此内、軍隊ノ行動ニ關スル各種ノ原則並ニ下級指揮官ノ責務ヲ散見スルヲ得ヘシ要ハ諸問題ノ答解ト相待テ軍隊統帥法ヲ十分ニ研究セント欲スルニ外ナラス。希クハ本書カ青年將校ノ戰術研究上ニ多少ノ裨益ヲ與フル所アラシコトヲ。

明治四十一年 月

著 者 識

緒言

- 一、本編ニ於テハ主トシテ野外要務令(改正)ニ關スル事項ノ外第一卷ニ於テ記述セサリシ騎兵及砲兵戦闘ノ原則並ニ追撃退却ノ事項ヲ研究セリ而シテ砲兵ニ關シテハ操典改正草案ニ準據スルノ外新獨逸操典ヲ斟酌セリ是レ現今ニ於ケル新式速射砲ノ採用上ヨリ生スル自然ノ趨勢ナレハナリ。
- 一、退却ハ之ヲ黃瀬川支隊ニ利用スルノ機會ヲ有セサリシテ以テ狀況中敵ノ動作ヲ全ク原則的ニ指導セリ故ニ之ヲ以テ研究ノ一助ト爲シ得ヘキヲ信ス。
- 一、騎兵聯隊ノ編成ハ別ニ意味ヲ有スルニアラス只他日ニ於ケル騎兵旅團ノ使用ニ關スル楷梯ト爲サント欲セシニ過キサレナリ。

一、附録ハ本編ニ於テ地形判斷ノ問題ヲ出スヘキ機會ヲ有セザリシ
 テ以テ特ニ青年將校ノ該種戰術問題答解ニ於ケル參考ニ供セン
 カ爲ニ設ケルモノナリ。

一、本書ニハ詳細ナル附圖ヲ添ヘタリト雖尙ホ本編ノ爲メ東京、甲
 府、横須賀、静岡、附録ノ爲メ京大坂、和歌山ノ二十萬分一地圖ヲ
 要ス。

應用戰術講授錄 第二卷目次

想 定

騎兵ノ搜索……………五

一月十六日ニ於ケル騎兵第一聯隊ノ動作……………五

狀 況……………五

問題(前衛司令官及騎兵聯隊長ハ何事カ處置スル所アルヤ)……………八

右答解ニ關スル講評及意見……………八

戰團ノ準備……………九

狀 況……………一一

問題(此際騎兵聯隊長ハ如何ナル決心ヲ爲シ如何ナル區處ヲ爲スヤ)……………一四

右答解ニ關スル講評及意見……………一四

戰團方面及行進方向ノ選擇……………一六

騎兵聯隊長ノ決心及處置……………一九

狀 況……………一九

問題(騎兵聯隊長ハ爾後如何ニシテ其決心ヲ斷行セントスルヤ)	二〇
右答解ニ關スル講評及意見	二〇
機關銃隊ノ使用	二一
行進目標ノ選擇	二二
隊形ノ利害及利用	二三
狀況	二五
乘馬戰ニ於ケル機關銃隊ノ動作	二六
騎兵聯隊ノ襲撃動作	二七
問題(騎兵聯隊長ハ如何ニシテ追撃スルヤ)	二八
右答解ニ關スル講評及意見	二八
追撃動作	二九
狀況	三〇
問題(騎兵聯隊長ハ今ヨリ如何ナル事ヲ爲サントスルヤ)	三四
右答解ニ關スル講評及意見	三四
敵前ニ於ケル渡河法	三六

徒歩戰ヲ以テスル攻撃	三七
徒歩戰ニ於ケル機關銃隊ノ使用	三八
狀況	四一
問題(騎兵聯隊長ハ今ヨリ如何ナル事ヲ爲サントスルヤ)	五〇
右答解ニ關スル講評及意見	五〇
獨立シテ動作スル騎兵ノ宿營ニ關スル説明	五二
黃瀬川諸橋梁ノ守備法	五三
狀況	五六
問題(騎兵聯隊長ハ如何ナル決心ヲ爲シ又其決心ニ基キ如何ナル命令ヲ降スヤ)	五八
右答解ニ關スル講評及意見	五八
翌日ニ係ル騎兵聯隊ノ命令	六〇
一月十七日拂曉前ニ於ケル騎兵聯隊ノ動作	六一
狀況	六一
敵歩兵ノ夜襲ニ對スル徒歩騎兵ノ動作	六三

騎兵聯隊長ノ兵力集結ニ關スル命令 六五

四

支隊ノ動作 六六

一月十六日夜ニ於ケル支隊ノ状況 六七

支隊ノ警戒及宿營 六九

地形ト警戒法トノ關係 七〇

問題(十七日ニ係ハル支隊命令) 七一

右答解ニ關スル講評及意見 七一

行軍區處ノ決定 七三

行軍目標及出發時刻ノ選定並ニ軍隊集合ノ規定 七五

命令作為ニ關スル注意 七九

支隊ノ軍隊區分及支隊命令 八〇

一月十七日ニ於ケル状況 八三

問題(支隊長ハ如何ナル決心ヲ爲スヤ) 九一

右答解ニ關スル講評及意見 九一

各答案ノ概要及之ニ對スル講評 九二

内線ニ於ケル作戰及準備陣ノ説明 九六
防禦陣地選定ニ關スル第一ノ主眼 九九
支隊長ノ決心及理由 一〇九

狀 況 一一一
問題(支隊ノ香貫山ヨリ日吉ヲ經テ其西北方ニ亘ル線上ニ於ケル配
備) 一二二

右答解ニ關スル講評及意見 一二二
敵ノ攻撃方向ノ推定 一二三

陣地各部ノ研究 一二四
防禦ニ於ケル野砲兵及野戰重砲兵(榴彈砲兵)ノ使用 一二五

陣地幅員ノ決定 一二七
支隊配備ノ概要 一二八

狀 況 一二〇
問題(本夜ニ關シ支隊長ノ降スヘキ命令) 一二五
右答解ニ關スル講評及意見 一二五

- 各答案ノ概要 一三六
- 警戒配備ニ關スル研究 一三三
- 警戒合營ノ説明 一三三
- 支隊ノ給養ニ關スル説明 一三五
- 命令作爲ニ關スル注意 一三七
- 宿營ニ關スル支隊命令 一三九
- 一月十八日ニ於ケル狀況 一四三
- 問題(支隊長ノ爲スヘキ狀況判斷) 一四六
- 右答案ニ關スル講評及意見 一四六
- 各答案ノ概要 一四七
- 狀況判斷ニ關スル説明 一四七
- 毎時發生セシ狀況ノ順序的考案 一五〇
- 狀況判斷(理由及處置) 一五七
- 狀況 一五九
- 問題(支隊長ハ差當リ何事カ決行スル所アルヤ) 一六二

- 右答案ニ關スル講評及意見 一六二
- 答解(決心ノ問題)ニ關スル注意 一六三
- 各答案ノ概要及之ニ對スル講評 一六四
- 攻撃實行ニ移ルニ先タチ軍隊ヲ一地ニ集合スルノ必要並ニ黃瀬川渡河ノ方法 一六九
- 開進ニ關スル説明 一七二
- 支隊長ノ決心(理由處置) 一七三
- 狀況 一七六
- 問題(支隊長ハ如何ナル區處ヲ以テ主力ヲ集合セシムルヤ) 一七七
- 右答案ニ關スル講評及意見 一七七
- 狀況 一七九
- 問題(支隊ノ攻撃計畫) 一八二
- 右答案ニ關スル講評及意見 一八二
- 各答案ノ概要 一八三
- 正面攻撃及突貫攻撃 一八四

攻撃ニ關シ地形全般ノ研究 一八五

砲兵陣地ニ關スル詳説並ニ砲兵ノ使用法 一八九

支隊ノ攻撃計畫 一九一

狀況 一九三

問題(支隊長ノ降セシ命令) 一九四

右答解ニ關スル講評及意見 一九四

展開ト攻撃實行トヲ同時ニ命令シ得ヘキ場合 一九五

支隊命令 一九六

狀況 一九七

戦闘經過 一九八

機關銃隊ノ使用 二〇〇

問題(支隊長ハ何事カ爲スコトアルヤ) 二〇四

右答解ニ關スル講評及意見 二〇四

豫備隊ノ使用 二〇五

狀況 二〇六

問題(各部隊長ハ如何ナル事ヲ爲サントスルヤ) 二〇八

右答解ニ關スル講評及意見 二〇九

追撃ニ關スル詳説 二一一

狀況 二一三

問題(支隊ノ宿營及警戒配置) 二一五

右答解ニ關スル講評及意見 二一五

・ 戦闘後ニ於ケル宿營ニ關スル説明 二一六

宿營位置ノ選定 二一七

騎兵聯隊ノ使用 二一九

支隊ノ宿營及警戒ノ區處 二二一

狀況 二二二

問題(支隊長ハ明日如何ナル事ヲ爲サントスルヤ) 二二六

右答解ニ關スル講評及意見 二二六

狀況 二三〇

問題(翌日ニ係ル支隊命令) 二三一

右答解ニ關スル講評及意見 二三一

軍隊區分ニ關スル研究 二三四

前衛ノ編組ニ關スル研究 二三六

前衛ト本隊トノ距離 二三七

支隊ノ軍隊區分及支隊命令 二三八

狀況 二四一

一月十九日ノ狀況 二四二

問題(前衛司令官及左縱隊長ハ如何ナル處置ヲ爲スヤ) 二四六

右答解ニ關スル講評及意見 二四六

狀況 二四八

問題(支隊長ハ今ヨリ何事ヲ爲サントスルヤ) 二五一

右答解ニ關スル講評及意見 二五二

狀況 二五四

軍司令官ノ訓令ニ對スル支隊長ノ處置 二五五

附 錄

地形判斷ノ一例

其一 防禦ニ關スル陣地ノ地形判斷 一

想定 一

問題(防禦ニ關シ字三上山附近ヨリ地藏堂村附近ニ亘ル陣地ノ地形判斷) 三

右答解ニ關スル講評及意見 三

防禦ニ關スル概略ノ説明 四

陣地各部ノ研究 五

判決、理由、處置 一四

其二 攻撃ノ目的ヲ以テスル陣地判斷 二一

想定 二二

問題(攻撃ノ目的ヲ以テ陣地判斷) 二三

右答解ニ關スル講評及意見 二三

各答案ノ概要及之ニ對スル講評……………二四
攻撃方面ノ研究……………二六
判決、理由、處置……………三一

應用戰術講授錄 第二卷目次終

應用戰術講授錄 卷之二

陸軍歩兵少佐 竹本竹次郎著

想定

東京附近ニ集合中ナル敵ニ對シテ作戰スヘキ目的ヲ有スル西軍一兵團ハ優勢ナル艦隊ノ掩護ニ依リ二月十一日駿河國清水港ニ上陸ヲ開始シ十五日後ハ強風ノ爲メ一時上陸動作ヲ中止スルノ已ムヲ得サルニ至レリ。

但シ岩淵西方高地ハ上陸セシ團隊ノ一部ヲ以テ占領シ尙ホ甲府方面ニ對シテ萬澤附近ニ僅少ナル監視部隊ヲ出セリ、又岩淵、松岡間及五貫島西方富士川ニハ軍橋ヲ架設セリ。

敵ノ一部ハ十三日頃東京ヲ出發シ東海道及大山街道ヲ西進スルノ報ニ接シ之ニ對シテ編成セラレタル黃瀬川支隊ハ速ニ三島平野ヲ領有シ爾後ニ於ケル軍

想定

ノ前進ニ對シテ成ルヘク地步ヲ占ムヘキ任務ヲ以テ十六日江尻ヲ出發シ午後
晚ニ其主力ヲ以テ吉原ニ着シ該地及其附近ニ宿營セリ。

但シ騎兵聯隊ハ其主力ヲ以テ黃瀨川(村落)附近ニ一部ヲ以テ本宿及小林附
近ニ在リ。

此日支隊長ハ左ノ事項ヲ知悉セリ。

- 一、我騎兵聯隊ハ午後二時過沼津西端ニ占據セル敵ノ騎兵(約四中隊)ヲ驅
逐セシニ敵ハ更ニ黃瀨川ノ左岸ニ在リテ諸橋梁ヲ扼守セリ是ヲ以テ聯隊
ハ之ヲ攻撃シ午後四時五十分終ニ之ヲ擊退シテ黃瀨川左岸ニ移リシモ既
ニ日没ニ至リ十分ニ三島及佐野方面ノ狀況ヲ探知スルコト能ハサリシ然
レトモ日没前僅少ナル歩兵部隊ノ三島ニ到着セルモノノ如シ。
- 二、騎兵聯隊ヨリ十里木ヲ經テ御殿場方面ニ出セシ將校斥候ハ道路險惡ナ
リシカ爲メ行進甚シク遲滯シ本日遅ク十里木ニ達セシニ途中何等ノ異狀
ナキノミナラス今朝マテハ御殿場附近ニ未タ敵兵到着シアラサルモノノ

如シト。

- 三、黃瀨川ノ諸橋梁ハ一モ破壊セラレス且ツ鞏固ニシテ諸兵ノ連續通過ニ
耐フヘシ又該川ハ目下水量多カラス中石田東方及東海道上ノ橋梁下流ハ
諸兵ノ通過自在ナルヘシ然レトモ其他ハ兩岸一般ニ水際ヨリ二乃至四米
高起シ或ハ斷岸ヲ成形シ徒涉ニ要スル工事頗ル困難ニシテ且ツ大ナルヘ
シ。

又該川兩岸ニ存スル竹叢及樹林ハ一般ニ茂生シ其大部分ハ彼此ノ通視ヲ
妨害ス。

- 四、狩野川ハ水頗ル深クシテ徒涉スルヲ得ス土人ノ言ニ由レハ北部徳倉ニ
ハ橋梁アリト又同川ニ於ケル日吉ノ橋梁ハ頗ル老朽ニシテ諸兵ノ連續通
過ニ耐ヘス但シ沼津町ヨリ市場ニ通スルモノ及其南方(圖上渡船場ノ符號
ヲ記シアル所)ノ橋梁ハ何レモ鞏固ナル鐵橋ナリ。

- 五、沼津並ニ三島附近一帶ノ水田ハ目下麥畑ニ變シ能ク乾燥シ諸兵ノ運動

ヲ甚シク阻害セス但シ畑中ヲ縱横ニ流ルル細流ハ概ネ水量少ク幅一米乃至一米五十ニシテ深サ二十乃至五十冊ニ過キス。

六、此日強風未タ止マス軍ハ上陸ニ着手スルヲ得サリシト。
黃瀬川支隊ノ編組左ノ如シ

司令官 歩兵第一旅團長 少將 某

歩兵第一旅團(第一第二聯隊)

機關銃六挺ヨリ成ル一隊ヲ各聯隊ニ附屬シアリ

騎兵第一聯隊(五個中隊ヨリ成ル)

機關銃四挺ヨリ成ル一隊ヲ附屬シアリ

野戰砲兵第一聯隊(第二大隊本部並ニ第五第六中隊缺)

野戰重砲兵第一聯隊第三中隊(榴彈砲中隊)

工兵第一大隊第一中隊及第二中隊ノ一小隊

衛生隊二分一

以上各隊ハ糧食六日分(携帶口糧共)馬糧四日分ヲ有シ又歩兵ハ各自
彈藥二百發ヲ携帶セリ。

注意 東海道鐵道及各衛戍地ハ本想定ニ何等ノ關係ヲ有セサルモノトス。

騎兵ノ搜索

一月十六日ニ於ケル騎兵聯隊ノ動作

一月十六日騎兵第一聯隊(第五中隊ノ一小隊缺)ハ速ニ三島方向ニ前進シ輕井澤、箱根及御殿場方面ヲ搜索スヘキ任務ヲ以テ午前十時由比東端畑地ニ其集合ヲ終レリ但シ集合ニ先タチ聯隊長ハ輕井澤、箱根及御殿場方面ニ各一組ノ將校斥候ヲ派遣セリ次テ第一中隊(一小隊缺)ヲ前衛トシ其他ヲ本隊トシテ東海道ヲ三島ニ向テ前進セリ但シ第一中隊ノ一小隊ハ前衛ノ直後ニ前進シ吉原ヨリ愛鷹山南脚ヲ通スル道路ヲ北部長泉村(黃瀬川左岸)ニ向テ前進セシメタリ。

狀況

午前十一時四十分騎兵聯隊長ハ本隊ノ先頭ニ在リテ宮島ニ到着セリ此時御殿

騎兵ノ搜索

場方面ニ派遣セシ將校斥候ノ午前十一時今泉村北方發報告ニ接セリ其要旨左ノ如シ。

一、十里木ヲ經テ御殿場ニ通スル道路ハ一般ニ岩石露出シ非常ニ險惡ニシテ乘馬ニテ行進スルヲ得ス。

土人ノ言ニ由レハ十里木ヨリ印野ヲ經テ御殿場ニ至ル部分ハ岩石少ナクシテ比較的行進シ易シト。

又御殿場方面ハ今朝ニ至ルマテ敵兵未ダ到着シアラサルコト稍々確實ナルモノノ如シ(該地方面ヨリ來ル數多ノ土人ニ就テ審問セシ結果ニ由ル)。

二、厚原ヨリ大淵ヲ經テ十里木西南方約三吉米ニ通スル道路ハ一層險惡ニシテ眞ニ樵路獵徑ニ過キササルモノノ如シ。

午後二時十五分聯隊長ハ一本松ニ於テ箱根方面ニ出セシ將校斥候ヨリ午後一時沼津東端發報告ニ接ス其要旨左ノ如シ。

一、敵ノ騎兵部隊(兵力未詳)東海道上黃瀬川ノ橋梁ヲ守備セリ尙ホ其北方

鐵道橋及本宿ノ橋梁モ若干ノ騎兵ヲ以テ守備セラレアリ。

土人ノ言ニ由レハ此騎兵ハ本日正午前三島方面ヨリ來リシモノノ如シ而シテ其兵力約百騎トモ言ヒ又二百騎トモ或ハ尙ホ之レヨリ強多ナリシト言ヒ要スルニ其何レトモ判定スルヲ得ス。

二、本斥候ハ今ヨリ狩野川左岸ノ地區ヲ箱根ニ向テ前進セントス。

午後二時四十分以後前衛ハ絶ヘス敵ノ斥候ヲ追躡シ午後三時頃小諏訪ニ達セリ此時前方ニ在ル尖兵ハ沼津西端鐵道ニ沿フ所ノ丘阜附近並ニ其東北方水車房附近ヨリ射撃ヲ受ケタリ又東間門東南方森林(稍々密ニシテ部隊ノ運動困難ナリ)内ニハ敵ノ騎兵三々伍々停止シアリ又東海道ト鐵道トノ交叉點附近ニハ數多ノ木材ヲ積堆シテ道路ヲ閉塞シ且ツ其南側家屋端ハ若干ノ騎兵ヲ以テ占領セラレアリ。

此時聯隊長ハ前衛司令官ト共ニ西間門ノ西北方無名祠ニ在リテ親シク此狀況ヲ視察セリ。

問題

前衛司令官及聯隊長ハ何事カ處置スル所アルヤ。

右答解ニ關スル講評及意見

諸君ノ大部ハ沼津西端ノ敵ニ對シテ徒歩戰ヲ爲サント欲セリ固ヨリ隘路森林家屋若クハ築設セル工事ニ據リテ徒歩戰ヲ爲ス所ノ騎兵ニ對シテ正面ヨリ襲撃ヲ敢行スルカ如キハ徒ラニ夥多ノ犠牲ヲ拂フテ其購ヒ得ル所ハ啻失敗ノ二字ニ過キササルヘシ若シ他ノ手段ナクシハ我亦展開シ得ヘキ騎銃ヲ使川シテ之ニ當ラサルヘカラサルナリ然レトモ徒歩戰ハ實ニ己ムヲ得サル手段ニ過キササルナリ蓋シ下馬セル騎兵ハ騎兵タルノ性能ヲ失シ價值鮮キ歩兵トナルヲ以テナリ諸君或ハ思ハン現今ニ於ケル騎銃ハ或ル範圍内ニ於テ命中精度歩兵銃ト異ナルナシ而シテ其射撃教育モ亦殆ト歩兵ト同一程度ニ達セルヲ以テ其徒歩戰ハ昔時ニ於ケルカ如キ價值ナキモノニアラサルヘシト然リ其射撃ノ威力ハ昔時ニ於ケルカ如キ微々タルモノニアラサルヘシ然レトモ戰鬪ハ獨リ射撃ノ

威力ニ依ルモノニアラスシテ精神上ノ影響大ナル關係ヲ有スルコトハ余ノ喋言ヲ俟タスシテ諸君ノ業ニ識ル所ナルヘシ夫レ騎兵ニ於ケル射撃ノ威力強大ナリトスルモ其手馬ニ對スル顧慮ヲ斷ツコト能ハサルヘシ是レ其弱點ニシテ下馬セル騎兵愈々夥多ナルニ從ヒ此弱點愈々増加シ從テ其本來ノ性能ヲ失スルノ感念益々増進シ戰鬪ニ緊要ナル耐久的意思ノ鞏固ヲ害スルニ至ルヘシ殊ニ徒歩戰ニ於ケル攻撃ハ常ニ不確實ナルモノトス蓋シ奏功ノ見込アルハ唯タ敵兵ノ甚タシク劣勢ナルトキノミトス而シテ實際劣勢ナルヤ否ヤ之ヲ確實ニ知得スルハ極メテ稀レナルヘシ是故ニ徒歩戰ハ他ノ手段ナク眞ニ己ムヲ得ザルノ場合ニ於テ行ハルヘキモノトラスンハアルヘカラサルナリ敵騎ノ顯出ニ由リテ我馬匹ニ危険ヲ來スノ虞アルガ如キ場合ニ在リテハ安ソ自ラ靖ンシテ徒歩戰ヲ敢行スルヲ得ンヤ。

諸君請フ眼ヲ開キテ沼津北側一帶ノ地形ヲ觀察セヨ該地區ハ決シテ密集騎兵ノ運動シ得ラレサル地形ニアラサルナリ寧ロ容易ト稱シ得ルニアラスヤ諸君

カ爲サント欲スル所ノ考案ニ從テ聯隊ヲ東間門ノ北側ニ展開シテ沼津西端ニ
占據セル敵ニ當ランカ此際若シ七反田、新田ノ中間ヨリ敵騎ノ襲撃ヲ受クルニ
至ラハ其戦況如何ナル状態ヲ呈スルカヲ思ヘハ蓋シ戦慄ニ堪ヘサルヘシ固ヨ
リ徒歩ニテ戦鬪スル部隊及手馬ヲ隣隊或ハ天然ノ障碍ニ據リテ安全ニ確保シ
得サルトキハ戦鬪斥候ヲ派遣シ及馬上豫備隊ヲ設ケ以テ戦鬪間監視搜索ヲ爲
シ手馬ノ安全ヲ確實ニスヘキヲ以テ(騎兵操典改正草案第三百七十一参照)危
険ヲ豫防シ得ヘシト雖其襲撃ヲ受クルニ方リテハ是等ノ斥候若クハ部隊ノ機
敏ナル動作ニ依リテ僅ニ全滅ヲ免ルニ過キササルノミ精練ナル歩兵ニアリテモ
敵ノ有効ナル射撃下ニ在リテ方向ヲ變換スルコトノ極メテ困難ナルハ業ニ諸
君ノ認ムル所ナラスヤ射撃ノ爲メニ展開セル部隊ハ其前面ノ敵ニ制セラレ恐
ラク側翼前ニ生セシ危険ニ應スルコト能ハサルヘシ縱令幸ニシテ方向ヲ變換
シ得タリトスルモ各銃ニ三彈ヲ送ルニ先タチ既ニ敵騎ノ蹂躪スル所トナルヘ
シ斯カル不快ノ状態ヲ顯出スヘキコトヲ考察セラレ而カモ此考察至當ニシテ

且ツ過慮ナルニアラサルニ拘ハラス唯夕前面ノ敵狀ニ驅ラレテ直ニ徒歩戦ヲ
爲サントスルカ如キハ淺慮モ亦甚シト謂ハサルヘカラサルナリ沼津西端ニ於
ケル狀況ハ全ク防守ノ姿勢ニ在リ安ソ慌忙事ニ處スルヲ要センヤ我知ラント
欲スル所ノ状態ヲ搜索シ然ル後斷乎タル決心ヲ以テ之ヲ遂行スヘシ而シテ此
際最モ知ルヲ要スル方面ハ沼津北側即チ七反田方面是レナリ何トナレハ敵ノ
主力カ動作スヘキ地域ハ此方面ニ限ラレアルヲ以テナリ。
是故ニ前衛司令官ハ取り敢ヘス有力ナル斥候ヲ七反田方面ニ出シ沼津北側ノ
狀況ヲ搜索セシメサルヘカラス而シテ前衛並ニ本隊ハ敵ノ出撃ニ對シ若クハ
好機ニ投シ直ニ戦鬪ニ移リ得ヘキ準備ヲ爲シアルヲ要ス之カ爲メニハ先ツ前
衛ノ主力ヲ西間門無名祠ノ西北側ニ於テ中隊縱隊ニ、本隊ヲ小諏訪無名祠ノ
西側ニ於テ聯隊縱隊ニ開進セシムルヲ緊要トス。

狀 況

午後三時前衛司令官ハ沼津北側ヲ搜索セシムルノ目的ヲ以テ將校斥候ヲ七反

田方面ニ派遣セリ此間前衛ノ主力ハ西間門無名祠ノ西北側ニ開進セリ而シテ尖兵ハ東間門ニ其若干ハ同村南方ノ森林ニ在リテ孰レモ前面ノ敵ヲ監視シ且ツ搜索ヲ努メツ、アリ。

聯隊長ハ傳令ヲ以テ本隊ニ小諏訪無名祠ノ西側ニ開進スヘキコトヲ命シ依然前衛司令官ト共ニ西間門ノ無名祠ニ在リテ諸方面ヲ偵察シアリシ時ニ前衛ヨリ七反田方面ニ出セル斥候ノ新田西南方約五百米ノ地ニ達スルヤ沼津町西北角ヨリ劇烈ナル射撃ヲ受ケタリ其銃數約二十ト思ハル斥候ハ直ニ駈歩ヲ以テ北方ニ轉進セリ。

此時愛鷹山南脚ノ道路ヲ進ミシ騎兵小隊ハ西澤田ニ達セシニ敵ノ二三ノ斥候ハ東澤田附近ニ出沒シアリ。

午後三時十五分頃聯隊長ハ七反田方面ニ出セシ斥候ノ新田ニ着スルヲ見タリ又間モナク西澤田ニ在リシ小隊ノ中澤田ニ進入セルヲ認メタリ。午後三時二十分聯隊長ハ新田ニアル斥候ヨリ次ノ報告ヲ受ク曰ク

一、七反田ニハ約二十ノ敵兵アリ又新田ノ東方約五百米ニアル水車房ニモ若干ノ敵兵アリ孰レモ我ニ向テ劇シク射撃シアルヲ以テ之レヨリ以東ニ前進スルコト頗ル困難ナリ但シ蓮光寺附近ニハ稍々大ナル騎兵集團アルモノノ如シ。

二、愛鷹山南脚ヲ前進セシ我騎兵小隊ハ目下中澤田ニ達セリ此方面ノ敵ハ僅ニ二三ノ斥候ノミナルカ如シ。

三、斥候ハ依然此地附近ニ在リテ蓮光寺方面ノ敵狀ヲ確知セントス。次テ愛鷹山南脚ヲ進ミシ小隊ヨリ報告アリ其要旨左ノ如シ。

一、當方面ハ僅ニ敵ノ斥候ニ過キスシテ未ダ騎兵部隊ヲ見ス。

二、高田及日吉附近ニハ敵ヲ見サルモ蓮光寺附近ニハ騎兵部隊ノ集團セルアリ其兵力少クモ一中隊ヲ降ラサルヘシ。

是レヨリ先キ本隊ハ既ニ小諏訪無名祠ノ西側ニ開進シアリ又沼津西端ノ狀況ハ毫モ變スル所アルヲ認メサリシ。

問題

此際騎兵聯隊長ハ如何ナル決心ヲ爲シ如何ナル區處ヲ爲スヤ。

右答解ニ關スル講評及意見

此際尙ホ、ヨリ以上ノ敵狀ヲ搜索シテ然ル後我動作ヲ決セントシ或ハ蓮光寺方面ニ於ケル敵部隊ノ進出ヲ待テ攻撃ニ移ラントスルカ如キ諸君ノ考案ハ絶對ニ同意スルヲ得サル所ナリ斯ノ如キ考案ヲ有スル指揮官ハ敏捷果決不撓ニシテ確實ナル機眼ヲ有スルモノト謂フヲ得ス否寧ロ其怠慢ナルヲ責メラレスンハアルヘカラサルナリ夫レ敵狀及地形ニ關シ之ヲ偵知スルヲ愈々多ク且ツ明確ナランコトヲ欲スルハ何人モ希望スル所ナリ然レトモ既ニ決心ヲ爲シ得ヘキ程度ニ達スレハ安ソ時間ヲ徒費シテ多キヲ貪ランヤ又尙ホ明確ヲ待タンヤ余ハ試ニ諸君ニ問ハントス爾後如何ニシテ、ヨリ以上ノ敵狀ヲ偵知セントスルヤ、夫レ新田方面ニ出セル斥候ハ其東方並ニ七反田附近ヨリセラルル猛烈ナル射撃ノ爲メ一步モ東進スルヲ得サルニアラスヤ又沼津町西端ハ既ニ確

實ニ占領セラレ我一兵タモ之ニ進入シ得サルニアラスヤ中澤田方面ニ在ル騎兵小隊ヲ北下セシムルモ其成功實ニ覺束ナシ況ヤ現時ノ狀態ヲ持續シ以テ敵ノ微細ナル狀態ヲ探知セント欲ス恰モ木ニ倚リテ魚ヲ求メント欲スルニ異ナル所ナキナリ幾時ヲ費スモ終ニ其目的ヲ達セサルヘシ凡ソ敵ノ閉鎖セル騎幕ハ決シテ透明ナルモノニアラス之ヲ破ルニアラサレハ其内部ノ狀態得テ知ルヘカラス若シ夫レ敵自ラ之ヲ開放センカ是レ敵ハ既ニ我ニ對シテ其目的ヲ達セシカ若シクハ我ニ向テ攻勢ニ轉シタルノ時ナルヘシ然レトモ此事ハ何時ノ後惹ルヘキヤ豫シメ知ル能ハサルナリ又其騎幕ヲ破ラント欲センカ必ス之ニ鐵槌ヲ加ヘサルヘカラサルナリ是レ二三斥候ノ能ク爲ス所ニアラサルヘシ是故ニ内部ノ狀態ヲ知悉セント欲セハ十分ナル兵力ヲ以テ先ツ其騎幕ヲ破ラサルヘカラス假令ハ一部隊ヲ以テ之ヲ破リ能ク内部ノ狀態ヲ知り得タルトスルモ小諏訪附近ニ位置スル所ノ主力果シテ好機ニ投ジ得ヘキヤ否ヤ是レ實ニ疑問ニ屬ス否寧ロ時機ヲ失スヘシト斷言スルヲ至當トスヘシ何トナレハ乘スヘ

キ好機ノ經過シ去ルコト他兵種ニ比シテ最モ迅速ナルヘケレハナリ。
抑モ騎幕ノ内部ニ於ケル状態未タ其微細ヲ詳知セスト雖既ニ蓮光寺附近ニ敵
騎ノ集團シアルコトヲ知レリ其兵力ノ如キハ到底之ヲ確知スルコト難カルヘ
シ而シテ又高田及日吉附近ニ敵ヲ見サルコトヲモ知レリ尙ホ沼津町西側並ニ
北側一帶ノ地形モ既ニ偵知スル所ナリ騎兵聯隊長タルモノハ宜シク自己ノ任
務ニ訴ヘ斷乎タル決心ヲ以テ迅速ニ之カ處置ヲ爲ササルヘカラス諸君請フ此
際ニ於ケル職務ニ熱心忠實ナル騎兵聯隊長ノ心事如何ヲ洞察セヨ太陽ノ西山
ニ没スルノ時正サニ近接セリ而シテ眼前ニ横タハル黃瀨川左岸ノ地區ハ刻一
刻ヲ逐フテ其状態如何ニ發展シアルヤ思フテ茲ニ至ラハ安ソ一刻ノ猶豫ヲ前
面ノ敵ニ假スコトヲ得ンヤ夫レ支隊ノ任務ハ將來ニ於ケル軍ノ行動ニ對シ重
大ナル關係ヲ有セリ而シテ其任務ヲ遂行シ得ルト否トハ一ニ黃瀨川左岸ノ地
區ニ於ケル状態ニ關スルモノトス然ルニ支隊ノ來着ニ先タチテ之ヲ知悉スル
一能ハス尙ホ又少クモ敵ノ騎兵ニ對シテ黃瀨川右岸ノ地區即チ沼津平野ヲ我

領有ニ歸シ能ハサルニ至リテハ何ノ面目アリテ支隊長ニ見フルヲ得ンヤ凡ソ
任務ハ決心ノ基礎ナリ敵狀ノ不明地形ノ不利等ニ由リ其遂行ヲ躊躇スヘキモ
ノニアラサルナリ而シテ任務ヲ遂行センカ爲メニハ前面ノ敵ヲ驅逐スルノ外
他ニ手段ナカルヘシ是故ニ聯隊長ハ今ヤ一瞬ノ猶豫ヲ爲スコトナク前面ノ敵
ニ向テ攻撃ヲ實行セサルヘカラサルナリ夫レ然リ而シテ之ヲ攻撃スルニ方リ
テハ一モ二モナク蓮光寺方面ニ於ケル騎兵部隊ヲ目標トセサルヘカラサルナ
リ何トナレハ沼津町西端ニ對シテ徒歩戰ヲ爲スカ如キハ前述ノ如キ不利アレ
ハナリ是ニ於テカ又聯隊ハ如何ニ其行進方向ヲ選擇スヘキカノ問題ヲ提起ス
ヘシ諸君ハ之ニ答フルニ小諏訪無名祠ノ東北側ヨリ七反田ト新田トノ間ニ取
ルヘキヲ以テセリ是レ實ニ不利トスル所ナリ若シ斯ノ如キ行進方向ヲ取ラハ
恐ラク其目的ヲ達スルヲ得サルヘシ何トナレハ七反田及沼津町西北端ニ在ル
所ノ敵兵縱令僅少ナルニモセヨ我密集隊形ニ及ホス所ノ射擊効力著大ナルヘ
ケレハナリ強ヒテ此方面ヨリ前進セントセハ先ツ徒歩戰ヲ以テ之ヲ驅逐セサ

ルヘカラス是實ニ迂遠ナリ假令射撃ヲ受クルコトナク前進シ得ルトスルモ近ク沼津町北縁ヲ控フルヲ以テ我運動ノ自由ヲ得サルノミナラス我目標トスル所ノ騎兵部隊ニ對シテ側面ヲ露出セサルヲ得サルナリ是ヲ以テ聯隊ハ澤田東側ノ地區ヨリ蓮光寺ニ向テ前進スルノ外他ノ方法ナカルヘシ而シテ七反田及其附近ヨリセラル射撃ハ他ノ方法ニ依リテ之ヲ制壓スルヲ得ヘシ諸君或ハ言ハン前面近ク敵ヲ控ヘ縱令近距離トハ言ヘ側面ヲ露出スルカ如キハ實際實行シ得ヘキヤト實ニ然リ是レ正サシク危険ナリ然レトモ諸君能ク地圖ヲ考察セラレヨ小諏訪ヨリ澤田ノ西側地區ニ達スルニハ高田ヨリ七反田ニ向フ凸稜及新田ヨリ東開門ニ向フ凸稜ノ爲メ辛シテ我運動ヲ遮蔽スルカ少クモ全體ヲ露出スルヲナク前進シ得ヘキヲ以テ之カ爲メ我希望ヲ廢止セサルヘカラサルカ如キ顧慮ヲ要セサルナリ他ニ適良ナル方法ナカリセハ多少不快ノ運動モ忍ハサルヘカラサルナリ況ヤ騎兵ハ其速力ヲ利用シテ迅速ニ危険ノ地界ヲ脱シ得ルニ於テチャ。

以上説述スル所ニ由リ余ハ此際ニ於ケル騎兵聯隊長トシテ次ノ如キ決心及處置ヲ爲スヘシ。

聯隊ハ今ヨリ蓮光寺方面ニ於ケル敵ニ向テ攻撃セントス。

處 置

- 一、前衛タリシ騎兵第一中隊ヲシテ東開門東北側ニ在リテ沼津町西端ノ敵ニ對シ聯隊ノ攻撃運動ヲ掩護セシム。
- 二、中澤田附近ニ在ル騎兵小隊ヲシテ東熊堂ニ前進シ小林及上石田方面ニ對シ聯隊ノ翼側ヲ警戒セシム。
- 三、聯隊ハ聯隊縱隊ノ隊形ヲ以テ先ツ小諏訪無名祠ノ北方ヨリ中澤田ノ中央ヲ目標トシテ前進シ該地ト澤田トノ中間地區ニ於テ旋回シ蓮光寺方面ニ向ハシム。

狀 况

午後三時三十分聯隊長ハ各部隊ニ命令ヲ與ヘ自ラ聯隊ヲ率ヒテ前進ヲ起セリ

騎兵ノ搜索

但シ發進ニ先タテ直接ニ聯隊ノ右側ヲ警戒セシムル爲メ一斥候ヲ澤田ト東間門トノ中間地區ニ出セリ。

午後三時四十分聯隊ハ何事モナク澤田ノ西北方ニ達セリ此時ニ至ルモ沼津西端ノ状態ハ依然トシテ變スルコトナク又中澤田ニ在リシ小隊ハ既ニ東熊堂ニ至リ小林及高田方面ニ對シアリ新田ニハ嚮キニ出セシ我斥候ノ存スルアリ又七反田及沼津町西北端ハ依然敵兵ニヨリテ占領セラレ時々新田ニ向テ射撃ヲ爲シツ、アリ又高田ノ北端並ニ西端ニハ二三ノ敵騎ヲ散見セラル。

問 題

聯隊長ハ爾後如何ニシテ其決心ヲ斷行セントスルヤ。

右答解ニ關スル講評及意見

細事ニ關スル處置ハ暫ク之ヲ措キ其主要ナルモノニ就テ諸君ノ考案ハ概シテ二様ニ區別セラル即チ一部ヲ以テ高田ノ敵騎ヲ驅逐シ主力ハ直ニ聯隊縱隊ヲ以テ蓮光寺ニ向テ前進セントスルモノ及蓮光寺北方ニ於テ戰鬪ヲ豫期シ横隊

ノ一線ヲ以テ前進セントスルモノ是レナリ是等ノ考案ハ共ニ現時ノ狀況ニ應スル適當ノ動作ニアラサルヘシ夫レ七反田ニハ敵騎ノ據リテ射撃ヲ爲シツ、アルニアラスヤ凡ソ馬匹ハ敵火殊ニ小銃放火ニ對向シテ進ムコトヲ嫌避ス且ツ之カ射撃ニ由リテ受クル所ノ損害ハ聯隊ヲシテ少クモ其隊伍ヲ動搖セシムヘシ若シ此際日吉ノ北方ヨリ十分ニ準備ヲ整ヘテ我左翼ニ向ヒ襲撃シ來ラハ我ノ横隊ニ在ルト縱隊ニ在ルトヲ問ハス又兵力ノ優勢ナルト劣勢ナルトニ關セス之カ蹂躪ヲ受クルコト蓋シ免レサル所ナルヘシ是故ニ蓮光寺ニ向フト將タ又日吉ニ向フトニ拘ハラヌ先ツ七反田ノ敵ニ對シテ處置セサルヘカラサルナリ諸君ハ當騎兵聯隊ニ機關銃隊ヲ有スルヲ忘却セシニアラスヤ斯ノ如キ場合ニ使用スルニアラサレハ偶々銳利ノ武器ヲ腐敗ニ歸セシムルノ之ヲ以テ七反田附近ノ敵ヲ掃攘シ且ツ之ヲ以テ聯隊ノ動作ニ對シ側翼ヲ掩護セシメハ安全ニシテ而カモ有利ノ戰鬪ヲ交フルヲ得ヘシ斯ノ如キ場合ニ於ケル機關銃ノ使用ハ實ニ重大ナル價值ヲ有スルモノニシテ之カ爲メ聯隊ハ毫毛衝突ノ際

ニ於ケル武器ノ數ヲ減スルコトナク而カモ一翼ヲ委托スルヲ得又時トシテ之カ火力ニ由リ奏功ヲ確保シ得ルコトアルヘシ。

嚮キニ蓮光寺附近ニ在リシ所ノ騎兵部隊ハ目下何レニ在ルヤヲ知ル能ハサルナリ然レトモ騎兵ハ歩兵ノ如ク如何ナル土地ニ於テモ戰鬪シ得ヘキ能力ヲ有セサルナリ其森林村落等ノ利用ハ單ニ徒歩戰ヲ爲シ得ルニ過キサルノミ本來ノ戰鬪ハ概シテ開豁ナル平坦地ノミニ制限セラルヘシ故ニ敵ニシテ若シ我ト衝突ノ企圖ヲ有センカ今ニ至ルモ尙ホ蓮光寺南方ニ位置スルカ如キ愚ヲ演セサルヘシ何トナレハ村落ヲ瀘過シテ突進スルカ如キハ騎兵ノ爲シ得サル所ナレハナリ是故ニ之ヲ蓮光寺ノ北端ニ見ルナクハ日吉東方ノ地區ニ在リテ待機ノ姿勢ニ在ルト推考スルハ必スシモ不當ニアラサルヘシ然ルニ諸君ハ依然蓮光寺ヲ目標トセリ是レ余ノ解スル能ハサル所ニシテ又恐ラク無意味タルヲ免レサルヘシ而カモ之ヲ實施セハ縱令七反田方面ヨリセラル射撃ヲ受クルコトナシトスルモ日吉高田ノ中間地區ニ對シテ一翼ヲ露出スルヲ以テ危險是レ

ヨリ大ナルハナシ。

次キニ騎兵ノ隊形ニ就テ少シク述フル所アラントス夫レ横隊ハ多クノ武器ヲ同時ニ使用スルヲ得ルヲ以テ襲撃隊形トシテ極メテ有利ナリ然レトモ正面廣濶ニシテ指揮ニ便ナラス且ツ地形ニ適應セス又方向ヲ變換スルコト容易ナラス故ニ横隊隊形ヲ取ルハ過早ナラサルヲ可トス縱令敵ノ砲兵火ヲ受クルカ爲メ此隊形ヲ採用スルノ已ムヲ得サルニ至ル時ト雖亦然リトス然ラハ則チ何レノ時機ヲ以テ此隊形ニ展開スルヤ曰ク襲撃方向ノ定マリタル時ハ正サニ此隊形ヲ採ルヘキモノトス、戰鬪ヲ豫期セシカ故ニ當初ヨリ此隊形ヲ採リシト言フハ是レ全ク此隊形ノ價值ヲ解セサルモノニシテ余ハ寧ロ戰鬪ヲ豫期スルカ故ニ縱隊隊形ヲ選用スト言ハンノミ又聯隊縱隊ハ極メテ運動性ニ富ミ且ツ正面ノ幅狭小ナルヲ以テ著大ナラサル凹地及地物ヲモ容易ニ利用シ得ヘク且ツ方向變換モ亦最モ單純ニ行ハルモノトス然レトモ襲撃スルニ方リテハ僅ニ先頭小隊ノミ武器ヲ使用シ得ルニ過キスシテ且ツ容易ニ敵ノ包圍ヲ受クヘシ故ニ

此隊形ハ主トシテ運動ニ使用セラル又此隊形ヨリ横隊ニ展開スルニハ比較的
多クノ時間ヲ要シ且ツ混雜ヲ來シ易シ故ニ突嗟ノ間ニ此隊形ヨリ直ニ横隊ニ
移スハ成ルヘク之ヲ避ケサルヘカラサルナリ夫レ澤田附近ヨリ沼津町北側ニ
至ル間ハ僅ニ千四百米ニ過キサルナリ然ルニ聯隊縦隊ヲ以テ前進スルカ如キ
ハ是レ亦目下ノ狀況ニ對シテ此隊形ノ價值ヲ解セサルモノト言ハサルヘカラ
サルナリ要スルニ此場合ニ在リテハ乘スヘキ好機ヲ逸セサル爲メ横隊ニ展開
スルニ容易ナル隊形ヲ選用セサルヘカラス地形ハ既ニ如何ナル隊形ノ掩蔽ヲ
モ許サス又平坦開豁ニシテ運動ヲ阻碍セス此際最モ適當シタル所ノ隊形ハ蓋
シ縦隊横隊ナルヘシ。

夫レ騎兵ハ離散シ易キ兵種ナリ故ニ指揮官ハ常ニ之ヲ集結スルヲ勉メ無益ニ
兵力ヲ分割セサルヲ要ス殊ニ乘馬戰ヲ豫期スル場合ニ於テ然リトス夫レ高田
ハ叢爾タル一小部落ノミ茲ニ幾何ノ騎兵ヲ蔭匿シ得ルヤ恐ラク一中隊餘ノ騎
兵ヲ留メサルヘシ僅少ノ敵騎出沒シアルヲ以テ直ニ一部ヲ派遣セントスルハ

上述ノ要旨ニ合セサルナリ聯隊ノ前進ニ際シテハ地形搜兵ノ出ツルアリ戰鬪
斥候ヲ派遣スルアリ尙ホ又東熊堂ニ我小隊ノ現在スルアリ何ソ特別ニ有力ナ
ル部隊ヲ派出スルヲ要センヤ。

以上説述スル所ノ理由ニ由リ余ハ聯隊長トシテ次ノ如キ處置ヲ爲スヘシ。

- 一、機關銃隊ヲシテ直ニ澤田ヲ經テ新田ニ前進シ直ニ該地東南端ヲ占領シ
七反田附近ヲ掃射シ且ツ聯隊ノ日吉東側ニ向テスル運動ヲ掩護セシム但
シ新田ニ現在セル騎兵ハ機關銃隊ノ掩護ニ任ス。
- 二、東熊堂ノ騎兵小隊ヲシテ岡宮附近ニ前進シ聯隊ノ左側背ヲ掩護シ且ツ
上石田附近ヲ搜索セシム。
- 三、聯隊ハ澤田ト西熊堂トノ中間ニ於テ高田ニ對シテ縦隊横隊ヲ作り茲ニ
雲時ノ休憩ヲ爲シタル後先ツ高田西北端ヲ目標トシテ行進ス但シ第五中
隊(一小隊缺)ヲ左翼後ニ前進セシメ該翼ノ掩護ニ任ス。

狀 況

午後三時五十分岡宮ニ在ル騎兵小隊ヨリ左ノ報告アリ曰ク。

二六

一、日吉東側凹地ニハ黒キ集團ヲ見ラル多分敵騎ノ頭部ナラン其幅員ニ由リテ推察セハ約三中隊ナルヘシ。

二、上石田ニハ敵騎約二分隊アリ又我前面ノ騎兵ハ漸次増加シテ殆ト二分隊餘トナレリ。

同時我機關銃隊ハ何等故障ナク陣地ヲ占領スルヲ得テ茲ニ射撃ヲ開始セリ此時既ニ聯隊ハ澤田ト西熊堂トノ中間ニ在リテ縱隊横隊ヲ作り前進ヲ起シ東澤田ヨリ新田ニ通スル道路ヲ通過シ目下、東方點線路上ニ達シアリ。
新田東方ニ在リシ敵ノ部隊ハ周章狼狽高田ノ南端ニ向テ潰走セリ又七反田方面ニ於ケル敵兵ハ全ク我機關銃ニ制壓セラレ殆ト應射ノ模様ナシ時ニ聯隊長ハ日吉ノ西北端ヨリ東北方ニ亘リテ長サ約百五十米ノ黒キ線ヲ見タリ次テ高田ノ北方ヲ前進シアル捜兵ヨリ敵兵存在ノ記號ヲナセリ時ニ聯隊ハ西熊堂ヨリ七反田ニ通スル道路ヲ通過スルコト約百米ナリシ是レヨリ稍々前新田ノ機

關銃隊ハ大ニ其射撃ヲ逞シクシ七反田及其附近ノ敵ヲ全ク沈黙ニ歸セシメ今ヤ射撃ヲ中止シアリ。

午後三時五十三分聯隊ハ東熊堂ヨリ沼津停車場ニ通スル道路ニ達ス時ニ聯隊長ハ日吉ト鐵道トノ中間ニテ殆ト鐵道ニ平行シテ展開セル敵ノ騎兵顯出シ我ニ向テ前進シアルヲ見タリ又機關銃隊長モ之ヲ望見セリ。

是ニ於テ聯隊長ハ細流ヲ通過シ二百米餘前進シタル後南方ニ面シテ横隊ヲ作ランカ爲メ先ツ聯隊縱隊ヲ其方面ニ成形セリ又機關銃隊長ハ側方ヨリ此戰鬥ニ參與シ聯隊ヲシテ其襲撃ノ成果ヲ偉大ナラシメント欲シ獨斷ヲ以テ陣地ヲ撤シ直ニ東方ニ向テ前進セリ此際七反田方面ヨリ射撃ヲ受ケシモ其銃數當初ニ比シテ甚シク減衰セリ此際日吉北方ノ敵兵ハ正サニ鐵道ヲ越ヘタリ今ヤ聯隊ハ横隊ニ展開中ナリ時ニ聯隊長ハ沼津町西方ニ於テ吶喊ノ聲ヲ聞ク次テ我ニ向テ前進シアリシ敵兵ハ一齊ニ退却ヲ始メタリ此時機關銃隊ハ新田ノ東方約二百米ニ達シ又聯隊ハ高田ノ北端ト齊頭線ノ稍々北方ニ於テ尙ホ未タ展開

ヲ終ラサリシ又此時上石田方面ニ銃聲起レリ。

二八

問 題

以上ノ狀況ニ對シ聯隊長ハ如何ニシテ追撃スルヤ。

右答解ニ關スル講評及意見

全力ヲ以テ直ニ追撃セントスルモノ及一部ヲ以テ高田東方ヨリ下石田ニ向ハシメ主力ヲ以テ日吉ニ向ヒ追撃セントスルモノ共ニ操典ノ示セル原則ニ合セサルナリ夫レ追撃ハ何レノ兵種ヲ問ハス最モ迅速ニシテ且ツ猛烈ナルヲ要ス騎兵ニ在リテハ特ニ然リトス然ルニ聯隊横隊ノ如キ隊形ヲ以テ果シテ此要求ヲ充タスヲ得ルヤ既ニ述フルカ如ク横隊ハ運動困難ニシテ地形ノ妨害ヲ受クルコト最モ多ク殊ニ方向ヲ變換スルコト容易ナラス一中隊ノ横隊ニシテ業ニ然リ況ヤ聯隊ニ於テヤ又一部ヲ以テ高田東方ヨリ下石田ニ向テ前進セシメ以テ敵ノ退路ヲ遮斷セントノ考案ハ一見巧妙ナルカ如シト雖斯ノ如キ區處ノ爲メ時間ヲ要シ爲メニ時機ヲ失スルニ至ルヘシ凡ソ追撃ハ最モ迅速ナラン

「」ヲ希望スルト同時ニ戰況ノ變化ニ伴フテ迅速ニ處置シ得サルヘカヲサルナリ故ニ諸中隊ヲ一線ニ併列スルカ如キハ當ニ迅速ナル動作ヲ爲シ得サルノミナラス此際不利ノ方面ヨリ新銳ナル敵部隊ノ顯出スルアラシカ彼我忽チ戰勢ヲ轉化シ非運ノ境裡ニ滔ルニ至ルヘシ是故ニ操典ハ吾人ニ教ヘテ曰ク「敵若シ戰鬪ヲ交ヘスシテ退却スルトキハ一部隊ヲ以テ追撃ニ任シ主力ハ之ニ跟隨スヘシ」ト是故ニ聯隊長ハ自己ニ最モ近ク位置セル中隊ヲ追撃部隊ニ任シ之ヲシテ速ニ日吉ニ向テ追撃セシメ其他ハ之ヲ縱隊トシ聯隊長親ラ之ヲ率ヒ該部隊ノ後方ニ跟隨スルノ處置ニ出テサルヘカラス而シテ追撃ニ任セラレタル中隊ハ横隊ト縱隊トヲ問ハス苟モ密集隊形ヲ以テセハ追撃ノ速度ヲ遲緩ナラシムヘキヲ以テ直ニ散開シ最モ迅速ナル歩度ヲ取り各人吶喊ノ大聲ヲ發シ密集整頓及列次ニ顧慮スルコトナク速ニ敵ニ追及シ彼レヲシテ已ムヲ得ス應戰セシムル如クスルヲ要ス但シ一斥候ヲシテ高田ノ東方ヲ經テ黃瀨川(部落)方面ニ向テ前進シ我左側ヲ警戒セシムヘシ是レ暴進ハ時ニ敵ノ奇襲ニ陥ルノ虞アル

騎兵ノ搜索

二九

ヲ以テ之ニ對シ特ニ注意セサルヘカラサレハナリ。

三〇

狀 況

午後四時追擊中隊ハ下石田ノ西側ニ達セリ敵ハ中石田方面並ニ東海道及其南方ヨリ黃瀨川ノ左岸ニ移リ最早一兵ヲモ右岸ノ地區ニ留メサリシ次テ沼津西端ノ敵ニ向ヒシ中隊ハ東海道ヲ追擊シ來リ獨立標高九、七四ノ北側ニ集合セリ追擊中隊(第二中隊)モ亦々更ニ黃瀨川左岸ニ移ラント欲シ茲ニ集合ヲ爲セリ但シ斥候ハ黃瀨川及中石田方面ニ追躡シアリ。

午後四時三分聯隊ノ主力ハ下石田ノ西側ニ達セリ次テ機關銃隊モ亦到着セリ茲ニ聯隊長ハ第一中隊ヲ合シ更ニ隊伍ヲ整頓セリ又聯隊長ハ第一中隊長ノ報告ニ由リテ沼津町西端ヲ占領セシ敵ハ多クモ騎兵ニ一小隊ニ過キサリシコトヲ知レリ。

此時聯隊長ハ黃瀨川西側ニ在ル追擊中隊(第二中隊)ヨリ次ノ報告ヲ受領ス曰ク

一、敵ハ長澤村ノ西端及柿田西北方無名部落ノ西北端ニ各工事ヲ施設シ堅固ニ占領シアリ又中石田東方河川ノ凸部ニ對シテ長澤西北端無名祠及其北方約四百米ノ處ニ工事ヲ築設シアリ。

二、中隊ハ黃瀨川(部落)東端ノ堤防ニ散開シ長澤ノ敵ヲ驅逐セントス。

午後四時五分第二中隊ノ黃瀨川東端堤防ニ散開スルヤ長澤西端及柿田西北方無名部落ヨリ劇シク射撃ヲ受ケ茲ニ彼我ノ間ニ猛烈ナル火戰ヲ開始セリ然レトモ敵ノ火力優勢ニシテ容易ニ當ルヘカラス。

此時聯隊長ハ機關銃隊長ヲ率ヒテ黃瀨川ニ來リ右ノ狀況ヲ親シク視察セリ由テ更ニ第三中隊ヲシテ中石田東方ニ散開シ長澤及其北方ノ敵ニ對シテ徒歩戰ヲ爲スヘキコトヲ命セリ。

次テ第二中隊ヨリ出セル斥候ノ報告ヲ受ク曰ク。

鐵道橋ハ木材及岩石ヲ以テ一部ヲ填塞シ且ツ約一分隊ノ敵兵之ヲ守備セリ又上石田東方ノ橋梁モ本宿西端ニ據レル敵兵ニヨリテ堅固ニ守備セラレア

騎兵ノ搜索

三一

リ又此附近ハ兩岸高起シ且ツ斷崖ヲ爲シ徒涉スヘキ場所ナシ。

午後四時十分第三中隊ハ其一部ヲ中石田東南端ニ散開シ長澤西北端ノ敵ニ對セシメ他ヲ以テ中石田東方右岸ニ接スル丘阜ニ散開シ長澤北方ノ敵ニ對シ射撃ヲ開始セリ然ルニ突然長澤西北端無名祠附近ヨリ敵機關銃ノ射撃ヲ受ケ瞬間ニ夥多ノ負傷者ヲ生シ此部隊ハ丘阜脚ノ凹部ニ蔭匿スルニ至レリ次テ中石田東北端ノ部隊モ之カ射撃ヲ受クルニ至リ一時村落内ニ潜匿セリ此機關銃ハ巧ニ其位置ヲ遮蔽シ何レヨリモ之ヲ確認スル能ハス但シ銃數ハ二挺ヨリ多カラサルヲ察セラルヘシ今ヤ黃瀨川東端ノ堤防ニ據レル第二中隊ハ時々其射撃ヲ蒙ルニ至レリ然レトモ其堤防ノ恩惠ニ依リ彼レカ猛威ヲ避クルヲ得タリ然レトモ我徒歩戰部隊ハ到ル處其氣勢ニ大ナル一頓挫ヲ加ヘラレ全線ノ銳氣稍々衰退ノ模様ナリシ。

時ニ在小林騎兵小隊ヨリ報告アリ曰ク。

一、我方面ニ在リシ敵ノ騎兵ハ約二十騎ニシテ小林東方ノ橋梁ヲ通過シ黃

瀨川左岸ノ守備兵ニ合セリ但シ橋梁兩側約三十米間ハ兩岸共ニ散開シ其東方約百五十米ノ處ニ散兵壕ヲ築設シ約一小隊ヲ以テ守備シアリ。

二、上土狩及中土狩村附近ニハ敵ノ部隊ヲ見ス唯該地附近ヨリ南方及三島方面ニ往復スル單獨騎兵ヲ見ルノミ。

三、小隊ハ小林附近ニ位置シ諸種ノ手段ヲ盡シテ徒涉場ヲ探知セントス但シ鮎壺ノ下流ニハ徒涉場ナシ。

同時第一中隊ヨリ狩野川左岸ニ出セル斥候ノ報告アリ曰ク。

一、此方面ニ在リシ敵ノ騎兵ハ僅ニ一分隊餘ニ過キスシテ漸次東方ニ退却シ北部德倉ニ於テ狩野川右岸ニ移レリ。

二、柿田西北方無名部落ノ西北方ヲ占領セル敵ハ約五十人ニ過キス又柿田附近ニハ敵ヲ見ス。

三、斥候ハ二名ヲ香貫山ニ殘置シ黃瀨川左岸ノ地區ヲ監視セシメ他ヲ以テ德倉方向ニ前進セントス。

問題

三四

以上ノ狀況ニ對シ騎兵聯隊長ハ今ヨリ如何ナル事ヲ爲サントスルヤ。

右答解ニ關スル講評及意見

先キニ於ケル聯隊長ノ敵狀比較的不明瞭ナルヲ顧慮スルコトナク確乎不拔ノ意思ヲ定メ以テ其軍隊ノ行動ヲ律シ速ニ好時機ヲ發見シ而カモ偉大ナル成果ヲ收メタルハ正サニ其聯隊ノ志氣ヲ一層旺盛ナラシメタルハ毫モ疑ヲ措ク所ニアラサルヘシ然ルニ今ヤ黃瀨川河岸ニ於ケル狀態ハ確力ニ志氣上ニ一頓挫ヲ加ヘラレントス此際指揮官タルモノハ益々奮勵シ一大鞭撻ヲ其部下ニ與ヘ是非トモ戰勢ヲ挽回スルコトニ努力セサルヘカラス否ラサレハ一旦收メタル戰勝ノ餘榮ヲ烏有ニ歸スルノミナラス敵ニ對スル恐怖ノ念ヲ増進シ爾後ノ動作ニ大ナル影響ヲ及ホスニ至ルヤ章々トシテ明ナリ夫レ然リ而シテ戰勢ヲ挽回センニハ唯剛膽ニシテ勇猛ナル動作ニ之レ依ラヌンハアルヘカラサルナリ然ルニ諸君ノ考案ハ一トシテ此主旨ニ出テタルモノナシ其甚シキニ至リテハ

黃瀨川ノ諸橋梁ヲ守備シ以テ敵ノ沼津恢復ニ備ヘントスルアリ是等ノ考案ハ如何ナル理由ヲ存スルトモ余ノ服スル所ニアラサルナリ況ヤ時正サニ日没ニ接シ且ツ軍隊モ亦朝來大ニ疲勞シアルカ故ニ積極的動作ヲ避クルト言フニ於テチヤ、愈々同意スル能ハサル所ナルヘシ時正サニ日没ニ接近スルカ故ニ時間ヲ徒費スル所ノ運動ヲ避ケ猛烈果敢ナル行動ヲ以テ迅速ニ效果ヲ收ムルヲ努メサルヘカラサルナリ僅ニ一日ノ勞働ヲ以テ攻撃動作ヲ爲シ得サル軍隊ハ決シテ戰場ニ顯出セシムヘカラス吾人カ養成スル所ノ軍隊ハ是レ命之ニ從ヒ斃レテ後止ムノ精神ヲ有スルニアラスヤ凡ソ指揮官ノ意思並ニ其意思ノ發動ニヨリテ生スル動作ハ部下軍隊ニ至大ノ影響ヲ與フルモノニシテ軍隊ハ常ニ勇猛剛膽ニシテ全力ヲ擧ケ事ヲ斷行スル所ノ指揮官ニ信賴スルモノトス請フ諸君戰鬪ノ極意ハ之ヲ志氣ニ求ムヘシトノ格言ヲ忘ルル勿レ巧妙ナル戰術動作並ニ精熟ナル技術モ攻撃的精神ヲ缺乏セル軍隊ニ在リテハ何等ノ効ヲ成ササルヘシ若シ夫レ聯隊ニシテ本日攻撃ヲ中止セハ明日如何ニシテ之ヲ斷行

スルヲ得ンヤ志氣ハ愈々衰退シ怯怖ノ念ハ愈々増加シ茲ニ再ヒ攻撃ヲ斷行セント欲スルモ各卒皆不安ノ念ヲ懷キ隨テ勇猛ナル動作得テ期スヘカラス安ソ能ク其目的ヲ達センヤ。

夫レ地形ノ利否及時刻ノ早遲ハ固ヨリ戰鬪ニ影響スル所決シテ小ナラス然レトモ之カ爲メ自己カ任務ノ要求ヲ拒絕スヘキモノニアラサルナリ今ヤ聯隊ハ沼津ヲ我有ニ歸セシト雖之ヲ以テ能事足レリト爲スヲ得ス其三島平野ニ於ケル状態ハ全ク彼カ厚キ幕内ニ在リテ推測タモ爲シ能ハサル所ナリ而カモ彼カ厚キ幕ノ周圍ハ障礙ヲ廻ラシ斥候ノ進入モ亦容易ニアラサルヘシ諸君或ハ言ハン香貫山ニ將校ヲ登ホサハ黃瀬川左岸ノ地區到ル所通視シ得ルヲ以テ其状態ノ發展ハ實ニ手ニ取ル如ク知ルヲ得ヘシト若シ夫レ斯ノ如キ覺束ナキ方法ヲ以テ自ヲ満足セハ恐ラク慘澹タル誤謬ニ陥ルヘシ香貫山頂固ヨリ廣大ナル展望界ヲ有セリ然トレモ各村落森林ヲ透過シテ其外側ヲ視ルハ人力ノ能ク爲ス所ニアラサルナリ安ソ能ク敵ノ注意深キ行動ヲ一々通視スルヲ得ンヤ之

ヲ以テ一ノ補助トナスハ勿論ナリト雖全然之ニ依頼スルカ如キハ騎兵聯隊長トシテ爲スヘキ事ニアラサルナリ是故ニ聯隊ハ我任務ノ要求ヲ充足センカ爲メ將ニ頓挫セントスル志氣ヲ挽回スル爲メ果敢ナル攻撃動作ヲ以テ再ヒ敵ヲ驅逐セサルヘカラサルナリ夫レ然リ然レトモ若干ノ諸君カ爲セシ如キ緩慢ナル處置ヲ以テセハ到底其目的ヲ達セサルヘシ何ヲカ緩慢ノ處置ト云フ曰ク聯隊長ハ直ニ第四中隊ヲ黃瀬川(村落)東端ノ堤防ニ増加シ且ツ該堤防南端附近ニ機關銃ヲ配置シ單ニ火力ノ増加ニ依リテ敵ヲ驅逐セント欲スルコト是レナリ凡ソ騎兵ノ火戰ハ歩兵ニ於ケルカ如ク長時ニ亘リ漸次猛烈ヲ加フルノ性質ヲ有セサレハ多少敵ニ優ルノ銃數ヲ排列シ得タリトスルモ其及ホス所ノ効果ハ實ニ不確實ナルヘシ故ニ余ハ諸君ノ此場合ニ於テ優勢ナル我機關銃ニ依頼スル所多キヲ信スルナリ然リ數ニ於テハ或ハ優ル所アラン然レトモ敵機關銃ノ位置ハ之ヲ確認シ得サルニアラスヤ之ニ反シテ我ハ全ク曝露シ而カモ其距離遠カラス彼我相及ホス所ノ威力ハ蓋シ數ノ多キヲ以テ論スヘカラサルヘシ

我操典草案ノ「能ク遮蔽サレタル機關銃ニ對シ十分ニ其位置ヲ確認セルトキニアラサレハ戦闘セサルモノトス」ト教示セルハ正サニ其射撃効力ノ寡少ナルヲ意味スルコト明カナリ則チ知ル諸君力依頼スル所ノ機關銃モ斯ノ如キ使用ノ下ニ在リテハ何等ノ効ヲ奏セサルヲ。

抑モ中石田ノ對岸ヨリ柿田ニ至ル一帶ノ地區ニ就テ敵ノ占領セル狀態ヲ考察セハ我ノ爲サント欲スル最モ有利ナル處置ヲ案出セラルヘシ中石田方面ハ正面ヨリ其騎銃火ヲ受ケ之加ノミナラス其猛烈ナル機關銃ノ縱射ハ如何ニ勇猛ナル軍隊モ之ニ向テ攻撃ヲ遂行スルヲ得サルヘシ長澤方面モ亦然リトス只夫レ柿田西北方無名部落方面ハ前二者ニ比シテ大ニ研究ヲ要スルノ價値アルヘシ何トナレハ此方面ハ長澤西北端ニ於ケル敵機關銃ノ勢力範圍外ニシテ殊ニ對岸ノ地ニ達シタル後ハ無名部落ノ敵ハ勿論長澤西端ニ對シテモ我火力ヲ逞シクスルヲ得ヘシ夫レ香貫山頂ヨリ望見シタル斥候ノ報告(柿田附近ニハ敵ノ部隊ヲ見ス)ハ如何ナル困難ヲ排除スルトモ此方面ニ向テ攻撃ヲ斷行セヨ

トノ勸告ニ外ナラサルナリ正サニ是レ好時機ナリ若シ一步ヲ躊躇セハ敵部隊ノ柿田附近ニ來着スルコトナシトセス形勢此ニ至ラハ最早攻撃ニ數層ノ困難ヲ來スヘシ。

黃瀬川(村落)東南方ニ於ケル兩岸ハ高起シ或部分ハ斷崖ヲ爲セルヲ以テ攀登稍々困難ナリト雖之カ爲メ我動作ヲ敵ニ秘匿シ其不意ニ出ツルヲ得ヘシ但シ右岸ヲ降ルニ際シ或ハ敵ノ發見ヲ免レサルコトアルヘシ然レトモ是等ヲ顧慮セハ終ニ攻撃ヲ斷行スル能ハサルナリ其敵眼ニ觸ルルノ故ヲ以テ攻撃ヲ斷念スルカ如キハ毫モ理由トスルニ足ラサルヘシ之ヲ要スルニ斯ノ如キ不利ハ萬一ノ場合ニ處スヘキ至當ナル方法ト迅速ナル動作トヲ以テ補フノ外他ニ手段ナキモノトス。

何チカ萬一ノ場合ニ於ケル至當ノ方法ト言フ曰ク部隊ノ徒涉スルニ方リテハ其隊伍ハ多少ノ混亂ヲ免レス水深愈々深ク流速愈々強キニ從ヒ殊ニ然リトス而シテ不秩序ニ對岸ニ達シタル際敵兵ノ我ニ近接シ突然猛烈ナル射撃ヲ指向

セラルルコトアラシカ我レハ一發ノ射撃ヲモ爲ス能ハスシテ忽チ崩壞スルニ至ルヘシ斯ノ如キ危險ヲ豫防センニハ我岸上ニ機關銃ヲ配備シ敵ノ企圖ニ對シテ十分ノ妨害ヲ與ヘサルヘカラス然レトモ前面ノ敵ニ對シ當初ヨリ射撃ヲ開始スルハ此場合ニ於テ之ヲ避クルヲ要ス何トナレハ之カ爲メ我企圖ヲ察知セラレ或ハ敵ノ機關銃ヲ此方面ニ持チ來ルコトナシトセサレハナリ故ニ射撃ノ準備ヲ整ヘ陣地ノ後方ニ潜伏シアルヲ要ス而シテ該陣地ハ成ルヘク自己カ渡河スヘキ場所ニ近接シアラサルヘカラス是レ機ニ遅レス對岸ニ達スルコト極メテ緊要ナレハナリ。

以上説述スル所ノ理由ニ基キ余ハ此場合ニ於ケル聯隊長トシテ今ヨリ左ノ部署ニ憑リテ攻撃ヲ斷行スヘシ。

一、機關銃隊ヲシテ射撃準備ヲ整ヘ東海道南方黃瀨川右岸ノ堤防ニ據リ蔭蔽シテ位置シ第四中隊ノ對岸ニ散開スルヲ待テ直ニ渡河シ成ルヘク東南方ノ地ニ在リテ射撃ヲ開始シ第四中隊ト協力シテ無名部落西北方及長澤

ノ敵ヲ攻撃セシム。

二、第四中隊ヲシテ東海道ノ南方ニ於テ努メテ敵ニ蔭蔽シテ渡河シ機關銃ト協力シテ無名部落西北方及長澤ノ敵ヲ攻撃セシム。

三、第二中隊ヲシテ現在ノ位置ニ在リテ長澤及無名部落西北方ノ敵ニ對シ第四中隊ノ渡河ヲ掩護セシム。

四、第三中隊ヲシテ一部ヲ以テ中石田東方ノ敵ヲ監視セシメ主力ヲ中石田西側適當ノ地ニ集結シ對岸ノ地ニ前進スル準備ニアラシム。

五、第一中隊(一小隊缺)及第五中隊(二小隊缺)ヲシテ黃瀨川(村落)ノ中央ヲ先頭トシ東海道上ニ集合シアラシム。

狀 況

午後四時二十分聯隊長ハ右ニ關スル命令ヲ各隊ニ與ヘ直ニ其任務ニ就カシメタリ但シ此時ニ至ルモ敵狀ハ依然トシテ變スル所ナカリシ。

午後四時二十五分第四中隊ハ兩川合流點ノ上流約三百米ノ處ニ於テ徒涉ヲ始

メタリ然ルニ河岸ヲ降ルニ際シ無名部落西北方ノ敵ヨリ射撃ヲ受ケタリシモ雲時ニ過キサリシヲ以テ損害ナカリシ此際機關銃ハ既ニ黃瀬川(村落)南方堤防ノ背後ニ位置シ堤防上ニ据銃スヘキ設備ヲナシツ、アリ他ノ諸隊モ亦各部署ヲ終レリ而シテ第二中隊ハ今ヤ勇氣ヲ鼓シテ長澤及無名部落西北方ノ敵ニ對シ更ニ火戰ヲ交ヘタリ又第三中隊ノ主力ハ中石田西側獨立標高一七、五ノ西ニ中隊縱隊ニ集合シアリ。

午後四時二十八分第四中隊ノ一部ハ既ニ柿田ノ西方約千米ニ在ル河岸ノ小森林中ニ散開シ未タ射撃ヲ開始セス他ハ尙ホ水中ヲ徒涉中ナリ此時機關銃ハ直ニ運動ヲ起シ第四中隊ノ渡河セシ所ニ向テ急進セリ。

午後四時三十二分第四中隊ハ全部ヲ以テ對岸ニ達シ前記小森林ノ東北方ニ前進シ茲ニ無名部落西北方ノ敵ニ向テ射撃ヲ開始セリ。

此際長澤方面ノ敵狀ハ依然トシテ變スル所ナシ只其機關銃ハ頻リニ第二中隊ニ向テ猛射シ之カ爲メ第二中隊ハ頭ヲ上クルヲ得ス又中石田東南端及其附近

モ時々掃射ヲ受ケツ、アリ。

午後四時三十五分敵ノ散開セル徒歩騎兵約三十長澤ノ東南端ヨリ駈歩ヲ以テ前進シ無名部落西北側ニ停止シ現在セル敵ト共ニ第四中隊ニ向テ射撃セリ之カ爲メ第四中隊ハ其優勢ナル火力ニ壓倒セラレ稍々悲惨ノ状態ヲ呈セリ。

午後四時三十八分機關銃隊長ハ其隊ニ先行シテ對岸ニ着シ直ニ陣地ノ偵察ニ從事シ且ツ第四中隊ノ状態ヲ見知セリ恰モ好シ此時二銃同時ニ到着セルヲ以テ銃隊長ハ直ニ第四中隊ノ左側後ニテ河岸ニ蔭蔽シテ銃ヲ据ヘ先ツ其増加セシ新銳部隊ニ向テ射撃ヲ開始セリ是ニ於テ戰況一變シ第四中隊ハ大ニ勇氣ヲ恢復セリ間モナク殘餘ノ二銃並ニ彈藥小隊モ到着シ茲ニ旺盛ナル志氣ヲ以テ猛烈ナル射撃ヲ集注セシニ敵ハ終ニ耐フル能ハスシテ午後四時四十五分東方ニ向テ潰走セリ各隊ハ熾盛ナル追撃射撃ヲ加ヘ次テ機關銃ハ全銃ヲ以テ長澤西端ノ敵ニ向テ猛射ヲ集中セシニ是レ又瞬時ニ其効果ヲ顯ハシ敵線大ニ動搖ヲ始メタリ時ニ敵ノ一部長澤東南端ニ顯出シ我ニ向テ射撃セシヲ以テ右翼

二銃ハ之二射撃ヲ轉向セリ騎兵聯隊長ハ黃瀨川(村落)ノ東端堤防ニ在リテ終始熱心ナル態度ヲ以テ此狀況ヲ望見シアリタリ。

間フ今ヤ聯隊長ハ依然此地ニ在ルヤ曰ク否、直ニ第二中隊長ニ命スルニ速ニ集合シテ前進スヘキヲ以テシ自ラ道路上ニ在ル第一第五中隊ヲ率ヒテ橋梁ヲ通過シ長澤ニ向テ突進セント、然リ動搖セル敵兵縱令機關銃ナルモ其射擊毫モ恐ルルニ足ラサルヘシ最早一瞬ノ猶豫ヲ與フルコトナク之ヲ蹂躪シ之ヲ突破シ以テ偉大ノ効果ヲ收メサルヘカラサルナリ。

此瞬時ニ與ヘラレタル單簡ニシテ明確ナル命令ハ直ニ實行セラレ先ツ第一中隊ハ運動ヲ起スヤ此際敵ノ機關銃ハ黃瀨川(村落)東端ニ射撃ヲ集注シ其勢猛烈ニシテ當ルヘカラス然レトモ此狀態ハ霎時ニシテ止メタリシカ最早長澤西端ニハ一兵ヲモ留メス只其東方若クハ南方ニ方リテ馬蹄ノ轟々然タル響キヲ彼此ノ地ニ聞キ得ルノミ。

聯隊長ハ直ニ前進シテ橋梁ヲ通過スルヤ長澤ノ南側ヨリ三島町ニ向テ敵ヲ急

追セント欲シ茲ニ聯隊縱隊ヲ作ルニ際シ長澤北方天神原ヨリ敵ノ騎兵約一中隊我ニ向テ襲撃シ來リツ、アルヲ見シ由テ之ニ應戰セントシ先ツ第一中隊ヲシテ其方面ニ橫隊ヲ作ラシメ次テ他ノ中隊ニモ戰鬥ノ準備ヲ命セリ此時恰モ第三中隊ハ中石田ヨリ突進シ來リ未タ黃瀨川ヲ通過シ終ラサルモ正ニ敵ノ右翼ヲ衝クヘキ位置ニアリシヲ以テ敵ハ北方ニ背轉セリ是ヲ以テ聯隊長ハ第二中隊ヲシテ此敵ヲ追撃セシメ第一、第五、第二中隊ヲ率ヒ東海道南側ヲ三島ニ向テ前進セリ但シ第四中隊及機關銃隊ハ速ニ乘馬シ第二中隊ノ後方ニ跟隨スヘキコトヲ命セリ時ニ第四中隊ハ長澤ト其南方無名部落トノ中間ニ機關銃隊ハ該無名部落ノ西北約三百米ノ處ニ在リ但シ第四中隊ハ既ニ其彈藥ヲ渴盡シ機關銃隊モ亦僅ニ其四分一ヲ餘スノミナリシ。

午後五時聯隊ハ新宿ノ東南側ニ達セリ時正サニ日暮ニ際シ十分二三島方面ヲ展望シ得ス此際突然三島町ノ南側ヨリ數回ノ一齊射撃ヲ受ケタリ幸ニシテ其彈着遠ク前方ニ在リシヲ以テ二三ノ負傷者ヲ出セシノミ然レトモ其射撃ノ狀

態ニヨリ確ニ騎兵ニアラサルヲ察知セラルヘク又其兵力モ二百人ヲ降ラサルモノノ如シ此時既ニ第四中隊及機關銃隊モ到着シアリタリ。
聯隊長ハ第一中隊ノ一小隊ヲ殘シ三島町方面ヲ警戒セシメ他ヲ以テ取敢ヘス長澤ニ引退セリ。

午後五時五分聯隊長ハ長澤東端ニ於テ小林方面ニ在リシ騎兵小隊ヨリ次キノ報告ヲ受ケタリ曰ク。

一、午後四時五十分敵ノ守備兵ハ陣地ヲ撤セシテ以テ小隊ハ直ニ之ヲ追躡セシニ上土狩方向ニ退却セリ其兵力約二小隊ナリシ又同時頃三島町ノ北方ヨリ敵ノ騎兵約一中隊幸原ニ進入セリ。

二、小隊ハ中土狩西方鐵道附近ニ在リテ幸原上土狩及納米里方向ヲ警戒セントス但シ下長窪及納米里ニハ橋梁存在セリ。

同時中石田北方對岸ヨリ北方ニ退却セル敵ノ騎兵ヲ追躡ヤシ第三中隊ヨリ報告アリ曰ク

一、退却セシ敵ノ騎兵ハ三島町西北端本覺寺附近ニ於ケル敵ノ一部隊ニ收容セラレ幸原ニ退却セリ。

二、中隊ハ斥候ヲ三島町北端並ニ幸原方面ニ出シ主力ハ目下下土狩ニアリ嚮キニ小林方面ニ在リシ我騎兵小隊ハ中土狩西方鐵道附近ニアリテ上土狩及納米里方面ヲ搜索中ナリ。

次テ青木(三島町南方約千四百米)方面ヨリ三島町方面ヲ搜索セシ將校斥候ノ報告アリ曰ク。

一、嚮キニ新宿方向ニ一齊射撃ヲ爲セシ敵ハ輕裝セル歩兵ナルカ如シ但シ此敵ハ塚原新田方向ヨリ急進シ來リ三島町南端下田街道(同處ヨリ大塲ニ通スルモノ)ノ西側ニ散開シテ射撃セシナリ其兵力約二百人ヨリ多カラス。

二、三島町南端下田街道ノ東側ニハ敵ノ騎兵約二中隊集合シアリ又其西端水車房附近ハ徒歩セル部隊ヲ以テ占領シアリ。

三、新宿ノ東方ヨリ玉川ヲ經テ南方ニ流ルル小川並ニ下田街道東方ヲ流ルル小川ハ共ニ橋梁ノ外通過スルヲ得ス。
午後五時十五分狩野川左岸ヲ德倉ニ向テ前進セシ斥候歸來セリ其報告スル所ノ要旨左ノ如シ。

一、狩野川左岸ヲ退却セシ敵ハ更ニ湯川(北部德倉ノ東方)ノ西端ヲ守備セシニ午後四時五十分ニ至リ中里村ニ向テ退却セリ斥候ハ直ニ之ヲ追躡セシニ敵ハ中里村梅名ノ西端ニ停止シ我ニ向テ射撃ヲ爲セリ斥候ハ直ニ中里村西南方約千三百米ノ下(部落ノ名)ニ移リ大場方面ヲ搜索セシニ此附近ニハ敵ノ部隊アラサルモノノ如シ。
二、南部德倉及大平村ノ橋梁ハ共ニ陷落シ其跡影ヲ留メヌ又北部德倉ノ上流ハ到ル所徒涉シ得サルモノノ如シ。

午後五時二十分新宿附近ニ在リテ三島町方面ヲ監視セル第二中隊ノ第三小隊ヨリ次ノ報告アリ曰ク

一、敵ハ三島町西北端本覺寺附近ヨリ同町西端ヲ經テ其南方約七百米ニ在ル橋梁ニ亘リ哨兵ヲ配置シアリ。

但シ三島町西端水車房並ニ其北方寺院ノ附近ハ工事ヲ施設シ僅少ノ部隊ヲ以テ之ヲ守備シアリ。

二、斥候ノ報告ニ由レハ青木ニハ少クモ騎兵一小隊在リ且ツ新谷ノ西端ニ哨兵ヲ配置シアリト又小松宮別邸ヨリ三島町西端ヲ經テ新谷ニ向テ流ルル小川ハ新谷ノ北方約五百米ヨリ上流ハ橋梁ノ外通過スルヲ得スト。

午後五時二十五分下土狩附近ニ在ル第三中隊及中土狩西方鐵道附近ニ在ル小隊ヨリ報告アリ其要旨次ノ如シ。

一、敵ハ幸原東南端ヨリ上土狩ヲ經テ納米里ニ亘リ哨兵ヲ配置セリ而シテ幸原西端無名祠前及上土狩南端ニハ中土狩ニ面シテ單簡ナル工事ヲ施設セリ又上土狩ノ西方無名部落ノ南端ニモ工事ノ如キモノヲ見ル。

二、三島町西北端本覺寺附近ニハ敵兵少ナクモ一小隊アリ且ツ其西方ニ單

簡ナル工事ヲ施設セラレアリ。

三、下長窪ニハ既ニ我小隊ヨリ一分隊ヲ出シ納米里及南一色方面ヲ監視セシメアリ且ツ下長窪ノ橋梁ニハ阻絶ヲ施設シアル筈ナリ。

問 題

以上ノ狀況ニ對シ騎兵聯隊長ハ今ヨリ如何ナル事ヲ爲サントスルヤ。

右答解ニ關スル講評及意見

連戰連勝ノ榮譽ヲ擔フテ志氣殊ニ振々タル騎兵聯隊モ今ヤ暗黒ナル時刻ノ襲フ所トナリ全ク活動ノ餘地ヲ奪ヒ去ラレタリ諸君ノ今ヨリ宿營ニ移ラントスル考案ハ余モ亦事實ニ於テ敢テ反對ヲ唱フル能ハサル所ナリ然レトモ之カ爲メニ爲スヘキ軍隊ノ區處ニ關シ余ハ其根本ノ主旨ニ於テ並ニ其警戒ノ方法ニ於テ全ク同意スルヲ得サルナリ余ハ先ツ其警戒ノ方法ヨリ論セントス夫レ遠ク本隊ノ前方ニ在リテ動作スル所ノ騎兵ハ晝間ト夜間トヲ問ハス全ク自己ノ獨力ヲ以テ總テノ事項ヲ處理セサルヘカラサルナリ然ルニ廣大ナル區域ニ各

部隊ヲ配置シ以テ警戒スルニ恰モ混成前哨ノ場合ニ於ケルカ如キハ決シテ自己掩護ノ確實ヲ求ムル所以ニアラサルヘシ蓋シ混成前哨ニ在リテハ自己ノ掩護ハ間フ所ニアラスシテ全ク本隊ノ爲メニ警戒スルモノトス而シテ其後方ニハ歩兵ノ前哨部隊アルヲ以テ強固ナル抵抗力ヲ必要トセス故ニ通常廣大ナル區域内ニ配布シ以テ其搜索ノ範圍ヲ減少セシメサルヲ要スヘシ之ニ反シテ獨立シテ宿營スル所ノ騎兵ニ在リテハ其警戒全ク自己ノ掩護ニアリ故ニ強固ナル抵抗力ヲ有セサルヘカラサルナリ又之カ爲メニ天然ノ地形並ニ人工ニ依リテ益々其強度ヲ増加セサルヘカラサルナリ是ニ於テカ狹小ナル地域ニ於テ而カモ警戒ニ要スル兵力ヲ節減シ得ヘク而シテ本隊ヲシテ戰備ヲ取ラシムル間ハ十分ノ抵抗ヲ爲シ得ヘキ場所ト方法トヲ是非トモ必要トスルニ至ルヘシ(野外要務令第七十二及第七十三參照)諸君カ爲シアル所ノ久米田(玉川南方)若クハ堂庭(柿田東方)ヨリ新宿及下土狩ヲ經テ中土狩ニ亘リ警戒シ其主力ヲ長澤若クハ本宿或ハ中石田附近ニ宿營セシムルカ如キハ果シテ上述ノ要求

ニ合スルヤ否ヤ蓋シ斯ノ如キ廣大ナル前哨線ハ到ル所薄弱ニシテ少時間ト雖到底本隊ヲ安全ニ掩護スルヲ得サルヘシ。

然リト雖以上説述スル所ハ宿營ナリ宿營ハ讀ンテ字ノ如ク軍隊ヲ休宿セシムルモノニシテ決シテ戰鬪ノ準備ニアラサルナリ諸君試ニ思ヘヨ午後四時以後ニ於ケル戰況ヲ彼我ノ歩兵ニヨリテ演セラレシモノト、果シテ然ラハ戰鬪ハ日ノ暮ルルカ爲メニ中止シタルモノニシテ決シテ局ヲ結ヒタルニアラサルナリ即チ全隊戰鬪準備ノ隊形ニ展開シテ露營スルノ時ニアラスヤ敵ハ固ヨリ彼此ノ地ニ於テ敗退セリ然レトモ其打撃ヲ受ケシハ僅ニ一部ニ過キサルナリ今ヤ秩序ヲ恢復シ整然タル状態ヲ呈セリ加フルニ僅少ナルニモセヨ歩兵ノ來加スルアリ安ソ之ヲ通常ノ場合トシテ看過スルヲ得ンヤ騎兵戰鬪ノ性質ハ全ク歩兵ト異ナリ故ニ歩兵ノ如ク戰鬪準備ノ隊形ニ展開シテ休止スルカ如キハ決シテ必要トセサルナリ然レモ茲ニ殆ト是レト同一程度ニマテ要求セサルヘカラサルコト即チ黃瀨川ノ諸橋梁ヲ是非共守備セサルヘカラサルコト是レナリ若

シ夫レ前述宿營ノ要領ニ從フテ自己ノ安全ニノミ之レ顧慮スルナラハ全隊ヲ以テ黃瀨川ノ右岸ニ移ルヘキナリ然レモ是レ任務ノ要求ヲ放棄シタルモノニシテ若シ黃瀨川ヲ敵有ニ歸セハ當ニ戰術上ノ誤謬トシテ寛假スヘキニアラス正サニ其怠慢ノ責ヲ免レサルモノト是故ニ當夜ニ於ケル騎兵聯隊ハ自己カ宿營ヲ警戒セシムル爲メニ前哨部隊ヲ配布スルニアラスシテ全力ヲ擧ケ最モ確實ナル方法ヲ以テ黃瀨川ノ諸橋梁ヲ保持セサルヘカラサルナリ縱令前述ノ要領ニ從フテ獨立セル騎兵ノ警戒法ニ適當セル處置ヲ取リシトスルモ苟モ此主旨ヲ有セサレハ根本ニ於テ大ナル誤謬アルモノトス而シテ黃瀨川ノ諸橋梁ヲ確實ニ保持センカ爲メニハ僅少ナル一二部隊ヲ以テ廣大ナル正面ニ配布スルカ如キ單純ナル方法ヲ以テセント欲スルハ全ク日没前ニ於ケル狀況ヲ無視シタルモノニシテ大膽ト云ハンヨリハ寧ロ怠慢ト言フヲ以テ至當トスヘシ。夫レ黃瀨川ノ諸橋梁ヲ確實ニ守備スルコトハ決シテ容易ノ業ニアラサルナリ何トナレハ延長殆ト一里ニ亘ル線上ニ兵力ヲ撒布セントモハ聯隊ノ全力ヲ使

用スルモ尙ホ足ラサレハナリ是故ニ守備スヘキ各橋梁ニハ各獨立セル守備隊ヲ宛テ以テ其負擔セル部分ニ全力ヲ傾注シ猛烈ナル敵ノ攻撃ニ對スルモ長時間之ヲ抗拒シ得ヘキ程度ニ陣地ヲ鞏固ナラシムルヲ要ス而シテ兩守備隊ノ中間ハ敢テ顧慮スルヲ要セス何トナレハ守備隊ノ配置宜シキヲ得ハ其側背ニ迫ラルルカ如キコト之レナケレハナリ若シ夫レ守備隊ヲシテ遠ク橋梁ヨリ離隔セシメハ上述ノ不利ヲ免ルル能ハス此害ヲ避ケント欲セハ之力爲メ多クノ兵力ヲ要シ而カモ其確實ヲ保障スルヲ得サルナリ。

之ヲ要スルニ守備隊ハ狹小ナル正面ヲ以テ確實ニ守備シ得ヘキ陣地ヲ選定スルヲ第一ノ要件トシ橋梁ニ對スル遠近ノ如キハ必スシモ此場合ニ於テ必要トセサルナリ。

以上説述スル所ノ理由ニ由リ余ハ此際ニ於ケル騎兵聯隊長トシテ左ノ如キ部署ヲ爲スヘシ。

一、第二中隊ヲシテ八幡東南方長池ノ北端ヨリ八幡ノ西北方細流ニ亘ル間

ヲ占領シ青木ヨリ三島町西北端ニ亘ル間ニ對シテ警戒セシム、機關銃二銃ヲ屬ス但シ一部ヲ柿田東端ニ出シ該地橋梁ノ監視ニ任シ且ツ要スレハ單筒ナル阻絶ヲ施サシム。

二、第二中隊ヲシテ本宿東端附近ヲ占領シ三島町ヨリ上土狩ニ亘ル間ニ對シテ警戒セシム。

機關銃二銃ヲ屬ス。

三、第一中隊第四小隊(中土狩西方鐵道附近ニ在リシ小隊)ハ北部小林ヲ占領シ幸原ヨリ納米里ニ亘ル間ニ對シテ警戒セシム。

四、以上ノ諸隊ハ敵襲ニ際シ各其方面ニ在ル橋梁ヲ固守セシム之力爲メ成シ得ル限り陣地並ニ必要ナル部ニ工事ヲ施設セシム。

五、其他ノ諸中隊ハ豫備トシテ黃瀬川(村落)ノ西端ニ位置セシム但シ一部ハ戰鬪準備ヲ爲サシメアルモ他ハ一三家屋ヲ使用シテ警急舍營ニ於ケルカ如キ状態ヲ以テ睡眠ヲ爲サシム。

但シ第五中隊ヨリ將校ノ指揮スル半小隊ヲ中石田東方ニ出シ徒涉場ヲ監視シ且ツ第二及第三中隊ト連絡ヲ保持セシム又第四中隊ヨリ斥候ヲ狩野川右岸ノ北部徳倉ニ出シ該地橋梁ヲ監視セシム。

六、本夜ニ於ケル給養ハ現在セル地ニ於テ成ルヘク之ヲ求メ已テ得サルモノハ携帶糧秣ヲ使用セシム。

状 況

午後五時三十分聯隊長ハ右部署ニ關スル命令ヲ各隊ニ降シ終レリ而シテ各隊ハ各其任務ニ從テ動作ニ從事セリ日暮以來前面彼此ノ地ニ於テ或ハ一齊射擊或ハ瞬時ノ急射若クハ間斷ナキ緩徐ナル銃聲等ヲ以テ繼續シ來リシ狀況ハ今ヤ沈靜シ寂トシテ聲ナキニ至レリ只時々三島町ノ西端若クハ幸原方面ニ於テ單射ノ響ヲ聞クノミナリシ。

午後七時過キ聯隊長ハ黃瀬川(村落)西北端寺院ニ其位置ヲ占メ警備及休憩ニ關スル區處ヲ定メ茲ニ休止ノ姿勢ニ移ルヲ得タリ。

午後二時四十分以來ノ狀況ハ其都度支隊長ニ向テ報告セラレタリ而シテ今ヤ行進中架設シ來リシ電話線ハ沼津町ニ到着シ且ツ聯隊長ハ支隊本隊ノ午後六時三十分頃吉原ニ到着シ本夜該地ニ宿營スヘキコトヲ知レリ次テ支隊ノ宿營ニ關スル概略ノ命令並ニ聯隊ノ行動ニ關シ支隊長ハ非常ニ満足ニ堪ヘストノ賞語ヲ電話ニテ受領セリ尙ホ貴隊ノ彈藥ノ使用ヲ顧慮シ補充ノ爲メ午後七時吉原ヲ出發セシメシヲ以テ到着ノ上ハ然ルヘク處理セラレタシトノ通知ヲモ受ケタリ。

午後六時以來守備ニ任セシ各隊ハ地方人民ノ遺棄シアリシ耕作用器具ヲ使用シ午後十一時頃ニ至リ其占領地内必要ナル部分ニ工事ヲ施設シ終レリ而シテ此時ニ至ルマテ三島町並ニ幸原、上土狩方面ノ狀況ハ頗ル靜肅ニシテ何等ノ異狀ヲ認ムル所ナカリシ但シ二三斥候ノ我警戒兵ノ前面ニ出沒スルコト及彼我斥候ノ衝突ヨリ生スル單射ノ響ハ絶フルコトナカリシ。

午後十一時四十分聯隊長ハ電話ニテ翌日ニ係ハル支隊命令ヲ受領セリ其要旨

左ノ如シ。

- 一、騎兵聯隊ハ前任務ヲ繼續シ若シ已ムヲ得サルモ成シ得ル限り黃瀬川ノ諸橋梁ヲ失ハサルコトヲ努ムヘシ。
- 二、支隊ハ明日遅クモ午前十時マテニ本隊ヲ以テ沼津町ニ到着スヘキ豫定ニテ早朝吉原ヲ出發シ一部ヲ以テ愛鷹山脚ヲ通スル道路ヲ主力ヲ以テ東海道ヲ前進セントス。

問 題

騎兵聯隊長ハ以上ノ狀況ニ由リ如何ナル決心ヲ爲シ又其決心ニ基キ如何ナル命令ヲ降スヤ。

右答解ニ關スル講評及意見

夫レ爾後ニ於ケル狀況ノ變遷ハ固ヨリ之ヲ計リ知ルヘカラサルナリ然レトモ其計リ知ルヘカラサルカ故ニ未タ如何ナル決心モ爲スコト能ハストセハ何時ニ至ルモ終ニ斷乎タル行動ヲ爲シ能ハサルニ至ルヘシ今ヤ聯隊長ハ支隊命令

ニ接シ自己ノ任務並ニ支隊長ノ企圖ヲ明カニ知悉セシヲ以テ之ニ對スル意思ナクンハアルヘカラス既ニ意思ヲ有セハ之ヲ斷行スヘキ確乎不拔ノ決心ヲ爲ササルヘカラス。

抑モ聯隊ハ連勝ノ名譽ヲ博シタリト雖敵ハ尙ホ近ク三島町並ニ上土狩ニ在リテ一ノ障壁ヲ成形シ之ニ依リテ其内部ノ狀態ヲ全ク暗黒ノ内ニ障蔽シ且ツ我行動ヲ小區域ニ制限セリ是ヲ以テ我任務ヲ遂行センカ爲メニハ是非トモ此障壁ヲ破壊セサルヘカラサルナリ是レ騎兵聯隊長ノ有スヘキ意思ニシテ而カモ頗ル健剛ナラサルヘカラス何トナレハ任務ノ要求ハ如何ナル難事ヲモ之ヲ拒絶シ得サルモノナレハナリ是ニ於テカ「敵ヲ攻撃セントス」トノ決心ヲ爲スニ至ルヘシ諸君或ハ言ハン日没當時ニ於ケル敵ハ固ヨリ之ヲ攻撃シ得ヘキモ爾後更ニ増加隊ヲ得シヤ實ニ知ルヘカラスト然リ之レ有ルヲ知ルヘカラスト然レトモ之レ無キモ亦知ルヘカラスト且ツ此事ハ何レノ時期ニ至リ確知シ得ルヲ期スヘカラサルナリ蓋シ戰鬪前ハ勿論戰鬪後ト雖之ヲ確知シ得サルコト往々然

リトス況ヤ増加隊ノ來着スルカ如キ狀況ハ毫モ考察シ得ラレサルニ於テチヤ之ヲ要スルニ決心ヲ爲スニハ任務及當時ニ於ケル狀況ノ判定ニ由ルモノニシテ徒ラニ陰影的想像ヲ懷カハ何事モ得テ斷行セラレサルヘシ夫レ然リ而シテ之ヲ攻撃スルニ就テハ固ヨリ三島町方面ナル一ハ更ニ喋言ヲ要セサルヘシ。以上ノ理由ニ基キ騎兵聯隊長ハ明朝三島町ノ敵ヲ攻撃スルノ決心ヲ以テ次キノ命令ヲ降セリ。

騎兵第一聯隊命令

一月十六日午後十一時五十分
於 黃瀬川(村落)

- 一、敵狀ハ日没以來未タ變化ヲ認メス唯我各守備隊ノ前面ニ二三斥候ノ出沒シアルニ過キス。
- 支隊ハ明十七日早朝吉原ヲ出發シ一部ヲ以テ愛鷹山脚ヲ通スル道路ヲ主力ヲ以テ東海道ヲ前進シ午前十時頃ニハ沼津町ニ到着スル筈。
- 二、聯隊ハ明朝三島町ノ敵ヲ攻撃スルノ目的ヲ以テ先ツ主力ヲ長澤附近ニ集合セントス。

三、各守備隊ハ各其陣地ニ在リテ警備ヲ嚴ニシ後命ヲ待ツヘシ。

四、第一(一小隊缺)第四、第五(一小隊缺)中隊ハ午前五時黃瀬川(村落)西北側畑地ニ集合スヘシ。

五、余ハ午前五時黃瀬川(村落)西北端寺院前ニ在リ。

右命令ハ各隊ノ受領者ニ口達シテ之ヲ筆記セシメ又各守備隊ニハ筆記シテ送達セリ。

此時補充彈藥到着セシヲ以テ直ニ之ヲ分配シ各隊ハ殆ト其定數以上ヲ充足シ得タリ。

一月十七日拂曉前ニ於ケル騎兵聯隊ノ動作

狀況

午前三時三十分頃ヨリ長澤ニ在ル第二中隊ノ前面ニハ斥候ノ顯出頻繁ニシテ時々猛烈ナル射撃ヲ加フルコトアリ仍テ中隊ハ陣地ニ十分ノ兵力ヲ配置シ其警備ヲ一層嚴重ニセリ。

午前四時四十分頃敵ノ一部隊東海道北側ニ沿フテ第二中隊ノ左翼前約百五十米ノ處ニ來リ突然射撃ヲ開始セシテ以テ茲ニ彼我ノ間ニ猛烈ナル火戦ヲ交フルニ至レリ中隊長ハ親シク此狀況ヲ見且ツ此方面ニ於ケル我兵力ヨリ優勢ニシテ而カモ歩兵ナルコトヲ推知シ得タルノミナラス其射撃ノ状態頗ル猛烈ナルヲ認メタリ。

間フ此際ニ於ケル中隊長ハ之ニ對シテ何事カ爲スヤ曰ク沈着ナル態度ヲ以テ部下ニ安靖ヲ與フルノ外何事モ爲ササルヘシ然リ其優勢ナルト其歩兵ナルトハ未タ以テ中隊長ノ確然タル意思ヲ動カスニ足ラサルナリ我工事ノ施設ハ劣勢ヲ補フニ足ルヘク武器ノ効力ハ近距離ニ於テ殆ト均一ナルヘク否寧口委託ノ効用ハ我ニ若干ノ加算ヲ與フルモノトス然ルニ諸君カ爲セル如ク東海道南側ノ守備兵ヲ割キテ之ヲ増加セントスルハ只目前ノ敵ニ眩惑セラレテ、ヨリ危険ナル戦況ノ生センコトヲ顧慮セサルモノト謂ハサルヘカラス何トナレハ此際若シ更ニ東海道南側ヨリ我ニ向テ襲撃シ來ランカ一旦北側ニ増加シタル部

隊ヲ再ヒ南側ニ使用スルカ如キハ交戦中決シテ爲シ得ヘキ事ニアラサルナリ夫レ一方ニ對シテ猛烈ナル射撃ヲ以テ牽制シ之ニ乘シテ他方ヨリ一舉ニ突撃シ來ルハ夜間戦闘ニ於テ往々起ルヘキ現象ナリ是故ニ銃聲ノ爲メニ自己カ意思ヲ奪ハルルカ如キ指揮官ハ敵ノ夜襲ニ堪ヘ得サルモノナルヘシ。

此時聯隊長ハ恰モ黃瀬川(村落)西北側ノ集合地ニ在リテ突然起リシ猛烈ナル銃聲ヲ聞ケリ而シテ各隊ハ未タ集合ヲ終ラサリシ由テ第一中隊長ヲシテ速ニ各隊ヲ集合セシメ且ツ後命ヲ待ツヘキコトヲ命シ自己ハ直ニ長澤ニ前進セリ。

果セル哉長澤北側ニ於ケル火戦約五分ノ後南側ヨリ敵ノ部隊我ニ向テ突撃シ來レリ然レトモ中隊長ノ堅確ナル意思ハ能ク部下ニ沈着ヲ與ヘ機關銃及騎銃ノ正面ヨリスル火力ハ彼ノ企圖ニ一大頓挫ヲ與ヘ我陣地前ニ停止セシムルニ至レリ是ニ於テカ又猛烈ナル火戦ヲ交フルニ至レリ然レトモ如何ニ勇猛ナル歩兵ト雖十分ナル準備ヲ爲シアル機關銃ニ對シテ而カモ至近距離ニ於テハ長

時ノ抵抗ニ堪ヘ得ヘキモノニアラサルナリ敵ハ數分ノ後終ニ潰亂ヲ來シ三島方面ニ敗走シ次テ北側ノ敵兵モ退却スルニ至レリ時ニ午前五時二十分ナリ其遺棄セル屍體ニ由リテ確ニ歩兵ナルコトヲ認メラレタリ又其兵力不詳ナルモ百人ヲ降ラサルヘシ。

午前五時二十分潰走セシ敵ヲ追躡セシ斥候(徒歩セル騎兵一分隊)ヨリ次キノ報告アリ曰ク

一、南側ヲ潰走セル敵ノ大部分ハ新宿ノ東南方ヨリ青木方向ニ、北側ノモノハ本覺寺ニ向テ退却セリ。

二、三島町東端及其南方約二百米附近並ニ本覺寺及其南方寺院ノ西側ニ敵ノ部隊アリ且ツ工事ヲ施設シアルモノノ如シ又其警備頗ル嚴重ニシテ、我ノ近接ヲ許サス。

同時第三中隊及北部小林ヲ占領セル第一中隊ノ第四小隊ヨリ報告アリ其要旨次キノ如シ。

一、幸原及上土狩ハ依然敵ノ占領スルアリ且ツ其警備頗ル嚴重ナリ又南一色方面ニハ絶ヘス敵ノ斥候出沒シアリ。

此時天未タ明ケス殊ニ天候不良ノ爲メ四面尙ホ暗黒ナルヲ以テ聯隊長ハ暫ク此姿勢ヲ保持シ且ツ成シ得ル限り兵力ヲ長澤方面ニ集結セント欲シ午前五時四十五分各隊ニ左ノ命令ヲ降セリ。

騎兵第一隊命令

一月十七日午前五時四十五分
長澤西端

一、過刻第二中隊ノ正面ヲ攻撃シ來リシ敵ハ歩兵ニシテ多大ノ屍體ヲ遺棄シテ敗走セリ其兵力不詳ナルモ百人ヲ下ラサルヘシ。

二、聯隊ハ現在ノ姿勢ヲ保持シテ天明ヲ待タントス。

三、第二中隊ハ現在ノ姿勢ヲ保チ且ツ益々其警備ヲ嚴重ニスヘシ但シ彈藥ハ後刻第四第五中隊ヨリ補充セシム。

四、第三中隊ハ天明ヲ待チ主力ヲ以テ中土狩附近ニ至リ幸原、上土狩及納米里方面ヲ搜索シ且ツ聯隊ノ左側背ヲ警戒スヘシ但シ第一中隊ノ第四小隊

騎兵ノ搜索

ハ後刻其所屬中隊ニ復歸セシムル筈。

六六

其中隊ニ屬シアル機關銃ハ午前六時三十分長澤西端ニ到リ銃隊長ノ指揮下ニ復セシムヘシ。

五、第一中隊ノ第四小隊ハ午前六時三十分其陣地ヲ撤シ長澤西端ニ在ル第一中隊ニ復歸スヘシ。

六、第四第五中隊ハ直ニ前進ヲ起シ長澤西端ニ至ルヘシ但シ携帯セル彈藥約半數ヲ第二中隊ニ補充スヘシ。

七、余ハ長澤西端ニ在リ。

支隊ノ動作

一月十六日夜ニ於ケル支隊ノ狀況

十六日午後五時三十分支隊長ハ支隊本隊ノ先頭ニ在リテ本市場村東端ニ達シ茲ニ吉原附近ニ宿營スルコトニ決シ各隊ニ命令ヲ發セリ但シ行進中午後三時三十分以前ニ發セラレシ騎兵聯隊長ノ報告ハ總テ逐次ニ之ヲ受領セラレタ

リ。

凡ソ軍隊ノ宿營スルニ方リテ先ツ決定スヘキハ其警戒並ニ宿營ノ方法は是レナリ而シテ之ヲ決定スルニハ敵狀、地形並ニ明日ニ關スル區處ヲ顧慮セサルヘカラサルモノトス。

夫レ午後三時三十分後ニ於テ我騎兵聯隊ノ沼津町西端ヲ占領セル敵ノ騎兵ヲ擊攘シ得タルト否トハ支隊ノ警戒及宿營ノ方法ニ關シ甚シキ顧慮ヲ要セサルヘシト雖其本隊ノ既ニ三島附近ニ到着シアルト否トハ其之ニ影響スル所大ナルヘシ而カモ其騎兵ニ代リテ沼津町ヲ占領セラルルニ至リテハ殊ニ然リトス而シテ此事ハ決シテ之ヲ考慮ノ外ニ放棄スルヲ得サルモノトス蓋シ敵ニシテ十三日東京ヲ出發シ我ニ向ツテ陸續前進シ來レリトセハ遅クモ本日頃到着シ得ヘケレハナリ果シテ然ルトセハ支隊ハ近ク敵ヲ控フルヲ以テ其警戒並ニ戰鬪準備ヲ嚴重ニシ毫モ遺漏ナカラシメサルヘカラス夫レ然リ然レトモ原宿以西ノ地區ハ沼津及浮島沼ノ爲メ狹小ナル地域ヲ更ニ制限シ以テ西方ニ通スル

ニ只二條ノ道路ヲ以テセルノミ且ツ其北方高地モ錯雜セル凹地及繁茂セル松林ノ爲メ軍隊ノ運動ヲ至難ナラシムルアリ故ニ此附近ニ在リテハ晝間ト雖大ナル兵力ヲ使用スルヲ得ス況ヤ夜間ニ於テチヤ總令敵ニシテ優勢ナル兵力ヲ以テ夜襲シ來ルトモ道路上ニ於ケル一部ノ兵力ヲ以テ之ヲ抑止スルコト決シテ難キニアラサルヘシ是ヲ以テ支隊ノ本夜ニ於ケル警戒ハ前述ノ顧慮アルニモ拘ハラス地形ノ恩惠ニ依リ最モ簡約ナル方法即チ敵方ニ通スル東海道及吉原、佐野街道上ニ警戒部隊ヲ出スヲ以テ足レリトスヘシ而シテ此部隊ノ警戒スヘキ正面ハ頗ル狹小ナルヲ以テ其兵力モ亦大ニ節約セラルルヲ得ヘシ蓋シ警戒部署ノ簡約ナルハ速ニ軍隊ヲ宿營ニ就カシメ得ルヲ以テ日没後ニ到着セルカ如キ場合ニ在リテハ勉メテ此方法ヲ選用シ以テ軍隊ヲシテ無益ノ疲勞ヲ避ケシムルハ須ヘカタク指揮官ノ注意スヘキ事ナルヘシ。

是ニ於テカ如何ニ警戒部隊ヲ區處セハ最モ簡約ニシテ而カモ本隊ノ掩護確實ナルヤノ問題ヲ提起スヘシ余ハ之ニ答ヘテ言ハントス曰ク本日ノ軍隊區分ニ

於ケル前衛ヲ東海道上今井村附近ニ、更ニ他ノ一部隊ヲ吉原、佐野街道上比奈村附近ニ出スヘシト然リ此際警戒ニ要スル兵力ヲ前衛ヨリ抽取シテ之ニ宛テ他ヲ本隊ト共ニ宿營セシムルカ如キ或ハ前衛本隊ヨリ東海道及吉原、佐野街道方面ニ各一個ノ前哨本隊ヲ出シ若クハ東海道方面ニ於ケル前哨本隊ヨリ吉原、佐野街道方面ニ前哨中隊ヲ出スカ如キハ共ニ稍々簡約ヲ脱シテ將サニ繁雜ノ域ニ入ラントスルモノナリ且ツ夫レ支隊ハ敵ノ沼津町ヲ占領シアルト將タ三島附近ニ停止シアルトヲ問ハス是非トモ之ニ向ツテ前進セサルヘカラサルナリ故ニ前進ニ際シ各部隊ノ各其本屬ニ復歸スル爲メ特ニ手數ヲ要シ若クハ前進ノ爲メ無益ノ集合ヲ爲ササルヘカラサルカ如キハ成ルヘク之ヲ避ケサルヘカラサルナリ之ヲ要スルニ軍隊ハ行進ノ區處ヲ以テ其儘停止シ以テ警戒部署ヲ定ムルヲ最モ簡約ナル方法トス。

吉原宿ハ固ヨリ本隊ノ全力ヲ宿營シ得ヘキ供給力ヲ有スルナラン然レトモ一地ニ各部隊ヲ群集セシメ爲メニ前進ノ際ニ於ケル集合ヲ混雜ナラシムルハ決

シテ利トスル所ニアラス且ツ既ニ述フルカ如ク警戒部隊ノ掩護頗ル確實ナルヲ以テ特ニ狭小ナル區域ニ本隊ヲ集結セサルヘカラサルノ必要ナカルヘシ故ニ前進ノ際ニ於ケル集合ノ便ヲ顧慮シテ適宜ニ分宿セシメ且ツ十分ノ休養ヲ爲サシムルコトヲ勉ムヘシ。

以上述フル所ノ理由ニ基キ本夜ニ於ケル支隊ノ警戒及宿營ノ區處ハ左ノ如クナルヲ適當トスヘシ。

- 一、前衛(歩兵第一聯隊(第三大隊缺)騎兵第一聯隊第五中隊ノ一小隊工兵第一大隊第一中隊)ハ其本隊ヲ以テ鈴川村及今井村ニ舍營シ前哨本隊(大隊長ノ指揮スル歩兵二中隊及騎兵二分隊)ヲ大野新田ニ出シ沼津方向ヲ警戒セシム。

- 二、歩兵第二聯隊第一大隊(騎兵半小隊ヲ屬ス)ハ主力ヲ以テ今泉村ノ東部ニ舍營シ其中隊(騎兵一分隊ヲ屬ス)ヲ比奈村ニ出シ沼津及小林方向ニ對シテ警戒セシム。

- 三、歩兵第一聯隊第二大隊ハ津田村ニ其他ノ諸隊ハ依田原村吉原宿ニ支隊司令部ハ吉原宿ニ舍營セシム。

以上ノ區處ハ午後七時三十分ニ至リ完成セリ而シテ此間午後二時三十分以後ニ於ケル我騎兵聯隊ノ行動ハ逐次ノ報告ニ由リテ之ヲ知悉シ又此時吉原宿及沼津町間ニ電話ヲ開通スルニ至レリ。

午後十時頃ニ至リ支隊長ハ騎兵聯隊長ヨリ詳細ナル筆記報告ニ接シ茲ニ本想定第三項ニ示セル事項ヲ知悉セリ是ニ於テ熟慮數刻ノ後翌日ニ係ハル支隊命令ヲ降スニ至レリ。

問 題

翌日ニ係ハル支隊命令

右答解ニ關スル講評及意見

支隊ノ明日ニ於ケル行軍ノ區處ハ諸君ノ如ク單純ナル考察ヲ以テ之ヲ規定シ得ヘキモノニアラサルナリ夫レ敵ノ本縱隊未タ三島附近ニ到着シアラサルコ

トハ殆ト疑ヒナカルヘシ然レトモ本日到着シアラサルカ故ニ明日モ亦未ダ到着セサルヘシトノ判断ヲ爲スヘキ理由ハ毫モ之ヲ發見シ得サル所ナリ諸君或ハ言ハン敵ニシテ若シ明日三島附近ニ到着シ得ヘキ距離ニ達シアランカ我騎兵聯隊ヨリ出セル三組ノ將校斥候若クハ其孰レカ之二衝突スヘキ筈ナリ然ルニ今ニ至ルモ何等ノ報告ナキヲ以テ敵ハ未タ明日ヲ以テ三島附近ニ到着シ得ヘキ距離ニ達シアラサルヘシト夫レ或ハ然ラン然レトモ唯タ一ノ將校斥候ニ依頼シテ事ヲ處センカ恐ラク慘憺タル誤謬ニ陥ルヘシ夫レ將校斥候ノ如キ戰鬥力ノ至微ナルモノハ途中ニ於ケル障礙ニ遭遇シテ全滅ニ陥ルコトナシトセサルナリ既ニ敵ノ騎幕内ニ潜入セハ縱令有利ノ狀況ヲ視察シ得ルモ之ヲ適當ノ時機ニ報告シ得サルコト屢々之レアルヘシ是故ニ將校斥候ノ報告ナキヲ以テ彼未タ敵ノ本縱隊ニ遭遇セスト判定スルヲ得サルナリ之ヲ要スルニ三島並ニ上土狩方面ニ於ケル内部ハ全ク暗黒ノ内ニ裡マレ明確ナル判定ヲ爲スヲ得サルナリ凡ソ敵狀愈々不明ナルニ從ヒ我ノ之ニ對スル顧慮愈々大ナルモノト

ス若シ夫レ諸君ノ如キ空想ヲ基礎トシ事ヲ處センカ之ニ反スル狀況ノ發展即チ敵ノ猛烈ニ我頭上ニ壓迫シ來ルニ際セハ狼狽據ヲ失シ終ニ自ラ倒ルルニ至ルカ否ラサルモ先制ノ利ヲ失ヒ我任務ノ遂行ヲ至難ナラシムルノ不利ヲ免ルヘカラサルヘシ而シテ斯ノ如キ狀態ハ決シテ之レナキヲ保セサルナリ是故ニ敵狀不明ナル場合ニ在リテハ敵ノ我ニ對スル最モ有爲ノ處置ヲ考察シ之ニ基キ至當ノ考案ヲ定ムルコトヲ絕對ニ必要トスル所ナリ。

何チカ敵ノ我ニ對スル最モ有爲ノ處置ト言フ曰ク我目的ノ遂行ニ大ナル妨害ヲ與ヘラルコト是レナリ夫レ沼津町以西ノ地區ハ其南北ヲ山地ト海トニ制限セラレ全ク狹隘ヲ成形セリ而シテ其山地ハ錯雜ニシテ且ツ兩側斜面頗ル急峻ナル無數ノ凹地ヲ以テ個々ノ凸稜ニ分斷シ軍隊ノ運動ヲ至難ナラシメ殆ト大ナル部隊ヲ使用スヘキ餘地ヲ没却シアリ故ニ敵ニシテ若シ我ニ先ンシテ沼津町西端附近ノ地ヲ占領シアランカ我ハ上述ノ如キ不利ノ位置ニ動作セサルヘカラス而シテ其狀勢恰モ敵ハ自由ニ操作シ得ヘキ地域ヲ有スル口外ニ在リテ

鐵槌ヲ振り上ケ氣勢ヲ整ヘ我ノ囊裡ヨリ出ツルニ從ヒ逐次ニ打撃ヲ加フルニ外ナラサルナリ是故ニ支隊ハ斯ノ如キ不快ノ狀況ニ陥ラサランカ爲メ少クモ敵ニ先ンシテ沼津平野ヲ我領有ニ歸セサルヘカラス而シテ此目的ヲ達センカ爲メニハ或ハ遭遇戰ヲ惹起スルニ至ルヤ豫メ覺悟セサルヘカラサルナリ然リ當日ニ於ケル支隊長タルモノハ遭遇戰ト雖決シテ避クル所ニアラス否、自ラ進ンテ之ヲ求メ迅速機敏ノ動作ヲ以テ速ニ不利ノ地界ヲ脱セント欲スル確乎不拔ノ意思ヲ有シ之ヲ斷行スヘキ決心ナカルヘカラサルナリ。

以上ノ如ク狀況ヲ考察シ以テ支隊長ノ意思ヲ確定セハ之ニ適應スヘキ行軍ノ區處ヲ定メサルヘカラス(野外要務令第二百二十一參照)而シテ其第一ニ起ルヘキハ適當ナル軍隊區分是レナリ詳言セハ敵ト衝突ノ際最モ有利ニ軍隊ヲ使用シ且ツ先制ノ利ヲ占メ得ヘキ考案ヲ必要トスヘシ之カ爲メニハ前衛ノ兵力及編組並ニ縱隊ヲ至當ニ分割スルコトニ注意セサルヘカラサルナリ而シテ前衛ノ兵力及編組ニ關シテハ本書第一卷ニ説述シアルヲ以テ茲ニ之ヲ重複スル

ヲ要セス只縱隊ヲ如何ニ分割シ得ルヤヲ述ヘント欲ス然レトモ是レ極メテ單簡ニシテ僅ニ數言ヲ以テ足レリトスヘシ即チ支隊左側ノ掩護及敵ト衝突ノ際北方山地ヨリ其翼側ニ迫ラシメント欲スルコト是レナリ而シテ其兵力ノ如キハ前述ノ如キ地形ナルヲ以テ強大ナルモノヲ宛ツルハ却テ不利トスル所ナリ且ツ其前進スヘキ吉原佐野街道ハ不良ニシテ恐ラク砲兵ヲ通スルコト困難ナルヘシ故ニ此方面ハ單ニ歩兵ノ一部ヲ前衛ト共ニ併進セシムルヲ以テ足レリトスヘシ。

夫レ支隊ノ明日ニ於ケル行進目標ハ前述ノ理由ニ基キ自ラ決定シアリト雖玆ニ一言スヘキハ諸君ノ之ヲ三島ニ取りシコト是レナリ是レ頗ル奇異ノ感ナキ能ハサルナリ縱令明日我ノ敵ニ先タチテ三島平野ニ進出シ得ルトスルモ敵ノ前進シ來ルヘキ道路ハ獨リ東海道ノミナラス熱海街道アルヘシ足柄街道アルヘシ是等兩道ニ對シテ三島ノ關係位置ヲ攻究セハ蓋シ多言ヲ要セスシテ其不當ナルヲ知得セラルヘシ之ヲ要スルニ敵ノ來ルヘキ方向ヲ察知シ得サル間ハ

其何レニ對シテ策動スルニモ容易ナル位置ヲ選擇セサルヘカラサルナリ。出發時刻ノ選定ニ關シテハ一ニ敵狀ニ對スル我企圖ニ從屬セサルヘカラサルナリ故ニ前述ノ理由ニ從ヘハ其愈々早キヲ必要トスヘシ然レトモ暗黒ノ際軍隊ヲ集合スルハ音ニ混雜ヲ生スルノ虞アルノミナラス之カ爲メ無益ノ疲勞ヲ來サシムルノ不利アリ故ニ之カ選定ハ過早ナラサルヲ要ス現季ニ於ケル日出ハ六時四十分頃ナルヲ以テ其一時前即チ五時三十分頃乃至六時頃ヲ適當トスヘシ。

軍隊ノ集合ヲ規定スルニハ最大ノ注意ヲ拂ハサルヘカラス本隊ノ爲メ只一個ノ集合場ヲ設クルハ必スシモ必要トセサルナリ各其宿營地ヲ顧慮シ其行軍長徑ヲ算シ且ツ行軍序列ニ適應スル如ク場所ト時間トヲ規定スルヲ可トス。凡ソ命令ヲ作爲スルニハ每項皆論理學ノ順序ニ從ハサルヘカラス否ラサレハ往々解釋ヲ困難ニシ甚シキニ至リテハ誤解ヲ來スコトアリ殊ニ單簡ヲ以テ其上乗ナルモノト信シ徒ラニ字句ヲ省略シ下級指揮官ヲシテ其實行上ニ疑惑ヲ

生セシムルカ如キハ命令ノ本旨ニアラサルナリ諸君ハ命令ヲ作爲スルニ方リ先ツ身ヲ實行者ノ位置ニ置キ斯ノ如キ命令ハ如何ニ實行セラルルヤヲ攻究シ然ル後其文字ヲ増減スルヲ要ス徒ラニ行文ノ字數ヲ削減スルハ野外要務令ノ所謂簡明確切ナルモノニアラサルナリ或人曰ク實施ハ命令ノ反映ナリト實ニ吾人ノ服膺スヘキ金言ト謂フヘシ。

敵狀ヲ示スモ亦簡ニ失セサルヲ要ス凡ソ下級指揮官其受クル所ノ任務ヲ實行スル爲メニ知悉スルヲ要スルノ件ハ遺漏ナク記載セサルヘカラス殊ニ我軍隊ノ志氣ヲ鼓舞スヘキ狀況ハ之ヲ舉止スルヲ緊要トス夫レ敵ノ本縱隊三島附近ニ到着シアルト否トハ各級指揮官殊ニ前衛司令官ノ動作ニ關シ大ニ影響スル所アルヘシ今朝出發ニ際シ敵ノ十三日頃東京ヲ出發シ我ニ向ツテ前進セルトノ狀報ハ各級指揮官ノ知ル所ナリ而シテ其行程ヲ推算セハ正サニ本日頃到着スヘキヲ以テ若シ何事モ示サスンハ恐ラク不審ヲ懷クヘシ是レ命令ノ威嚴ヲ保ツ所以ニアラサルノミナラス或ハ前衛司令官ノ敵狀判斷全ク支隊長ト相反

スルカ爲メ其動作慎重ニ失シ機敏ヲ缺クカ如キコトナキヲ保セサルヘシ之ヲ要スルニ支隊長ハ其意圖ヲ下級指揮官ニ了解セシメンカ爲メニハ敵狀ニ關シテモ亦寧ロ稍々詳細ニ失スルモ、之ヲ省略シテ不審ヲ懷カシムルニ優レルモノトス。

諸君往々大行李ニ命スルニ單ニ何時出發本隊ヨリ幾何ノ距離ヲ隔テテ跟隨スヘシト、命スルアリ、又騎兵聯隊長ニ三島ノ敵ヲ擊攘シテ其内部ヲ搜索スヘシト命スルアリ是等ハ共ニ野外要務令ニ示ス所ノ「命令ニハ一ノ目的ヲ達スル爲メ受令者ノ自ラ處斷シ能ハサル必須ノ事項ニ限り示スヲ要ス」ト及「受令者ノ識量ニ適應セサルヘカラス」トノ原則ニ合セサルモノトス夫レ騎兵聯隊ノ主務ハ搜索ナリ其敵ヲ攻撃スルト否トハ全ク搜索手段ノ選擇ニ由ルモノニシテ他ニ至當ノ方策アレハ之ヲ攻撃スルノ必要ナキナリ而シテ騎兵聯隊長ノ敵ヲ攻撃スルト否トハ其狀況ニ由リ自ラ處斷スヘキモノニシテ決シテ支隊長ノ指示ヲ受クヘキモノニアラサルナリ又殊ニ遙方ニ在ル支隊長ニシテ安ソ其搜

索手段ヲ知悉スルヲ得ンヤ斯ノ如キ事項ヲ命スルハ偶々勇猛ナル騎兵聯隊長ヲ侮辱スルニ過キサリナリ之ニ反シ大行李長ヲシテ其出發ニ際シ諸隊ノ大行李ヲ何レノ地點ニ集合シ又如何ニシテ散在シアル大行李ヲ行軍序列ニ入ラシムヘキヤヲ自ラ處斷セシメントスルハ全ク其識量ニ適應セシメタルモノニアラスシテ適當ノ任務ヲ布課セルナリ安ソ能ク其實行ヲ期スルヲ得ンヤ其集接地及其集合ニ關スル規定殊ニ本隊ト遠隔シアル部隊例ヘハ前衛ノ大行李ノ如キハ其行進序列ニ入ルヘキ規定ヲ明確ニ指示セサルヘカラサルナリ。以上述フル所ノ理由ニ基キ余ハ支隊長トシテ翌日ニ係ハル命令並ニ軍隊區分ヲ左ノ如ク起案セリ。

軍隊區分

左縱隊

步兵第二聯隊第一大隊

騎兵第一聯隊第五中隊第四小隊(一分隊缺)

支隊ノ動作

工兵第一大隊第二中隊第一小隊

前衛

司令官 歩兵第一聯隊長 大佐某

歩兵第一聯隊(第三大隊缺)

騎兵第一聯隊第五中隊(一分隊缺)

野砲兵第一聯隊第五中隊

工兵第一大隊第一中隊

本隊

支隊司令部 騎兵二分隊

歩兵第一聯隊第三大隊及同第二聯隊(第一大隊缺)

野砲兵第一聯隊(第二大隊缺)及野戰重砲兵第一聯隊第五中隊

衛生隊二分二

黃瀨川支隊命令

於一月十六日午後十時三十分 吉原宿

- 一、我騎兵聯隊ハ本日午後三時三十分ヨリ四時四十分ニ亘リ沼津北側及黃瀨川左岸ニ於テ敵ノ騎兵約四中隊ト戦闘ヲ交ヘ之ヲ擊退シ一部ヲ以テ長澤本宿及小林ヲ占領シ主力ヲ以テ黃瀨川(村落)ニ位置セリ敵ハ主力ヲ以テ三島町西端ヲ一部ヲ以テ幸原及上土狩ヲ固守セルモノノ如シ。又本日夕刻前、敵ノ輕裝セル歩兵約二百東海道ヲ前進シ三島町ニ進入セリ多分騎兵ノ支援隊ナラン。又敵ノ本縱隊ハ本日尙ホ未タ三島町並ニ上土狩附近ニ到着シアラサルモノノ如シ。
- 二、支隊ハ明日先ツ沼津町ニ向テ前進セントス。騎兵聯隊ハ明日モ亦黃瀨川左岸ノ地區ニ在リテ前任務ヲ繼續シ若シ已ムヲ得サルモ黃瀨川ノ諸橋梁ヲ固守スル筈。
- 三、左縱隊ハ午前六時其歩兵先頭ヲ以テ比奈村東端ヲ出發シ吉原、佐野街道ヲ長泉村中土狩ニ向テ前進シ特ニ佐野方向ヲ警戒スルヲ要ス。

支隊ノ動作

四、前衛ハ午前六時其歩兵先頭ヲ以テ大野新田東端ヲ出發シ東海道ヲ黃瀬川左岸長澤ニ向テ前進シ特ニ德倉(狩野川左岸)方向ヲ警戒スルヲ要ス。

五、本隊ノ諸隊ハ左ノ如ク集合シ且ツ出發スヘシ。
歩兵第一聯隊第三大隊ハ午前六時二十分河合橋ヲ先頭トシ道路上ニ集合シ前衛ヨリ約二千米ヲ隔テテ行進スヘシ。

野砲兵第一聯隊(第二大隊缺)午前六時二十分依田橋村南端ヲ先頭トシ道路上ニ集合シ歩兵第一聯隊第三大隊ニ續テ前進スヘシ。

歩兵第二聯隊(第一大隊缺)及衛生隊ハ午前六時十分依田原村東南方畑地ニ集合シ野戰砲兵第一聯隊ニ續ヒテ行進スヘシ。

野戰重砲兵及聯隊段列ハ午前六時車廠ニ集合シ右順序ヲ以テ支隊本隊ノ後尾ニ續行スヘシ。

六、大行李ハ諸隊出發ノ後依田橋村東南乾田ニ集合シ本隊ヨリ約二千米ヲ隔テテ跟隨スヘシ但シ前衛ノ大行李ハ午前五時三十分鈴川村北側ニ集合

シ支隊大行李長ノ指示ヲ受クヘシ。

七、余ハ午前六時鈴川停車場附近ニ在リ。

支隊長 少將 某

右命令ハ各隊ヨリ司令部ニ集合セル命令受領者ニ口達筆記セシメ騎兵聯隊ニハ別ニ電話ヲ以テ命令ヲ傳ヘ尙ホ筆記セシモノヲ傳騎ニテ送達セリ(但シ該命令ノ要旨ハ既ニ騎兵ノ條下ニ於テ述ヘタルヲ以テ茲ニハ之ヲ略ス)。

一月十七日ニ於ケル狀況

昨午後十一時以來何事モナク經過シ本朝五時ニ至レリ支隊長ハ朝食ヲ喫シアルノ際外衛兵ヨリ沼津方面ニ劇烈ナル銃聲アリトノ報告アリ次テ前衛並ニ歩兵第二聯隊第一大隊ヨリモ電話ヲ以テ同様ノ報告ヲ受ケタリ。

午前五時三十分支隊長ハ吉原ヲ出發シ同六時前鈴川停車場ニ至ル此時歩兵第一聯隊第三大隊ハ所命ノ地點ニ集合シアリ又騎兵聯隊ノ電話報告ニテ先キノ銃聲ニ關スル狀況(敵歩兵ノ攻撃ヲ擊退セシコト)ヲ知りタリ間モナク前衛ハ

前進ヲ起シタリ又左縦隊ヨリモ正サニ午前六時ヲ以テ所命ノ地點ヨリ前進ヲ起セリトノ報告ヲ受ケタリ。

午前五時三十分以來騎兵聯隊長ハ頻リニ三島方面ヲ偵察セシムルモ敵ノ警備頗ル嚴重ニシテ乘スヘキ時機ヲ得ス殊ニ三島町西南方ニ在ル諸水流ハ何レモ我攻撃動作ヲ妨害シ又三島町西北端本覺寺附近ヨリ其西端ニ亘ル間ハ一層其警備ノ度ヲ嚴ニシ且ツ歩兵ヲ以テ占領セラレアルヲ以テ何レニ對スルモ俄カニ攻撃スルヲ得ス、幸原及上土狩方面モ亦依然嚴重ニ警備セラレアリ仍リテ聯隊長ハ更ニ斥候ヲ諸方面ニ出シ其内部ヲ搜索スルコトヲ勉メツ、午前七時ニ至レリ。

午前七時五分柿田、松本ヲ經テ中里村大場ニ向ツテ前進セシ斥候ヨリ左ノ報告アリ曰ク。

一、中里村梅名ノ西端ニハ敵ノ部隊工事ニ據リテ占領シアリ其兵力約三十ニシテ輕裝セル歩兵ナルモノノ如シ。

二、本斥候ハ今ヨリ狩野川左岸ニ移リ御園方面ニ出テ熱海街道上平井方面ヲ搜索セントス。

午前七時十分騎兵聯隊長ハ長澤ニ在リテ上土狩方面ニ方リ機關銃ノ濺々タル音響ヲ聞ケリ連續約二分ニシテ止ミタリ稍々暫クシテ第二中隊長ヨリ次ノ報告ヲ受領ス曰ク

一、中隊ハ午前七時五分過キヨリ一部ヲ中土狩東方無名祠ニ散開セシメ幸原南端ノ敵ヲ攻撃セシニ突然敵ノ機關銃上土狩ノ東南端ニ顯出シ我ヲ縱射セリ仍リテ中隊ハ攻撃ヲ中止スルノ已ムヲ得サルニ至レリ。

二、幸原及上土狩方面ノ守備ハ依然鞏固ニシテ攻撃ノ實行頗ル困難ナルヘシ此方面ノ機關銃ハ二挺ナルカ如シ。

午前七時三十分騎兵聯隊長ハ三島町西端ノ敵ニ對シ攻撃ヲ實行セント欲シ先ツ第四中隊及機關銃隊ヲシテ新宿東北方無名祠附近ニ散開シ本覺寺附近ヨリ東海道ニ亘ル敵ニ對シ射撃ヲ開始スヘキヲ命セリ而シテ他ノ諸隊ハ伏見ノ北

側凹地ニ集合セシメタリ、我機關銃隊ハ一部ノ徒步騎兵ト共ニ無水川ノ内部ニ
 蔭蔽シテ前進シ上述無名祠ノ東北方ニ陣地ヲ占領シ東海道北側ニ散開セル部
 隊ト同時ニ射撃ヲ開始セリ敵ハ直ニ應射シ且ツ本覺寺西側ニ機關銃顯出シ茲
 ニ彼我ノ間ニ熾盛ナル火戰ヲ開始セリ然ルニ敵ハ固ヨリ優勢ニシテ且ツ十分
 ナル工事ニ據レルヲ以テ容易ニ攻撃ヲ實行スヘキ機會ヲ表ハサス殊ニ敵ノ機
 關銃ハ僅ニ二銃ニ過キサカ如シト雖我ニ對シテ恰モ斜射ヲ爲シ得ヘキ好位
 置ニ在ルヲ以テ其威力頗ル猛烈ナルノミナラス其正面モ亦全ク歩兵ニシテ其
 射撃精確容易ニ當ルヘカラス、今ヤ我全線ハ多少困難ナル状態ヲ顯セリ仍リ
 テ射撃ヲ中止シ次テ陣地ヲ撤退セシメタリ。
 是レヨリ先キ敵ノ遺棄セル負傷者ノ内其稍々輕キモノヲ捕ヘテ種々訊問ヲ試
 ミシ結果次ノ件ヲ知レリ。

一、午前五時頃攻撃シ來リシ敵ハ歩兵ニシテ東海道兩側ノモノヲ合シテ一
 小隊(約七十人)ニ過キス。

二、此歩兵ハ某聯隊ニ屬スル第八中隊ニシテ昨正午頃小田原ニ於テ輕裝ニ
 變シ東海道ヲ急行シ來リシモノナリ。

三、右聯隊ハ昨日大磯附近ヲ出發シ小田原ニテ晝食ヲ爲シ更ニ熱海ニ向ッ
 テ前進セリ聯隊ノ後尾ニハ野砲兵一聯隊(一大隊トモ或ハ一大隊半トモ言
 フ)續行シアリ。

四、小田原二島間ノ東海道ハ多少不良ナルモ歩兵ノ行進ニハ毫モ困難ナラ
 スト言ヒ或ハ非常ニ困難ナリト言フ。

其他右聯隊ノ外ニ他ノ歩兵部隊ノ屬シアルヤ否ヤ及後續隊ノ有無ニ關シテモ
 其言フ所種々ニシテ何レトモ確定スルヲ得ス又最高級指揮官モ或ハ旅團長ト
 言ヒ或ハ歩兵聯隊長ナリト言ヒ毫モ捕捉スル所ナシ。

右捕虜ノ言ハ直ニ之ヲ筆記シ支隊長ニ送呈スルト同時ニ其要旨ヲ電話ニテ報
 告セラレタリ。

午前八時十分騎兵聯隊長ハ中里村、大場方向ニ出セル斥候ノ仁田(大場東南方

約千五百米)發報告ヲ受領ス曰ク

八八

一、敵ノ騎兵約四十大場、熱海街道ヲ前進シ來リ午前七時三十分平井ヲ通過シ大場ニ向ヘリ。

二、本斥候ハ今ヨリ柏谷東方高地ニ至リ右騎兵ノ後方ヲ搜索セントス。

次テ第三中隊ヨリ黃瀬川右岸ニ出セシ斥候ヨリ南一色西北方高地發報告ヲ受領ス曰ク

一、敵ノ騎兵約三十御殿場方向ヨリ前進シ來リ午前七時平松(佐野停車場西南約八百米)ヲ通過セリ。

二、斥候ハ尙ホ黃瀬川右岸ヲ御殿場方向ニ前進シ該地方面ノ狀況ヲ搜索セントス。

午前九時支隊長ハ前衛本隊ノ先頭ニ在リテ小諏訪ニ達ス但シ此途中騎兵聯隊長ヨリ送呈セラレシ以上ノ報告ハ總テ之ヲ受領シ且ツ午前五時三十分以後ニ於ケル三島町及上土狩方面ノ狀態ヲモ知悉セリ又此時十里木ヲ經テ御殿場方

向ヘ前進セシ將校斥候ヨリ十六日午後十時切野發報告アリ曰ク

一、敵ノ一縱隊ハ關本方向ヨリ足柄峠ヲ經テ前進シ本夕遅ク御殿場ニ到着シ該地及其附近ニ宿營セリ。

但シ其兵力ハ歩兵約三大隊ナリト言ヒ或ハ四大隊ヲ降ラスト又或ハ少クモ一旅團ナリトモ言フ要スルニ其何レトモ判定スルヲ得ス又其砲兵ノ如キモ之ヲ最モ多ク言フモノハ二十門ヲ降ラスト而シテ其少キハ僅二十門ニ過キスト言フ。

次テ午前八時三十分伏見西北方無名祠ニ位置シ在ル騎兵聯隊長ヨリ左ノ報告ヲ受領ス曰ク

昨日十里木ヲ經テ御殿場方面ニ前進セシ將校斥候ノ中清水(御殿場西南方約八吉米)發報告ニ由レハ敵ノ一縱隊ハ今朝六時三十分其歩兵先頭ヲ以テ新橋ヲ出發セリ其兵力未タ詳カナラサルモ歩兵少クモ四大隊ヲ降ラサルモノノ如シ又其砲兵ハ山砲ニシテ十二門ヨリ多カラサルヘシ。

支隊ノ動作

八九

以上兵力ニ關シテハ多數ノ土人ヲ訊問セシ結果ニシテ又其砲兵ニ就テ總テノ土人ハ之ヲ馬背ニ馱載シアリト言ヒタリト。

之レト同時ニ午前八時二十分頃相前後シテ騎兵聯隊長ノ許ニ歸來セシ兩斥候長自ラ來リ報告セリ其要旨次ノ如シ。

- 一、昨日熱海方向ニ前進セシ斥候(此斥候ハ昨夜畑輕井澤ノ南方約二吉米半)ニ到着シ該地ニテ休憩シ今朝早ク出發シ輕井澤東北方高地ニ攀登シアリシ際敵ノ騎兵約三十ノ爲メニ驅逐セラレ午前八時二十分無事歸來セリ(ノ目視スル所次ノ如シ敵ノ一縱隊今朝熱海ヲ出發シ午前七時其步兵尖兵ヲ以テ輕井澤ノ東方約三吉米ニ達セリ此時尙ホ步兵縱隊ノ後尾ハ未タ熱海ヲ離レズ但シ前衛本隊及本隊ノ先頭ハ目視スルヲ得ス。
- 又此時尙ホ熱海ノ西側ニ集合セル砲兵アリ確ニ十八門ヲ認ム又其南側ニ砲兵ノ集合シアルカ如キモ十分ニ目視スルヲ得サリシト。

二、昨日箱根方面ニ前進セシ斥候(此斥候ハ大場ノ南方ヨリ平井ヲ經テ前進

シ昨夜玉澤(東海道上市山新田南方約千六百米)ニ於テ休憩シ今朝早ク該地東北方高地ニ攀登セリ)ノ目視スル所次ノ如シ。

敵ノ步兵縱隊ハ午前七時稍々前其先頭ヲ以テ山中新田ヲ通過セリ其兵力多クモ千五百人ニ過キス。

問 題

以上ノ狀況ニ對シ支隊長ハ如何ナル決心ヲ爲スヤ。

右答解ニ關スル講評及意見

諸君ノ爲セル答解中其詳細ニ亘ル事項ハ暫ク之ヲ措キ其大要ヲ舉クレハ概シテ左ノ考案ニ歸着スヘシ。

其一、敵ヲ各個ニ擊破スルノ目的ヲ以テ一部ヲ御殿場方面ノ敵ニ當テ主力ヲ以テ三島方面ノ敵ヲ攻撃セントスルモノ。

其二、敵ヲ各個ニ擊破スルノ目的ヲ以テ先ツ高田附近ニ準備陣地ヲ占領セントスルモノ。

支隊ノ動作

其三、敵ヲ擊攘スルノ目的ヲ以テ下石田ヨリ高田附近ニ亘リ陣地ヲ占領セ
ントスルモノ。

其四、一部ヲ以テ香貫山ヲ占領シ主力ヲ以テ黃瀬川右岸ニ接着シテ防禦セ
ントスルモノ。

其五、一部ヲ以テ香貫山ヲ主力ヲ以テ日吉ヨリ高田ニ亘ル線ヲ占領シテ敵
ヲ扼止セントスルモノ。

以上ノ五者ニ對シ逐次ニ之ヲ研究シ以テ其良否ヲ判定セント欲ス然レトモ諸
君ノ理由トスル所ノ各項ヲ舉ケテ一々之ヲ論究スルハ時間ノ許ササル所ナル
ヲ以テ余ハ之ヲ概括シテ其不當ナル事由ヲ説破セント欲スルナリ。

此場合ニ處シテ尙ホ敵ヲ各個ニ擊破セントスル決心ヲ爲セルモノニ對シテ余
ハ固ヨリ其豪膽ナルコトヲ嘆賞スルニ吝マサル所ナリ然レトモ一方ニ於テ忌
憚ナク評セシメハ是レ作業上ニ於ケル一種ノ好奇心ニ驅ラレテ狀況ヲ通讀ス
ルヤ否ヤ偶然發生セシ所ノ思想ニ基キ立案シタルモノニ過キサルヘシト言ハ

ンノミ試ミニ思ヘ近ク側面ニ一大危險ヲ帶ヒツツ前面ニ斷乎タル戰鬪ヲ爲シ
得ルヤ否ヤ斯ノ如キ場合ニ在リテハ如何ニ冷靜ナル頭腦ト勇健ナル膽力トヲ
有スル將官ト雖恐ラク之ヲ遂行シ能ハサルヘシ今ヤ敵ハ我ニ對シテ分進合擊
ノ利ヲ收得シ以テ我ヲ不利ノ位置ニ強ヒ得タルノ状態ニ外ナラサルナリ安ソ
輕忽事ニ處シテ彼力術中ニ陥ルカ如キ危險ヲ踏ムヘケンヤ必ス慎重ナル計畫
ヲ以テ萬全ノ策ヲ講セサルヘカラサルナリ。

凡ソ戰鬪ヲ實行スルニ方リテハ必ス先ツ其軍隊ヲ展開セサルヘカラス諸君試
ミニ支隊ノ展開ニ要スル時間ヲ計算セヨ而シテ諸君カ希望スル地點ニ戰鬪配
置ヲ完結シ得ル時刻ニ於テ各方面ノ敵ハ何レノ地點ニ到着シ或ハ展開シ得ル
コトヲ彼此對照セハ三島町方面ニ向ツテ直ニ攻撃ヲ實行セント欲スル考案ノ
愈々危險ナルコトヲ覺知セララルヘシ。

夫レ東海道ヲ西進セシ敵ノ縱隊ハ今ヤ既ニ三島町ニ到着シアルヘシ(此縱隊
ノ爾後ニ於ケル行動ハ之ヲ確知スルニ由ナキト雖尙ホ沼津ニ向ツテ前進ヲ繼

續ヌルカ如キコトヲ爲ササルヘシ而シテ先ツ三島町西端附近ヲ占領シ以テ熱海方面ヨリ來ル縱隊ノ三島町附近ニ集合スルヲ掩護スルナラン是レ蓋シ至當ノ動作ナルヘシ而シテ熱海方面ヨリ來ルモノ亦午前十時頃正サニ其先頭ヲ以テ中里村中島ニ達セラルヘシ故ニ敵ハ午前十一時頃其兵力ノ大部ヲ三島町附近ニ集結スルコト決シテ困難トセサル所ナリ而シテ支隊ハ最モ急速ニ前進スルモ午前十時頃ニ至リ始メテ其先頭ヲ以テ長澤附近ニ到着シ得ルニ過キサルナリ此際直ニ全力ヲ黃瀨川右岸ノ地ニ展開スルモ午前十一時以前ニ於テスルヲ得サルヘシ若シ夫レ實際ニ於ケル状態即チ支隊長ハ先ツ親ラ地形並ニ敵狀ヲ偵察シ以テ之ニ適當スル如ク軍隊ヲ區處スヘキモノナルコトヲ考察セハ蓋シ上述ノ如キ短少ナル時間ヲ以テ展開ヲ完結シ得サルヘシ假令能ク右時刻ヲ以テ展開ヲ終リ攻撃實行ヲ開始シ得ルトスルモ御殿場方面ノ敵ハ此時正サニ其先頭ヲ以テ上土狩附近ニ到着スヘシ故ニ一時間ノ後ニハ相當ノ兵力ヲ以テ我側翼ヲ衝キ得ルナリ若シ夫レ之ヲ防支スヘキ十分ノ兵力ヲ北方ニ出サンカ

或ハ其南下ヲ拒支シ得ルモ之カ爲メ三島町方面ニ對スル攻撃力ヲ減殺セラレ其成功覺束ナカルヘシ何トナレハ此方面ニ於ケル兵力ハ之ヲ歩兵四大隊砲兵ハ少クモ三中隊ト判定セサルヘカラサレハナリ且ツ夫レ御殿場方面ノ敵ニ對シ之ヲ拒支スヘキ目的ヲ達セシメント欲セハ伊豆島田少クモ上土狩附近ヲ占領セサルヘカラス然ルニ彼我ノ距離上上土狩スラ之ヲ確實ニ占領スルコト困難ナルヘシ諸君或ハ思ハシ反田ノ高地ヲ以テ適當ナリト然レトモ全體ノ目的ヨリ論スレハ此陣地ハ決シテ價值ヲ有セス何トナレハ北方ノ敵全部ヲ繫留シ得ヘキ位置ニアラサレハナリ詳言セハ敵ハ一部ヲ以テ之ニ當テ主力ヲ以テ伊豆島田方面ヨリ街道ニ沿フ部落ニ蔭蔽シテ三島町方面ニ動作シ得ルヲ以テ分離セシ我一部ノモノハ何等ノ効ヲ奏スルコトナクシテ止マンノミ諸君請フ黃瀨川ハ我ニ如何ナル價值ヲ與ヘアルカヲ攻究セヨ固ヨリ絶對的障礙ヲ爲スモノニアラサルヘシト雖其徒涉シ得ヘキ部分ハ東海道附近ニ於ケル僅少ナル部分ニ制限セラレ其他ハ懸崖或ハ繁茂セル竹叢ヲ以テ兩岸ヲ成形シ橋梁ノ

外渡河スルヲ得ス斯ノ如キ障礙ヲ直後ニ控ヘ尙ホ且ツ極メテ危険ナル動作ニ依リテ僥倖ヲ求メント欲ス其成功豈夫レ一六ナランヤ所謂十一ヲ千百ニ存スルニ過キササルノミ斯カル覺東ナキ僥倖ヲ希望シテ若シ一敗地ニ塗ラハ六千有餘ノ丈夫ヲシテ盡ク江魚ノ腹中ニ葬ラシム是レ豈ニ重大ナル任務ヲ有スル支隊ノ採ルヘキ策ナランヤ論シテ茲ニ至ラハ其一ニ屬スル考案ヲ稱シテ豪膽ニ失スルモノ否ロ思慮ナキ暴勇ト言ハンノミ。

其二ニ屬スルモノ即チ敵ヲ各個ニ擊破スルノ目的ヲ以テ先ツ高田附近ニ準備陣地ヲ占領セントノ考案ハ毫モ其意ノ存スル所ヲ解スル能ハサルナリ今ヤ既ニ各個擊破ノ目的ヲ達スルコト難シ而カモ兩敵ハ刻一刻相近接シツ、アリ尙ホ坐シテ此時機ヲ待タントス蓋シ兩敵ノ内執レカ我ニ好意ヲ寄スルカ若クハ毫モ連繫ニ顧慮スルコトナク極メテ不用意ニ黃瀨川ヲ渡河スルノ場合ニアラサレハ此考案ヲシテ成立セシムル能ハサルナリ然ルニ是等ノ事一トシテ期待シ得ヘキヤ敵ニハ敵ノ計謀アリ決シテ我希望スル處置ニ出ツヘシト看過スル

ヲ得サルナリ況ヤ戰術的思想ヲ遠ク離レタル希望ヲ敵ニ強フルニ於テオヤ。凡ソ攻撃ヲ準備スルニハ至當ノ戰鬪配置ヲ爲シアラサルヘカラス而シテ又此配置ヲ蔭蔽シアラサルヘカラス然ルニ高田附近ノ地形ハ果シテ此要求ヲ充足シ得ルヤ地圖ヲ一見セシモノハ恐ラク其不當ヲ察知スルニ難カラサルヘシ苟モ敵ニシテ我配置ヲ偵知セハ決シテ我直前ニ於テ不用意ニ渡河スルカ如キ愚ヲ演セサルヘシ殊ニ東海道方面ハ黃瀨川ノ橋梁ノミナラス其兩側ニ於テ徒涉場ヲ有シ且ツ中石田及下石田ハ共ニ其渡河ヲ蔭蔽シ又其渡河ヲ掩護スヘキ好據點ヲ成形セリ而シテ小林方面モ亦同村西北方高地ニ依リテ掩護セラレ其若干ヲ渡河シ上石田附近ヲ占領シタル後漸次ニ本宿ノ橋梁ハ勿論鐵道橋ヲモ利用シテ右岸ノ地ニ展開スルニ至ルヘシ夫レ斯ノ如ク周到ナル注意ヲ以テ兩敵同時ニ渡河シ來ランカ其何レニ向ツテ攻勢ニ轉スルヤ蓋シ一方ニ向ツテ攻撃ニ移ラハ他ノ方面ニ於テ我側翼ヲ衝カルルニ至ルヘシ是豈成功ヲ期スヘキ考案ナランヤ是故ニ渡河ノ際一方ニ向ツテ攻撃セントセハ他方ニ於テ敵ノ攻撃

ニ對シ十分ニ抗拒シ得ヘキ鞏固ナル據點ナカルヘカラス然ルニ高田附近ノ地形ハ全ク是等ノ要求ヲ缺如セリ且ツ防禦ニ要スル條件ヲ具備セサルヲ以テ若シ攻撃ノ機會ヲ失セハ直ニ退却セサルヘカラス而シテ此退却ハ又直ニ潰走ニ陥ルヘシ支隊ニシテ若シ一タヒ沼津平野ヲ敵ニ委セハ爾後ニ於ケル軍ノ行動ヲシテ如何ニ困難ヲ感スヘキカ思フテ茲ニ至ラハ本考案ノ如キ覺束ナキモノヲ以テ得々然タル諸君ノ淺慮ヲ嘆セスンハアルヘカヲサルナリ。

諸君往々内線作戰ノ利ヲ説クモノアリ而シテ斯ノ如キ戰略上ノ交戦法ヲ以テ茲ニ研究スル所ノ戰術而カモ範圍ノ狹小ナル部分ニ適用セント欲ス是レ恰モ大軍ノ行動ヲ步兵聯隊以下ノ部隊ニ縮小シテ研究セントスルニ外ナラサルナリ安ソ大ナル誤謬ヲ來ササルコトナカラシヤ思フニ諸君ハ其眞意ノ存スル所ヲ知悉セサルカ如キヲ以テ余ハ茲ニ少シク之ヲ述ヘント欲ス是レ必スシモ不要ニアラサルヘシ。

獨國大將フオン、テル、ゴルツハ其著書(交戦及統帥卷)中、内戦ニ於ケル作戰ニ

於テ言ヘルアリ曰ク防者一點ニ根據ヲ占メ敵ノ該點ヲ圍繞スル圓周上數多ノ場所ヨリ分離セル前進線ニ由リテ攻撃スルトキハ防者ハ内線ニ在リト云フ(支隊ノ目下ニ於ケル状態ハ恰モ茲ニ言フ所ノ如シト雖後段述フル所ヲ以テスレハ直ニ之ヲ應用シ得ヘカラサルコトヲ知悉シ得ヘシ)然ルニ此意義ヲ一般ニ解釋モハ必スシモ防者ヲ圍繞スル圓周上ニ在ルヲ限ラサルナリ敵ノ分離セル各軍ニ對シ各個ニ擊破スヘキ状態ニ在ルトキモ亦々然リトス千八百十四年二月十日ヨリ十四日ニ亘リ那翁第一世カ「シユレシヤ」軍ノ各部ヲ逐次ニ擊破シテ大ナル損害ヲ與ヘタルカ如キ是レナリ實ニ防者ハ敵ノ種々ノ兵群ニ對シ同一ノ兵力ヲ屢々使用シ以テ偉大ナル効果ヲ收メ得ルモノトス蓋シ一師團半ヲ以テセハ各師團ヨリ成ル三個ノ兵群ヲ逐次ニ擊破スルヲ得ヘシト雖既ニ集合セル三師團ノ敵ニ對シテ戰鬪セハ勝利ヲ得ルノ公算ナカルヘケレハナリ然リト雖内戦ニ於ケル作戰ハ常ニ有利ナリト云フヲ得サルナリ蓋シ通信機關ノ發達セル近時ニ於テハ攻者ノ爲メニ其分離シテ動作スル部隊ヲ一致協力セシメ得

ルヲ以テ防者ノ之ニ乗スヘキ機會ヲ得ルコト愈々鮮カルヘシ而シテ一タヒ時機ヲ逸セハ忽チ狀況ヲ一變シ反對ノ結果ヲ來スニ至ルヘシ殊ニ内線作戰ノ利ヲ收メント欲セハ有利ノ距離ヲ得ルニ在リ距離若シ過小ナルトキハ防者ハ敵ノ兵群ニ對スル戰鬪間他ノ兵群近接シ來リテ包圍セラルルカ若クハ圍繞セラルルノ危険アリ又若シ過大ナルトキハ防者ハ一部ト交戰中自餘ノ敵兵ニ注目スルヲ得ス而シテ此敵兵故障ナク自己ノ利益ヲ得ンコトヲ謀ルヲ得ヘシ故ニ攻者ノ集中的前進ヲ爲スニ方リテ短時間ヲ以テ爲シ得ヘキ中等ノ距離ヲ要ス此距離ヲ有利ニ心算シ且ツ之ヲ利用スルコトハ實戰中諸事不確實ナルヲ以テ益々困難ナリトス(大將フォン、デル、ゴルト著書交戰及統帥法)之ヲ要スルニ近時ノ戰役ニ於テ吾人カ實驗スル如ク戰鬪ノ經過長時間ニ亘ルヲ以テ敵ノ集中的前進ヲ爲スニ際シ之ヲ逐次ニ擊破シ得ルカ如キ内線ニ於ケル狀況ハ殆ト之レナカルヘシト言フモ敢テ過言ニアラサルヲ信スルナリ况ヤ僅ニ一日行程ヲ隔ツルカ如キ攻者ニ對スルニ於テヤ。

以上述フル所ノモノヲ以テ支隊現下ノ狀況ニ對照セハ其一及其ニ屬スル考案ノ如ク内線ニ於ケル作戰法ヲ應用シ得ルコトノ絕對ニ不可能ナルコト否寧口外線ニ於ケル作戰ノ利ヲ全ク敵ニ委シタルヲ覺知セララルヘシ。

茲ニ又僅少ノ部隊ヲ以テ黃瀨川ノ諸渡河點ヲ監視セシメ主力ヲ以テ岡一色附近ニ準備陣地ヲ占領セントスル考案アリ夫レ準備陣地ヲ占領スルコトニ關シテハ前段ニ於テ少シク之ヲ述ヘタリト雖此場合ニ於ケル準備陣本來ノ性質ヲ述ヘサルヲ以テ茲ニ之ヲ述ヘント欲ス抑モ現下ノ狀況ニ在リテ準備陣(中央陣トモ稱ス)ヲ取ラントセハ次ノ事項ヲ考察セサルヘカラサルナリ即チ敵ヲ各個ニ擊破スルコト及敵ノ半渡ニ乗シテ攻撃ニ轉スルコト並ニ以上二者ヲ爲スコト能ハサルニ際シテハ茲ニ堅固ナル防禦ヲ爲スコト是レナリ以上ノ三件ヲ逐次ニ攻究セハ以テ本考案ノ適否ヲ判定シ得ヘシ其第一ハ既ニ前諸段ニ於テ述フルカ如ク全ク不可能ニ屬スヘキヲ以テ更ニ茲ニ述フルヲ要セス其第二モ亦前段ニ於テ少シク述ヘシ所並ニ次キニ述フル如ク考察セハ其成功頗ル覺束ナ

カルヘキヲ悟トルヘシ即チ三島方面ノ敵ハ黃瀨川ノ各渡場口ニ相當ノ兵力ヲ以テ我監視部隊ニ當テ其主力ハ北方ノ敵ト相合シ小林北方ノ地區ニ於テ渡河シ岡一色北方高地ヨリ我ニ向ハンカ若クハ三島方面ノ敵ヲ以テ我前面ヲ壓シ北方ノ敵ヲ以テ岡一色北方高地ヨリ進出シ來ラハ我半渡攻撃ノ希望ハ全ク消失シ去ルヘシ其第三即チ陣地其モノニ就テ果シテ前述ノ要求ヲ充タシ得ルヤ否ヤ此陣地ヲ稱シテ善良ト稱スルハ南方ニ面スルトキナルヘシ東方ニ對シテハ最モ必要ナル小林及下石田ニ對シ十分ノ射界ヲ有セス殊ニ岡一色北方ノ高地ハ西北方ニ高上シ常ニ我右側ニ不快ヲ感セシムルアリ元來我ニシテ黃瀨川右岸ニ在ラハ兩方面ノ敵ヲシテ合致ノ運動ヲ爲サシムルニ一大便利ヲ與フルヤ明ナリ從テ敵ハ多少不利ナル所アルモ小林及其西北地區ヨリ主力ヲ進マシムル動作ヲ敢テ危険ナク實行スルヲ得ヘシ故ニ我ハ攻勢ニ轉スルノ時機ヲ得サルノミナラス沼津ヲ放棄シテ敗退セサルヘカラス要スルニ此陣地ハ敵ニ對シテ強固ニ抵抗シ得ヘキモノニアラサルナリ以上ノ如ク考案シ來ラハ岡一色

附近ハ準備陣地トシテ一モ其希望ヲ充タスヲ得サルヲ以テ其二ニ屬スル考案ト共ニ首肯スル能ハサル所ナリ但シ半渡ニ乘スルノ考案ハ前者ノ粗放ナルニ優ル所アルモノトス。

其二ニ屬スルモノ即チ敵ヲ擊攘スルノ目的ヲ以テ下石田ヨリ高田附近ニ亘リ陣地ヲ占領セントスルノ考案ハ稍々奇怪ニ屬ス何トナレハ擊攘ハ獨リ攻撃ニ依リテ得ルモノニシテ攻撃ノ爲メニハ陣地ヲ占領スルノ必要ナケレハナリ若シ夫レ此陣地ニ於テ決戦ヲナサントスルノ意ナランカ是レ只記述ノ方法其當ヲ得サルノミナラス其陣地モ亦頗ル不適當ナルヘシ請フ少シク之ヲ論セントス。

夫レ此陣地ニ在リテハ總豫備隊ヲ左側後ニ位置セシメサルヘカラス而シテ敵ハ我砲兵及歩兵ノ射撃ヲ蒙ルコトナク下石田ニ近ク黃瀨川(村落)及中石田ノ西端ニ展開シ得ヘク且ツ本宿ノ橋梁並ニ鐵道橋ノ通過モ亦我歩砲兵ノ射撃ヲ蒙ルコトナク而カモ有利ニ中石田附近ヨリ其西北方ニ亘リ展開シ得ラル

ヘシ此際總豫備隊ヲ以テ上石田方向ニ向ツテ攻勢ニ轉スルトスルモ小林西方ノ高地若クハ岡一色ノ高地上ニ敵ノ一部隊顯出スルアラハ之カ爲メ其攻撃動作ニ大ナル頓挫ヲ與ヘラルヘシ而シテ高地上ヨリ漸次ニ我左側背ニ迫ラルニ至ル狀勢斯ノ如シ尙ホ果シテ擊攘ノ目的ヲ達シ得ルヤ實ニ覺束ナカルヘシ。其四ニ屬スルモノ即チ一部ヲ以テ香貫山ヲ占領シ主力ヲ以テ黃瀨川右岸ニ接シテ防禦セントスルモノハ一言ヲ以テ評セハ地形ノ觀察、換言セハ地圖ノ解讀頗ル不十分ト言フノ外ナカルヘシ請フ再ヒ地圖ヲ披テ黃瀨川兩岸ノ景況ヲ熟讀セヨ黃瀨川(村落)附近ハ能ク前岸ノ地ヲ展望シ得ルモ中石田東北方ノ兩岸ニハ森林ノ繁茂セルアリ上石田ト鐵道トノ中間ハ其兩岸共ニ樹叢ヲ存セスト雖左岸ニ接着セル本宿ノ部落アリテ些少ノ射界ニ制限セラレアリ凡ソ防禦ニ在リテハ特ニ火器ノ効用ヲ盡スナ肝要トスルコトハ我操典ノ吾人ニ教フル所ナリ縱令直前ニ障礙ヲ控ヘ敵ヨリ直ニ打撃ヲ受ケサルトハイヘ火器ノ効力ヲ發揚シ得サルニ至リテハ何ヲ以テ防禦ノ目的ヲ達スルヲ得ンヤ又請フ地圖

ヲ披テ黃瀨川左岸ノ地區ヲ熟讀セヨ長澤八幡、天神竹原ノ諸部落ハ全ク我ニ蔭蔽シテ南北何レノ方向ニモ運動シ得ルニアラスヤ若シ敵ハ一部ヲ以テ各橋梁ヲ閉塞シ主力ヲ以テ鮎壺北方ヨリ小林若クハ岡一色ノ北方ニ進出シ來テハ我ハ一發ノ射撃ヲモ爲サスシテ敗退セサルヘカラサルヘシ諸君或ハ言ハン敵ニシテ是ノ如キ運動ヲ爲サハ我ハ前面ヨリ攻撃ニ轉セン又小林北方ノ高地ヲ我有ニ歸シ置カハ敵ヲシテ隨意ニ此方面ニ動作セシメスト然レトモ黃瀨川ハ障礙トシテ敵ノ渡河ヲ困難ナラシムルモノトセハ我モ亦以東ニ進出スルノ困難アリ尙ホ何ソ前面ヨリ攻撃ニ轉スト言フヲ得ンヤ又小林北方ノ高地ハ多少錯雜ノ嫌アルモ其運動比較的困難ナラス殊ニ北方ノ敵ハ此方面ヨリ我ニ近接スルハ自然ノ方向ナレハナリ我一部ヲ以テ堅固ニ占領スルトモ敵ハ漸次西南方ニ向ツテ運動スルニ至ラハ終ニ十分ノ抵抗ヲ爲シ得スシテ敗退セサルヘカラサルノ已ムヲ得サルニ至ルヘシ是故ニ此考案モ亦同意シ能ハサル所ナリ。其五ニ屬スルモノ即チ一部ヲ以テ香貫山ヲ主力ヲ以テ日吉ヨリ高田ニ亘ル線

ヲ占領セントスル考案ハ陣地ノ攻究ニ關シ前諸項ニ優レル所アルヘシ然レトモ其一ヲ知リテ其二ノ攻究ヲ缺クノ感ナキ能ハス夫レ日吉ハ此附近ニ於テ最低ノ地ニシテ其東端ニ接着スルモ前面ニ對シテ僅小ノ射界ヲ有スルニ過キス若シ少シク前方ニ出テシカ凹地内ニ在リテ全ク射界ヲ有セサルニ至ルコト地圖ヲ至細ニ研究セハ自ラ覺知セラルヘシ又高田ハ叢爾タル一小部落ナルヲ以テ之ヲ左翼ノ據點トナスニ足ラサルナリ殊ニ上石田及岡一色ノ中間地帯ニ對シ全ク包圍ヲ受クルノ危殆アリ從テ長ク抵抗スルヲ得サルヘシ考案者ノ茲ニ注意セサリシハ實ニ惜ミテモ尙ホ餘リアル所ナリ。

以上諸君ノ考案ヲ説破セハ如何ナル妙案ノ存スルヤヲ疑フナラン然レトモ斯カル地形ニ在リテ妙案ヲ求ムルコトノ困難ナルハ諸君ノ已ニ知ル所ナルヘシ夫レ攻撃ノ自滅ニ陷ルヲ信セハ茲ニ鞏固ナル防禦ヲ爲ササルヘカラス唯夫レ純然タル防支ニアラスシテ攻勢ノ意思ヲ有スル所ノ防禦タラスンハアルヘカラス換言セハ敵ヲ不利ノ位置ニ誘ヒ茲ニ猛烈ナル逆撃ヲ爲スコトニ依リテ敵

ヲ擊退セサルヘカラサルナリ凡ソ此目的ヲ有スル防禦ハ其陣地ヲ選定スルニ當リ第一ニ注意スヘキ主眼ハ敵ヲ脅威シ並ニ射撃効力ヲ有利ナラシムルニアリ何ヲカ敵ヲ脅威スト言フ曰ク敵ヲシテ我需メタル戰鬪ニ應セサルヲ得サルニ至ラシムルコト換言セハ是非トモ我陣地ヲ攻撃セサルヘカラサルカ若シ否ラスシテ迂回ヲ試ミントセハ我ハ之ニ對シテ十分ナル利益ヲ以テ攻勢ニ移轉シ得ヘキ條件ヲ有スルコト是レナリ是故ニ著大ナル障碍物ニ接着スルカ如キハ全ク有利ニアラス蓋シ斯ノ如キ障碍物ハ或ハ敵ヲシテ一時攻撃ヲ斷念シ以テ戰鬪ヲ他ノ方面ニ誘致セシメラルコトアレハナリ夫レ然リ而シテ敵ノ攻撃ニ對シ陣地ヲ守備スル軍隊ハ固ヨリ天然ノ要害並ニ人工ノ補助ニ依リテ其強度ヲ増加セラレアルモ元來甚シク節約サレタル兵力ヲ以テ優勢ナル敵ノ攻撃ニ對シテ抵抗ヲ持續セサルヘカラサルナリ而シテ其抵抗愈々頑強ナルニ從ヒ愈々夥多ノ敵兵ヲ吸引シ愈々總豫備隊ノ攻撃動作ヲ容易ナラシムルヲ得ルモノトス斯ノ如ク重大ニシテ且ツ困難ナル任務ヲ圓滿ニ終了セント欲セハ一二

火器ノ利用ニ依リ而カモ其射撃効力ヲ最モ有利ニ發展セシメサルヘカヲサルナリ是ヲ以テ防守正面ハ敞開セル前地ヲ有セサルヘカラス又天然ノ要害ヲモ有セサルヘカラス而シテ又總豫備隊ノ攻撃ニ轉スルニ方リテ十分ニ展開シ得ヘキ餘地ヲ一側ニ有セサルヘカヲサルナリ。

以上ノ主旨ヲ以テ陣地ヲ選定セハ香貫山ヲ右翼ノ據點トシ日吉ヲ經テ其西北方ニ亘ル線ヲ占領スルヲ適當トス即チ此陣地ハ敵ヲシテ我射撃界外ニ於テ渡河セシムルノ不利アリト雖敞開セル前地ヲ有シ且ツ敵ヲシテ近ク其背後ニ黃瀨川ノ障碍ヲ控ヘシメ又々主力ヲ以テ遠ク北方ノ高地上ヲ迂回スルニ際セハ其運動ノ遲緩(平地上ヲ運動スルニ比スレハ困難ナルヘシ)セルニ乘シ左側後ニ位置セル總豫備隊ヲ以テ小林方面ニ向ツテ猛烈ナル逆撃ヲ以テ敵ヲ分斷スルヲ得ヘシ。

以上述ヘシ所ノ理由ニ基キ當時ニ於ケル支隊長トシテ次ノ如ク決心ヲ爲スヲ至當トスヘシ。

黃瀨川支隊ハ香貫山ヨリ日吉ヲ經テ其西北方ニ亘リ陣地ヲ占領シ敵ニ抗セントス。

理由

一、目下東海道ヲ前進セシ敵ハ既ラ三島町附近ニ達シアルヘク又熱海街道上ノ敵ハ午前十一時頃ヲ以テ其兵力ノ大部ヲ三島町附近ニ集結スルヲ得ルナラン而シテ此際北方ヨリスル敵ハ其先頭ヲ以テ上土狩附近ニ到着セラルヘシ夫レ斯ノ如シ支隊ハ安ソ北方ヨリ敵ノ壓迫ヲ受ケサルニ先タチ三島方面ノ敵ヲ撃破スルヲ得ンヤ若シ夫レ一部ヲ以テ北方ノ敵ヲ拒支セシメントセハ少クモ伊豆島田若クハ上土狩附近ヲ堅固ニ占領セシメサルヘカラス否ラサレハ敵ノ全力ヲ抑留スルコト至難ナルヘシ蓋シ八反田高地ノ如キハ持久戰ヲ爲スニ適當ナリト雖敵ハ一部ヲ以テ之ニ當テ主力ヲ以テ伊豆島田方面ヨリ我砲火ヲ避ケツ、南進シ得ヘケレハナリ然ルニ上土狩殊ニ伊豆島田ハ果シテ之ヲ確實ニ占領シ得ルヤ彼我ノ距離上實ニ覺

東ナカルヘシ且ツ上土狩ノ如キハ優勢ノ敵ニ對シ長ク抵抗シ得ヘキ陣地ニアラサルナリ是故ニ支隊ハ一時攻撃ノ動作ヲ止メ陣地ヲ占領シ確實ナル方法ヲ以テ敵ニ抗スルヲ要ス。

二、黃瀨川左岸ノ地區ハ防禦スルニ適當ナル陣地ナキノミナラス直後ニ障礙ヲ控フルノ不利アリ然ラハ右岸ニ接着シテ占領センカ東方ニ對シテハ敵ノ渡河ヲ防支スルヲ得ヘシト雖北方ニ對シテハ之ヲ妨害スルヲ得サルヲ以テ危險ニ陥ルノ虞アリ若シ夫レ東方ニ對シ十分ニ固守スルニ足ルヘキ兵力ヲ留メ主力ヲ以テ小林附近ヲ占領センカ北方ノ敵ニ對シテ却テ劣勢ヲ來スノ虞アルノミナラス小林附近ノ高地ハ常ニ左側ヨリ脅威ヲ受ケ長ク抵抗シ得サルノ不利アリ而カモ一旦小林附近ヲ撤退セハ更ニ沼津附近ヲ占領スルコトハ不可能ニ屬スヘシ殊ニ此陣地ハ攻勢ニ移轉シ得サルヲ以テ全ク防禦ノ目的ニ合セサルヘシ。

三、香貫山ヨリ日吉ヲ經テ其西北ニ亘ル線ハ敵ヲシテ我射界外ニ於テ渡河

セシムルノ不利アリト雖敵開セル前地ヲ有スルト殊ニ東海道方面ハ香貫山ヨリ十分ニ制シ得ルノ利アルヘシ而シテ敵ハ縱令我射擊界外ニ在リテ渡河シ得ルモ長ク開濶地ヲ我射擊ノ下ニ前進セサルヘカラサルト直後ニ黃瀨川ノ障礙ヲ控フルノ不利ヲ犯ササルヘカラス故ニ此際攻勢ニ轉スルノ好機ヲ得ルコト無シトセサルナリ若シ夫レ敵ハ主力ヲ以テ岡一色方面ヨリ我側翼ニ壓迫シ來ラントセハ最モ永ク開濶地ヲ曝露シテ前進セサルヘカラサルヲ以テ我ハ之ニ應スルコト最モ容易ナルヘシ而カモ此際容易ニ總豫備隊ヲ以テ逆擊ニ轉スルノ好機ヲ求メ得ラルヘシ。

處 置 (作業上ノ都合ニ由リ之ヲ省略ス)

狀 况

午前九時十分支隊長ハ小諏訪ニ於テ本隊ノ歩兵及衛生隊ニ小諏訪北方乾田ニ砲兵聯隊(聯隊段列及重砲兵中隊モ共ニ)ニ同村無名祠附近ヲ先頭トシ街道上ニ集合スヘク又大行李ニ原宿附近ニ於テ東海道ノ南側ニ集合スヘキヲ命シ同

支隊ノ動作

時二目下ノ狀況並ニ支隊カ取ラントスル所ノ策案ヲ筆記シ軍司令官ニ報告スル爲メ清水港ニ向ツテ送致セシメタリ但シ之ニ先タチ前衛ニハ其主力ヲ以テ日吉附近ニ位置シ一部ヲ以テ香貫山及黃瀨川(村落)中石田ヲ占領シ左縱隊ニハ小林及上石田ヲ占領シ共ニ支隊ノ開進ヲ掩護スヘキコトヲ命シタリシ。次テ支隊長ハ砲兵聯隊長ヲ從ヘ豫シメ地圖ニ由リ選定セシ陣地偵察ノ爲メ先ツ日吉ニ至リ香貫山及該村附近ヲ觀察シ午前九時五十分澤田ニ至リ茲ニ各隊長(小諏訪出發ノ際豫メ茲ニ集合スヘキコトヲ命シアリタリ)ニ陣地守備ニ關スル命令ヲ與ヘタリ。

問題

支隊長ノ陣地偵察ノ結果ニ基キ諸君ハ香貫山ヨリ日吉ヲ經テ其西北方ニ巨ル線上ニ如何ニ支隊ヲ配備スルヤ。

右答解ニ關スル講評及意見

凡ソ陣地ヲ配備スルニ當リ先ツ顧慮スヘキハ敵ノ攻撃方向是レナリ夫レ敵ノ

我ニ最モ蔭蔽シテ接近シ得ルハ東海道方面ナリ蓋シ此方面ハ黃瀨川渡河ノ爲メ數多ノ渡場ヲ有シ且ツ中石田及黃瀨川ノ部落ハ能ク其渡河ヲ掩蔽シ以テ其展開動作ヲ容易ナラシム故ニ下石田ト高田トノ中間地帯ハ我ノ最モ注意ヲ拂ハサルヘカラサル區域タルヘシ諸君ノ多クハ下石田ヨリ日吉ニ向フヘシト推定セルモノアリ固ヨリ敵ノ取ルヘキ策案ハ之ヲ確決スル能ハサルヲ以テ何レノ方面ニ對スルモ其企圖ヲ防支シ得ヘキ設備ナクンハアルヘカラス然レトモ部落ハ元來軍隊ノ運動ニ障礙ヲ與フルコト密林ヨリ一層甚シキコトハ諸君ノ日常經驗スル所ニ由リ熟知セラル所ナルヘシ攻撃軍隊ノ主部タル夥多ノ兵力ヲシテ錯雜ナル村落ヲ瀘過セシメントスルハ一ノ難事ニ屬ス又高田以北ノ地區ハ軍隊ノ動作ヲ阻害スヘキ地物ナシト雖全ク敞開シ我歩砲兵ノ彈丸ニ由リ長ク且ツ大ナル障礙ヲ呈スヘシ。

是故ニ下石田ト高田トノ中間地帯ハ敵ノ主部ヲ以テ攻撃シ來ル公算最モ多カ
ルヘキヲ以テ我歩砲兩兵科ノ射撃ヲ此方面ニ集中セシムルコトヲ努メサルヘ

支隊ノ動作

カラサルナリ。

日吉ノ東端ニ歩兵一大隊ヲ配備スルコト諸君皆然リ實ニ地圖ノ解讀不十分ト
言ハサルヘカラス此事ハ前段ニ於テ少シク述フル所アリシ請フ地圖ヲ披テ之
ヲ熟讀セヨ日吉ノ東部ハ凹地ニ位置シ尙ホ東端ハ最低部ナルコトハ細流ノ存
スルコト並ニ水流ニ沿フテ描畫サレシ暈滯ニ由リテ推知セラレ得ヘシ而シテ
其前方僅少ノ距離ニ於テ更ニ凹地ノ存スルアリテ射界ハ僅ニ二百米以内ニ制限
セラル而カモ高ク仰テ射撃セサルヘカラサルカ如キ不快アリ斯カル不利ノ位
置ニ多クノ兵力ヲ配備スルハ全ク貴重ナル戰鬥力ヲ放棄スルニ過キサルナリ
安ソ下石田方面ヲ制スルヲ得ンヤ近距離ニ於ケル優勢ナル敵火ノ爲メ直ニ壓
倒セラレンノミ香貫山ハ東海道方面ニ對スル唯一ノ據點ニシテ又タ我陣地ノ
右翼ヲ托スヘキ良好ノ地物ナリ然ルニ茲ニ着意セラレシモノ甚タ鮮キハ實ニ
遺憾トスル所ナリ若シ敵ノ一部ニシテ此高地ヲ占領セラレンカ日吉附近ニ於
ケル我部隊ハ忽チ崩壞スルニ至ルヘシ茲ニ僅少ナル部隊甚シキニ至リテハ展

望哨ニ過キサルモノヲ出セルハ支隊ノ配備ニ於テ大ナル過失タルヲ免レサル
ナリ。

夫レ陣地ヲ守備スルニハ砲兵ハ實ニ其骨幹ヲ爲スモノトス而シテ之レカ陣地
ハ射撃ヲ推定セル敵ノ攻撃方向ニ集中シ最近距離ニ至ルマテ敵ノ歩兵攻撃ヲ
射撃シ且ツ翼ニ對シ敵ノ爲サントスル企圖ニ對シ有効ニ應シ得ラレサルヘカ
ラサルナリ尙ホ敵ノ有効ナル歩兵火ニ對シテ防禦セラレ我歩兵ハ砲兵戰ニ際
シ直接ニ損害ヲ共ニセサル爲メ前方約六百米ニ我歩兵線ノ存スヘキ位置ナル
ヲ要ス抑モ砲兵陣地ハ必スシモ直接照準ヲ爲シ得ヘキヲ要セサルナリ往時ニ
於テハ動目標ニ對スル間接射撃ヲ無効トシテ採用セラレサリシモ今ヤ火器ノ
改良ハ其射撃速度ヲ高上シ如何ナル速度ヲ以テ運動スル敵ト雖容易ニ移轉シ
得ヘキ大ナル被彈面ヲ脱スル能ハサルニ至レリ從ツテ動目標ニ對スル間接射
撃モ其及ホス所ノ効力毫モ直接射撃ニ讓ラサルナリ殊ニ遮蔽セル陣地ハ過早
ニ我陣地及兵力ヲ現ハスコトナク敵ノ陣地進入及其最初ノ展開ニ際シ之ヲ射

撃スルヲ得ルノミナラス又遮蔽陣地ハ優勢ナル敵砲兵ニ對シ戰鬪ノ實行ヲ容易ナラシメ且ツ戰場ニ於ケル側方移動ヲ便ナラシムルモノトス是故ニ諸君ノ如ク強テ直接射撃ヲ爲サシメンカ爲メ之ヲ步兵線ニ接近セシムルカ如キハ必スシモ必要トスル所ニアラサルノミナラス却テ敵ノ歩砲兩火ニ對スル損害ヲ大ナラシムヘシ然レトモ茲ニ最モ注意スヘキコトアリ即チ步兵攻撃ノ動目標ニ對シテ最初ヨリ最モ有効ニ射撃スル爲メ遮蔽陣地ヲ適時ニ放棄シ以テ曝露陣地ニ進出スルコトヲ最モ必要トスルコトアリ此場合ニ於テハ固ヨリ戰鬪間之ヲ爲スヘキモノナルヲ以テ遮蔽陣地ハ曝露陣地ノ近傍ナラサルヘカラサルコト是レナリ是レ決シテ忘却スヘカラサルナリ之ニ反シテ榴彈砲中隊ハ間接射撃ヲ主トシ且ツ之レカ指揮ニ慣熟セル指揮官ニ依リ指揮セラレアルヲ以テ何レノ場合ニ在リテモ特ニ直接照準ヲ爲スヘキ陣地ニ出スノ要ナカルヘシ而シテ此中隊ノ得意トスル所ハ掩護體ノ後方ニ直接シテ位置スル目標並ニ村落及高樹ヨリ成ル森林ノ内部ニ遮蔽スル軍隊ニ對シテ射撃スルニアリ故ニ此中

隊ノ陣地ハ主トシテ黃瀨川(村落)附近及其南方黃瀨川ノ渡渉場並ニ中石田ノ東側及日吉東側ヨリ北方ニ進入スル凹地ニ對シテ十分ニ射撃シ得サルヘカラサルナリ諸君ノ如ク何ノ考察スル所ナク唯歩兵線ニ接近シテ布置スルカ如キハ蓋シ誤用タラスンハアルヘカラサルナリ。

抑モ陣地ノ幅員ハ指揮官ノ見込ト使用シ得ヘキ兵力トヲ以テ標準トナスヘキモノトス若シ夫レ正面過廣ナルトキハ守備ニ充ツヘキ兵力ヲ多クシ爲メニ決戰地點ニ強大ナル總豫備隊ヲ使用スル能ハサルヘシ然レトモ陣地ハ敵ノ兵力ヲ吸引スルコト多々益々多キニ從ヒ我攻勢移轉ノ効果ヲシテ益々確實ナラシムルモノトス故ニ其正面ハ過狹ナラサルヲ要ス夫レ本陣地ニ於テ決戰ヲ求ムヘキ攻勢地帯ハ東海道方面ニアラスシテ其北方ナルコトハ多言ヲ要セサルヘシ故ニ敵ノ攻撃方向如何ニ拘ハラズ此方面ニ總豫備隊ノ展開シ得ヘキ十分ノ餘地ヲ存スルコト極メテ緊要ナルヘシ諸君或ハ言ハン我陣地ニ對シ敵ハ主力ヲ以テ北方高地上ヨリ遠ク我左側背ニ迫ラント夫レ或ハ然ルコトアラン然レ

トモ斯ノ如キ動作ハ全ク個々分離シ我ニ攻勢移轉ノ好時機ヲ與フルモノナルヲ以テ毫モ顧慮スルニ足ラサルナリ而カモ我ハ斯ノ如キ好時機ヲ容易ニ發見シ得ルノ便ヲ有セリ。

防守正面ニ於ケル備配法並ニ總豫備隊ノ位置及隊形ニ關シテハ本書第一卷(百〇八葉乃至百一十一葉及百五十三葉乃至百十八葉)ニ詳述セルヲ以テ更ニ茲ニ述フルヲ要セス。

以上述フル所ノ理由ニ基キ本陣地ニ於ケル支隊配備ノ概要ハ左ノ如シ但シ其詳細ハ略圖第一號ニ明カナリ。

一、歩兵第一聯隊第二大隊(機關銃一隊及騎兵一小隊工兵一小隊ヲ屬ス)ヲシテ東海道方面殊ニ下石田ト日吉トノ中間地帯ニ對シ十分ニ火力ヲ集注シ得ル如ク香貫山ヲ占領セシム又南北德倉(狩野川ノ左岸)方向ヲ警戒セシム。

二、歩兵第二聯隊第一大隊本部並ニ二中隊缺ヲシテ下石田、高田ヲ連接スル

線ニ對シテ日吉ヨリ、高田ト新田トノ中間ニ亘ル間ヲ占領セシム但シ一部ヲ黃瀨川(村落)中石田及上石田ニ出シ敵ニ對シ各渡場ヲ監視セシム。

騎兵二分隊及工兵第二中隊ノ第一小隊ヲ屬ス。

三、野戰砲兵第一聯隊(第二大隊本部並ニ二中隊缺)ヲシテ下石田高田間及高田北方ノ地區並ニ黃瀨川(村落)附近及中石田東側並ニ日吉東側ノ凹地ヲ射撃シ得ル如ク新田及七反田附近ニ陣地ヲ占領セシム但シ榴彈砲中隊ヲ砲兵聯隊長ノ指揮ニ入ラシメ又工兵第一中隊(一小隊缺)ヲ屬ス。

四、歩兵第一聯隊(第二大隊及機關銃隊缺)及同第二聯隊第一大隊(二中隊缺)ヲ總豫備トシテ第一聯隊ハ澤田ノ西方乾田ニ第二聯隊第一大隊ハ中澤田ノ西側ニ位置セシム。

但シ澤田東方無名祠及西熊堂ノ東端附近ニ各一小隊ヲ出シ勉メテ蔭蔽シ東方及東北方ニ對シ警戒セシメ又西熊堂北方高地ニ將校ノ指揮スル展望哨ヲ出サシム。

工兵隊ハ各其所屬隊ニ屬スル所要ノ工事ヲ完成セハ總豫備隊ノ位置ニ在ラシム。

五、騎兵聯隊ヲシテ敵ノ壓迫スルニ從ヒ小林方面ニ引退シ爾後支隊ノ左側ヲ警戒セシム。

六、衛生隊ヲシテ沼津町西端ニ於テ繙帶場ヲ開設セシム。

七、支隊司令部ハ之ヲ澤田ノ東方約三百米ノ處ニ置キ步兵第一聯隊第二大隊本部同第二聯隊本部及野砲兵聯隊本部並ニ西熊堂北方高地ノ展望哨處ニ電話線ヲ以テ連絡セシム。

狀況

午前十時本隊ノ諸隊ハ殆ント小諏訪附近ニ集合ヲ終リ直ニ各其守備地ニ向テ前進シツ、アリ。

午前十一時各隊ハ既ニ其守備スヘキ陣地ニ到着シ工事ニ從事シアリ此時尙ホ未タ黃瀨川左岸ノ地區ニ於テ大ナル敵ノ行動ヲ認メス唯其步兵斥候ノ玉川及

新宿附近並ニ上土狩及納米里附近ニ出沒セシニ過キサリシ。

午前十一時四十分ニ至リ各隊ハ略々其工事ヲ完成シタリ其概要次ノ如シ但シ詳細ハ略圖第一號ニ明カナリ。

一、步兵第一聯隊第二大隊ハ圖上、上香貫ノ上字ノ正東約八百米ノ稜線上ニ黃瀨川(村落)ニ面シテ一中隊分ノ散兵壕(鉢巻形)ヲ其西方ノ比較的廣キ稜線上ニ下石田西側ニ面シテ一中隊分ノ散兵壕ヲ構築シ尙ホ日吉橋梁ノ東方水車房ヲ左翼トシテ左岸ニ接シ日吉東側ノ凹地ヲ掃射シ得ヘク一中隊分ノ散兵壕及其南方高地斜面ニ機關銃坐ヲ構築セリ。

二、步兵第二聯隊第二大隊ハ下石田、高田ヲ連接セル線ニ平行シテ日吉ノ北端ヨリ鐵道ヲ經テ其西北約二百米ノ處ニ亘リ三中隊分ノ散兵壕ヲ蓮光寺東方部落ノ東側ニ約二中隊分ノ掩壕ヲ構築セリ。

同第三大隊ハ第二大隊ノ左翼ヲ隔ツルコト約四百米ノ地點ヲ右翼トシ西北ニ亘リ三中隊分ノ散兵壕及其中央後約三百米ニ二中隊分ノ掩壕ヲ構築

セリ但シ第一線左翼散兵壕ハ梯次後退セリ。

機關銃用ノ掩體ハ各大隊ノ兩翼ニ構築シアリ但シ第三大隊ノ左翼方面ハ左翼散兵壕ノ右翼ニ構築セラレアリ。

又七反田東北方約二百五十米ノ處ニ二中隊分ノ掩壕ヲ構築シ地區豫備隊ニ供セリ。

三、砲兵聯隊ハ其第一大隊ヲ新田ノ北側東方約百米ノ線ニ第四中隊及榴彈砲中隊ヲ七反田北側及東北側ニ布置シ各肩牆ヲ構築シ且ツ此兩集團ハ共ニ電話線ヲ以テ新田東北方約二百五十米ノ處ニ在ル聯隊本部ニ連絡セリ又砲兵將校斥候(榴彈砲中隊ニ屬スル者)ヲ香貫山及小林北方ノ高地(此斥候ハ敵ノ前進ニ從ヒ西熊堂北方高地ニ引退スルコト)ニ出シアリ。

正午十二時ニ至リ第一線諸隊ハ所要ノ部隊ヲ散兵壕ニ就カシメタリ其他各部隊モ既ニ所命ノ位置ニ配置ヲ終リ今ヤ敵ノ顯出シ來ランコトヲ待チツ、アリ此時在長澤騎兵聯隊長ヨリ左ノ報告アリ曰ク

一、午前十一時三十分頃ヨリ西部玉川及新宿ノ兩側ハ敵ノ歩兵ニ依リテ占領セラレタリ。

又今朝來三島町ニ在リシ敵ノ騎兵ハ其主力ヲ以テ上土狩方面ニ移轉セシモノノ如シ。

二、聯隊ハ今ヨリ一部ヲ長澤附近ニ殘置シ主力ヲ以テ中土狩方面ニ移リ北方ノ狀況ヲ搜索セントス。

午後十二時三十分ニ至リ在下土狩騎兵聯隊長及小林北方高地ニ在ル砲兵將校斥候ヨリ報告アリ其要旨次キノ如シ。

一、上土狩、納米里及下長窪ハ敵ノ歩兵ニ依リテ占領セラレシモノノ如シ其兵力何レモ一中隊ニ過キササルヘシ。

午後一時三十分ニ至リ騎兵聯隊長ヨリ次キノ報告アリ曰ク

一、敵ノ歩兵約二中隊上土狩及其西方德倉ヨリ前進シ中土狩ヲ經テ尙ホ南進シアリ。

二、聯隊ハ一部ヲ本宿附近ニ殘置シ主力ヲ以テ小林方面ニ引退シ支隊ノ左側ヲ警戒セントス。

午後二時ニ至ルモ活潑ナル敵ノ行動ナク唯敵ノ歩兵及騎兵斥候ノ竹原及伏見附近ニ出沒セシノミナリシ。

午後三時ニ至リ在長澤騎兵部隊ヨリ次キノ報告アリ曰ク

嚮キニ西部玉川及新宿附近ヲ占領セシ敵ノ歩兵ハ今ニ至ルモ前進ノ模様ナシ現ニ玉川西端及新宿ノ兩側ニハ工事ヲ施シツ、アリ。

間モナク騎兵聯隊長ヨリ次キノ報告アリ曰ク

嚮キニ中土狩ヲ經テ南進セシ敵ノ歩兵ハ下土狩ノ南端及西端ヲ占領シ目下工事ニ從事シアリ。

又下長窪南方ノ高地ニハ長サ約百米ノ散兵壕ヲ小林方向ニ面シテ掘開セラレタリ。

午後四時三十分頃ニ至ルモ前ト同一ノ狀況ヲ以テ繼續セラレ唯斥候ノ我ニ近

ク出沒スルノ外他ニ何等ノ行動ナカリシ。

時正ニ日沒ニ近ツケリ支隊長ハ何事力決セスンハアルヘカラス是ニ於テカ本夜ハ如何ニシテ徹スヘキカノ問題ヲ提起スヘシ。

問題

本夜ニ關シ支隊長ノ降スヘキ命令

右答解ニ關スル講評及意見

凡ソ戰術問題ノ答解ニ於テ夜間ニ於ケル警戒法ノ如ク多種多樣ナルモノハ他ニ其類ヲ見ストハ何人モ能ク言フ所ナリ果セル哉諸君ノ答解ハ一トシテ其區處ヲ同フスルモノナシ之ヲ一々列記スルハ實ニ其繁ニ堪ヘサル所ナリ故ニ其要旨ヲ捉ラヘテ茲ニ列記シ以テ之ニ對スル研究ヲ爲サントス其細部ノ如キハ諸君自ラ研究ヲ爲シ得ルノ機會アルヲ信スルナリ。

一、普通ノ警戒法ニ於ケルカ如ク一ノ前哨部隊ニ依頼シ本隊ヲ沼津町及其附近ニ宿營セシメントスルモノ。

支隊ノ動作

二、戦闘準備ノ隊形ニ展開シタル儘夜ヲ徹セントスルモノ。

本問題ヲ答解スルニ當リテハ先ツ支隊ハ戦闘準備ノ隊形ニ展開シタル儘々夜ヲ徹スヘキヤ又或ハ前哨部隊ニ依頼シテ成シ得ル限りノ休養ヲ與ヘ得ヘキヤ如何ヲ解決セサルヘカラス。

抑モ西部玉川及新宿附近ノ如キハ果シテ其主力ニヨリテ占領セラレアルヤ否ヤ固ヨリ明確ナラサルモ既ニ其一部タリトモ之ヲ占領シ尙ホ又下土狩及下長窪南方高地ノ如キモ既ニ占領セラレアリ則チ敵ハ此線上ニ主力ヲ展開シアリトスルモ恐ラク不當トセサルヘシ尙又彼我相隔タル距離ヲ言ハンカ西部玉川新宿ノ線ノ如キハ我ヲ距ルコト僅ニ三千米餘ニ過キサルナリ固ヨリ砲彈ハ有効ナル勢力ヲ以テ達スヘシ斯ノ如キ状態ヨリ論スレハ即チ野外要務令ノ所謂「敵ニ接近シテ戦闘目前ニ迫ルカ或ハ戦闘ハ唯日ノ暮ルカ爲メニ止ミ明朝更ニ戦ヲ連續セントスル時ニ於テハ休止ノ姿勢ニ在ルモ直ニ戦闘ヲ爲シ得ル準備ヲ保持スルヲ要ス此時ニ方リテハ通常前哨ヲ備ヘス全隊戦闘準備ノ隊形ニ展

開シテ露營シ歩哨斥候ヲ以テ警戒スルノミニシテ特別ノ警戒部隊ヲ出スコトナシ是レ軍隊正面ノ前方ニ在リテ之カ掩護ニ任スル部隊ノ退却シテ戦ヲ始ムルコトヲ避ケンカ爲メナリ故ニ此時ニ方リテハ戦闘線ト警戒線トヲ區別スルコトナシ」トノ條項ヲ適用スヘキヤ論ヲ俟タサルナリ實ニ目下ニ於ケル彼我砲彈ノ有効距離内ニ於テ相對峙シアルノ状態ハ既ニ戦闘目前ニ迫ルハ勿論或ハ決戦ノ時期接迫セルト謂フノ外ナシ尙ホ又彼我未タ共ニ一戦闘タモ交ヘサルモ明朝ハ勿論或ハ夜戦ヲ惹起スルノ虞レナシトセス是故ニ支隊ハ如何ナル場合ニ在リテモ直ニ戦闘ヲ爲シ得ヘキ至嚴ナル準備ヲ爲シアラサルヘカラサルナリ。

然リト雖若シ能ク地形ヲ觀察シ以テ之ヨリ生スヘキ戰術上ノ利害關係ヲ考察セハ果シテ全隊戦闘準備ノ隊形ニ展開シテ露營スルカ如キヲ必要トスルヤ否ヤヲ判定セラレ得ヘシ。

夫レ我前面ニ於ケル黃瀬川ハ東海道方面ニ於テ一橋梁及其附近ニ徒涉場ヲ有

スル。他ノ方面ハ一個ノ橋梁ト一個ノ鐵道橋ニ依ルノ外ナキナリ而シテ鐵道橋ノ如キハ夜間ノ通過極メテ困難ナルコトハ既ニ諸君ノ熟知スル所ナルヘシ之ヲシテ歩兵ノ二列以上ノ縱隊ヲ以テ通過セシメントセハ軌鐵上ニ板ヲ布クカ若クハ軌鐵ノ内部ニテ枕材上ニ板ヲ布カサルヘカラス若シ軌鐵ノ上部ニ板ヲ布カハ繩ヲ以テ之ヲ結束セサルヘカラス枕材上ニ布カハ釘ニテ之ヲ固定スルヲ得ルモ其幅ノ狹キカ爲メ夜間二列ヲ以テ行進スルハ頗ル危険ナルヘシ此ノ如キ有様ナルヲ以テ鐵道橋ハ眞ニ僅少ナル歩兵ノ利用ニ過キス從ツテ大ナル顧慮ヲ要セサルヘシ然ラハ則チ我陣地前ニ顯出センカ爲メニハ僅ニ二個ノ橋梁ト二個處ノ徒涉場ヲ利用スルニ過キサルナリ元來黃瀨川ハ其流線ノ方向ニ於ケル傾斜頗ル急ナルヲ以テ其流速モ亦緩ナラス從ツテ暗夜ニ於ケル徒涉ヲ困難ナラシメ或ハ之カ爲メ混雜ヲ來スコト無シトモサルナリ夫レ斯ノ如シ即チ敵ノ企圖ニ對シテ大ナル障礙ヲ與ヘアルヤ明カナリ若シ夫レ一部ヲ以テ諸渡河點ヲ守備セシメハ我正面前ニ於ケル敵ノ渡河ヲ絶對ニ拒支シ得ヘシト

謂フモ過言ニアラサルヘシ。

是故ニ我前面ハ縱令近ク敵ト對峙シアルモ大ナル顧慮ヲ要セサルヘシ而シテ其顧慮ヲ要スヘキハ小林方面ニ歸セサルヘカラス然レトモ此方面モ亦地形甚々狹ク夜間大兵ノ運動多少困難ナルノ感ナキニアラサルナリ抑モ夜間ニ於ケル軍隊ノ運動ハ甚々困難ナルモノニシテ錯誤ニ陥リ易シ故ニ指揮官ハ百方手段ヲ盡シテ晝間ヨリ準備ヲ完全ナラシメ特ニ地形ヲ偵察シ行進目標及行進路等ヲ確定セサルヘカラサルヲ原則トス、然ルニ今正午來我騎兵ハ終始黃瀨川左岸ニ在リテ搜索ヲ續行シ敵ノ一兵タモ之ニ接近セシ狀況ヲ呈セス且ツ夫レ敵ハ本日其行進ヲ續行シタランニハ正午過キニハ我陣地前ニ顯レ午後一時過キヨリ攻撃動作ヲ開始シ得ヘキニ却テ西部玉川、新宿及下長窪南方高地ニ工事ヲ見ルニ至ルハ多少異ムヘキ點ナキニアラサルナリ若シ晝間ノ攻撃ヲ止メ夜間之ヲ決行セントナラハ之ニ要スル諸般ノ偵察ニ着手セサルヘカラサルノミナラス元來夜間攻撃ナルモノハ多クハ晝間戰鬪ノ繼續ニ由リテ起ルカ若クハ戰

線ノ一部ニ於テ施行セララルモノニシテ未タ一戦ヲ交ヘス而カモ我陣地前近クニ大ナル障碍ヲ控ヘアルニ對シテ勝敗ヲ一六ニ訴ヘントスルカ如キハ縱令敵カ夜間攻撃ニ於ケル諸般ノ準備ヲナシアルニモセヨ彼我一般ノ状況上決シテ有り得ヘシト信スルヲ得サルナリ若シ敵ニシテ之ヲ敢行スルトスルモ毫モ恐ルル所ニアラサルナリ何トナレハ地形全ク敵ノ運動ヲ制限シアレハナリ。諸君或ハ想フモノアラン敵ハ夜暗ヲ利用シ黃瀬川ヲ渡リ拂曉ヲ待ツテ我ヲ攻撃スルナラント夫レ或ハ然ラン然レトモ拂曉ニ乘シ我ヲ攻撃センコトヲ企圖セハ其攻撃ヲ爲シ得ヘキ時刻ニ渡河シ終ル如ク來ルヘシ早クヨリ黃瀬川ヲ渡リ長時間右岸ニ在リテ靜カニ拂曉ヲ待ツカ如キハ決シテ我ノ許シテ爲サシムヘキコトニアラサルヘシ何トナレハ我陣地前否、警戒線上ニ敵ノ大部來著スルヲ知ラレサルノ理アルヘカラサレハナリ。

彼我一般ノ状況上ヨリ觀察スルモ又地形上ヨリ攻究スルモ既ニ夜間戦闘ノ惹ルヘキ状態ナカルヘシト論シ來ラハ必スシモ疲勞最モ甚シキ戦闘準備ノ隊形ニ展開シタル儘々夜ヲ徹スルヲ必要トセサルナリ縱令敵ノ一部夜襲ヲ企ツルモ其來ルヘキ公算ハ東海道方面若クハ小林方面ニ在リ又若シ全力ヲ擧ケテ夜襲シ來ルトスルモ黃瀬川並ニ小林北方ニ於ケル狹小ニシテ錯雜ナル地形ハ確カニ其前進ニ鮮カラサル妨害ヲ與フヘキヲ以テ此間支隊ハ適時ニ適當ノ區處ヲ爲シ有利ニ之ニ當ルヲ得ヘシ之カ爲メ相當ノ兵力ヲ使用シ適當ノ位置ニ在リテ嚴重ナル警戒ヲナシムルヲ要ス而シテ之カ掩護ニ依リテ其他ハ若干後方ニ退ケ以テ成シ得ヘキ休養ヲ與フルモ之カ爲メ危殆ニ陥ルコト殆ト之レナカルヘシ。

凡ソ指揮官タルモノハ部下ノ兵力ヲ愛惜セサルヘカラス之カ爲メニハ狀況ヲ至當ニ判斷シ必要以外ニ兵力ヲ使用スルヲ避クヘシ支隊ノ責任解除ハ豈ニ今日ヲ以テ終リトセンヤ過劇ノ勞働ヲ要求スヘキノ時機蓋シ近キニ在ルヘシ。然レトモ諸君ノ内或者ノ僅ニ歩兵一大隊ヲ以テ前哨ニ任シ其他ヲ盡ク宿營セシムルカ如キハ大膽ナル行爲否、寧ロ思慮ナキ暴勇ト謂フヘキナリ斯ノ如キ少

數ノ兵力ヲ以テ而カモ暫時ノ間支隊ノ陣地ヲ保持セシメントスルハ過誤ノ區處タルヲ免レサルヘシ假令一般ノ狀況夜戰ヲ惹ササルト信シ得ルニモセヨ又一般ノ地形、夜間ノ運動ヲ困難ナラシムルニモセヨ元來敵ノ處置ニ關シテハ豫メ之ヲ確知スルヲ得サルモノトス故ニ其爲サントスヘキ處置ニ對シテ不覺ヲ取ラサルノ區處ヲ爲シアラサルヘカラサルナリ即チ如何ナル狀況ヲ呈スルモ本日設備シタル陣地ヲ保持スル爲メ此線ニ於テ主力ノ加入スルマテ抵抗ヲ遂行シ得ヘキ十分ノ兵力ヲラスンハアルヘカラサルナリ若シ夫レ僅少ナル警戒部隊ヲ陣地ノ前方ニ出シ其他ヲ盡ク退ケテ沼津町若クハ其附近部落ニ休宿セシムルカ如キニ至リテハ薄氷ヲ踐ムノ危險ヲ冒スモノニシテ其任務ヲ輕ンスルコト之ヨリ甚シキモノナカルヘシ。

之ヲ要スルニ當日ノ警戒法ハ普通ノ狀態ニ於ケル前哨警戒ニアラス而シテ又全隊戰鬪準備ノ隊形ニ展開シテ露營スルニアラス蓋シ兩者ノ幾分ヲ取りタル警戒法ニ依ルヲ最モ適當ト爲スヘシ即チ第一線諸隊ハ陣地ニ所要ノ兵力ヲ留

メテ之ヲ守備セシメ尙ホ黃瀬川ノ右岸ニ監視部隊ヲ出シ以テ諸渡河點ヲ監視セシメ殊ニ一部ヲ以テ小林北方高地ヲ占領セシメ其他ハ近ク後方ノ部落ニ村落露營ヲ爲サシムレハ萬一敵ノ夜襲ヲ受クルモ不覺ヲ取ルコトナカルヘシ。

野外要務令ニ曰ク「時ノ形勢警戒ノ目的及地形ハ各種ノ變化アルヲ以テ前哨ノ爲メ百般ノ時機ニ適用シ得ヘキ一定ノ法則ヲ定メ難シ故ニ前哨ヲ設クル毎ニ部署ノ法、隸屬ノ關係及勤務(巡察斥候等)ノ法等凡テ其時ノ景況ニ從テ定メサルヘカラス」ト夜間ニ於ケル警戒方法ノ多種多樣ニシテ一定ノ形式ニ準據シ得サルコトヲ證スルニ餘リアルヘシ。

余ハ茲ニ機會ヲ利用シテ警戒舍營ナルモノニ關シ少シク述フル所アラントス是レ普通ノ狀態ニ於ケル前哨警戒法ヲ採リシ諸君ノ大部ハ其本隊ヲ日吉若クハ沼津ノ東部及澤田等ニ警戒舍營ヲ爲サシメアリシヲ以テナリ野外要務令ニ曰ク大ナル一舍營地若クハ敵ノ近傍ニ在リテ須要ナルトキハ若干部隊ヲシテ嚴肅ナル戰備ヲ保持セシム然ルトキハ此部隊ハ適當ナル家屋ニ相合シテ警戒

舍營ヲ爲ス、警急舍營ハ勉メテ建制部隊毎ニ一家屋ニ舍營シ服裝ヲ整ヘ裝具ヲ身邊ニ置テ眠臥シ凡テ窓戶ヲ開キ各家屋ニ少クモ兵卒一名(點燈シテ)警戒ヲ爲ス馬匹モ亦此要領ニ從ヒ整頓シ在ルヲ要ス大ナル部隊ノ全部ヲ舉テ警急舍營ヲ行フハ全ク例外ノ場合トス。

夫レ日吉ノ宿營スヘキ關係位置ニ關シ其良否(頗ル不適當ナル位置)ノ研究ハ暫ク之ヲ措キ警急舍營其モノニ就テ論セント欲ス抑モ舍營ナルモノハ敵ニ對シ危險ノ顧慮ナキ場合ニ於テ適用セララルモノトス若シ夫レ戰備ノ至嚴ヲ要センカ露營アリ或ハ村落露營アリ共ニ適用スヘキ宿營法ナリ然ルニ警急舍營ナルモノヲ必要トスル所以ハ蓋シ大部隊舍營シアル場合ニ於テ或ル狀況ニヨリ舍營地ノ急襲ニ對シ先ツ一部ヲ以テ其抗拒ニ任セシメ若クハ土民ノ蜂起ニ備ヘ或ハ一部ヲ以テ前哨ヲ急援セシムル等ノ如キ準備ヲ爲シアルヲ必要トスルコトアルヘシ是レ警急舍營ナルモノヲ設クル所以ニシテ即チ局部的應急準備ニ過キサルヘシ從テ大ナル一舍營地内ニ於ケル須要ノ位置若クハ敵ノ近傍

ニ於ケル舍營區毎ニ一部隊宛警急舍營ヲ爲サシムルモノタルヘシ殊ニ舍營ノ方法ニ於テモ建制部隊毎ニ一家屋ニ收容シ得ルニアラサレハ恐ラク此目的ヲ達スルコト困難ナルヘシ而シテ吾人カ日常日視スルカ如キ一村落内ニ於テ建制部隊ヲ收容シ得ヘキ家屋果シテ幾軒ヲ有スルヤ茲ニ大部隊ノ全部ヲ舉テ警急舍營ヲ爲サシメント欲ス、建制部隊ハ之ヲ措キ恐ラク茲ニ三十人彼所ニ二十人ト謂フカ如キ分配ナラサルヘカラス斯ノ如クシテ尙ホ警急舍營ノ効ヲ收メント欲ス恰モ木ニ縁リテ魚ヲ求ムルニ外ナラサルナリ危險是レヨリ大ナルハナシ是故ニ警急舍營ハ大ナル部隊ノ全部ヲ舉テ之ヲ行フカ如キコト殆ント之レナカルヘシ而シテ其例外ト稱スルハ或ハ旅團若クハ師團ノ如キ部隊ニシテ市街ニ宿營シ居民悉ク敵意ヲ有シ動モスレハ書類及武器等ヲ奪取セントシ若クハ一時ニ蜂起セントスルカ如キ傾向アルトキニ於テ行ハルモノナルヘシ(注意本項ハ新タニ加ハリタルモノニシテ舊令ニハ此事ナシ)。

大行李ノ糧秣使用ニ關シテハ從來諸學者ノ間ニ議論紛々タリシ所ノモノナリ

シカ今ヤ新要務令ニ由リテ之ヲ使用スルノ場合ヲ明瞭ナラシメタルヲ以テ茲ニ之ヲ喋言スルヲ要セサルナリ但シ本支隊ノ如キ糧食縦列ヲ有セサルモノニ在リテハ其給養ハ徵發ニ依ルカ將タ大行李ノモノヲ使用スルカヲ明瞭ニ示ササルヘカラス夫レ沼津ハ駿州ニ於ケル大ナル市街ナリ支隊一日分ノ糧秣ヲ得ルコト決シテ難シトセス若シ夫レ經理官ニシテ豫メ糧秣ヲ徵發シアラシムルトセハ諸隊ニ分配ノ場處及時刻ヲ示ササルヘカラス又尙ホ徵發シアラストセハ大行李ノモノヲ使用スヘキヲ命令セサルヘカラスナリ諸君ノ内兵卒各自ノ携帯セルモノヲ使用セシムルモノアリ是レ不可ナリ支隊ハ未タ糧秣補充ノ確實ナル基礎ヲ得サルヲ以テ成ルヘク之ヲ貯存シ以テ不時ノ用ニ供セサルヘカラス故ニ先ツ大行李ノモノヲ使用シ其補充ハ徵發ニ由リテ之ヲ爲スカ若シ徵發シ得サルトセハ清水ニ至リ補充セシメサルヘカラスナリ之力爲メニハ早クモ三日ヲ要スヘシ此間全ク各自携帯セルモノニ依ルノ外ナキナリ然レトモ沼津町並ニ附近村落ヨリ徵收セハ支隊三四日分ノ糧秣ヲ得ルコト蓋シ難カ

ラサルヘシ故ニ支隊長ハ經理官ヲシテ物資ヲ徵發セシメ(官憲徵發)茲ニ野戰倉庫ヲ設置スルヲ緊要トス果シテ之ヲ設置シ得ルニ至レハ固ヨリ各自携帯(定規ノ携帯口糧ヲ除ク)ノ糧食ヲ使用スルハ當然タルヘシ但シ野戰倉庫ノ設置ハ良好ナル景況ニ於ケルモ一兩日ヲ要スヘキヤ固ヨリ論ヲ俟タサルナリ殊ニ目下ノ狀況ニ於テ果シテ之ニ着手シ得ルヤ否ヤ疑問タラスンハアルヘカラスナリ。

命令ヲ作爲スルコトニ關シテ既ニ前段ニ於テ之ヲ述ヘタリト雖諸君ハ未タ之ヲ至當ニ了解シアラサルカ如キ感アルヲ以テ再ヒ茲ニ注意ヲ喚起セント欲ス是レ熱心ナル諸君ニ對シ余力感謝ノ意ヲ表スル所以ナレハナリ。

凡ソ事明瞭ヲ缺キ實施者ヲシテ徒ラニ其腦裏ヲ惱マサシメ或ハ誤解ヲ來スカ如キハ絶對ニ之ヲ避ケサルヘカラス而シテ若シ誤解セララルコトアランカ其責ハ受令者ニアラスシテ當然發令者ニ歸スヘキモノナルヲ思ヘハ發令者タルモノハ慎重ナル思考ヲ要スヘキコトヲ了解セラルヘシ殊ニ意義明瞭ヲ缺カサ

ル限りハ成ルヘク單簡ニシ殊更ニ文字ヲ増殖シ或ハ冗長ナル形容詞ヲ附加シタル文章ノ如キハ啻ニ軍事上ノ目的ニ適セサルノミナラス誤解ヲ來シ易キモノナリ請フ諸君先輩諸兵家ノ作爲セラレシ命令ヲ熟讀翫味セラレヨ其字句ノ如キ其文章ノ如キ頗ル明確適切ニシテ大ニ自得セララル所アルヘシ又命令ハ一定ノ書式ヲ有スルモノニアラス要ハ野外要務令ノ指示ニ從ヘハ可ナリ然レトモ初學ニ在リテハ先輩諸兵家ノ記載法ニ倣フテ記述スルヲ要ス既ニ習熟スルニ至レハ欲スル所ニ從ヒ順序正シク記シ得ルニ至ルヘシ。

茲ニ又命令者トシテ諸君ノ最モ注意スヘキハ下級指揮官ノ權内ニ立ち入りテ區處スルコト是レナリ是レ實ニ大ナル過誤ト謂フヘキナリ夫レ命令ナルモノハ受令者カ其受ケタル任務ヲ遂行スル爲メ獨斷區處スル能ハサル事項ノミヲ掲クルヲ以テ原則トス其實施ニ關スル細事ハ全ク部下ニ委任スヘキモノナリ殊ニ警戒隊而カモ歩兵聯隊長ノ如キ有力者ニ獨立下士哨ヲ何地ニ出セ或ハ一小隊ヲ何レニ派遣セヨト云フカ如キハ是レ單ニ下級指揮官ノ權内ニ立ち入り

タルノミナラス此些細ナル事項ノ果シテ狀況ニ適切ナルヤ否ヤハ高級指揮官ヨリモ却テ其方面ヲ擔任スル下級指揮官ノ詳知スル所ナリ故ニ斯ノ如キ命令ハ偶々高級指揮官ノ威信ヲ損墜スルノ外他ニ何等ノ利益ヲ有セサルヘシ。以上述フル所ノ理由ニ基キ余ハ支隊長トシテ當夜ニ於ケル命令ヲ左ノ如ク作爲セリ。

黃瀬川支隊命令

一月十七日午後五時三十分
於 澤田東方

一、敵ハ本日前進ヲ企圖セサリシモノノ如シ現ニ西部玉川、新宿附近及下長窪南方高地ニハ防禦工事ヲ施設シアリ。
又下土狩ハ敵ノ歩兵約二中队ニヨリテ占領セラレ其南端及西端ニ工事ヲ築設セリ。

二、支隊ハ本夜現在ノ姿勢ニ在リテ夜ヲ徹セントス。

三、騎兵聯隊ハ歩兵第一聯隊第九中队ノ其地ニ至ルヲ待テ警戒ヲ撤シ西澤田ニ歸來スヘシ但シ該中队ニ騎兵二分隊ヲ交附スヘシ又長澤附近ニハ一

支隊ノ動作

部ヲ殘置シ敵ニ觸接セシメアルヲ要ス。

四、歩兵第一聯隊第二大隊ハ一部ヲ以テ陣地ヲ守備セシメ主力ハ上香貫ニ村落露營ヲナスヘシ但シ一部隊ヲ以テ南北、德倉(狩野川ノ左岸)方向ヲ警戒セシムヘシ。

五、歩兵第二聯隊(第一大隊本部並ニ二中隊缺)ハ少クモ歩兵一大隊ヲ以テ陣地ヲ守備セシメ其他ハ蓮光寺及沼津停車場附近ニ村落露營ヲナスヘシ又特ニ一部隊ヲ日吉ニ出シ東海道方面ヲ守備セシムヘシ。

黃瀬川(村落)中石田、及上石田ニ出シアル各監視部隊ハ依然同任務ヲ續行セシムヘシ。

六、歩兵第一聯隊第九中隊(騎兵二分隊ヲ屬ス)ハ小林附近ニ位置シ中土狩、納米里、及八反田方向ニ對シテ警戒スヘシ。

又上石田ニ在ル監視部隊ト連絡スヘシ。

七、其他ノ諸隊ハ左ノ如ク村落露營ヲナスヘシ。

砲兵聯隊(榴彈砲中隊共)

新田及沼津町西北部

衛生隊二分一

沼津町西端

支隊司令部及歩兵第一聯隊(第二大隊及第九中隊缺) 澤田

歩兵第二聯隊第一大隊(二中隊缺)及工兵隊 中澤田西部

騎兵聯隊

西澤田

警報ニ際シテ砲兵隊ハ陣地ニ其他ノ諸隊ハ本日ノ集合場(騎兵聯隊ハ西澤田ノ南側)ニ集合スヘシ。

八、各隊ハ大行李ノ糧秣ヲ使用スヘシ其補充ニ關シテハ後刻命令スヘシ。

九、余ハ澤田ニアリ午後九時命令受領者ヲ出スヘシ。

支隊長 少將 某

右命令ハ各隊ヨリ來集セル命令受領者ニ口達シテ筆記セシメタリ但シ之ニ先
タチ各隊ニハ電話ヲ以テ本命令ノ要旨ヲ傳ヘ之ニ要スル準備ヲ爲サシメ之ト
同時ニ大行李ニ各宿營地ニ來ルヘキコトヲ命セリ又目下ニ於ケル彼我ノ狀況

支隊ノ動作

ナ軍司令官ニ報告セリ。

又支隊長ハ經理官ヲシテ沼津町ニ至リ大行李補充ノ目的ヲ以テ糧秣ヲ徵集セシメ且ツ爾後ノ爲メ物資ノ徵集シ得ヘキ量ヲ偵察セシメタリ。

狀況

午後六時三十分ヨリ七時ニ亘リ各隊ハ支隊命令ニ依リテ各其區處ヲ終レリ各歩兵隊ヨリ來リシ報告ノ要旨左ノ如シ。

一、歩兵第一聯隊第二大隊ハ香貫山上ニ一小隊、山脚ニ一中隊ヲ留メテ守備

ニ任シ別ニ獨立下土哨ヲ下香貫ヨリ南北德倉ニ通スル兩山頸ニ出シ其他ハ上香貫靈山寺附近ニ村落露營セリ。

但シ騎兵ノ一部ハ南北兩德倉ニ在リ又僅少ナル歩兵部隊ヲ黃瀬、狩野ノ兩川合流點左岸ニ出シアリ。

二、歩兵第二聯隊(二中隊缺)ハ其陣地ノ右集團ニ三中隊、左集團ニ一中隊ヲ配備シ又一中隊ヲ日吉ノ東南端ニ出セリ而シテ一中隊ハ蓮光寺東方部落

ニ他ハ沼津停車場北側ニ村落露營セリ。

三、澤田東方無名祠ニハ歩兵第一聯隊ヨリ一小隊ヲ出シ又西熊堂及其北方高地ニハ歩兵第二聯隊第一大隊ヨリ僅少ナル部隊ヲ出シテ直接ノ警戒ヲ爲サシメアリ。

午後九時ニ至ルモ別ニ狀況ノ變化セシヲ認メサリシ、由テ翌日ノ爲メ支隊長ハ午前四時マテニ各隊ハ各其守備スヘキ陣地或ハ集合スヘキ位置ニ就クヘキ命令ヲ降シタリ。

又此時ニ至リ經理官ヨリ支隊一日分ノ糧食ヲ徵集シ得タルノ報告アリシヲ以テ各隊ニ沼津町西端東海道ノ北側ニ於テ大行李ノ糧秣ヲ補充スヘキ命令ヲ與ヘタリ。

午後十一時頃ニ至ルモ敢テ注意スヘキ狀況ノ變化ヲ認メサリシ唯彼此ノ地ニ單純ナル銃聲ヲ聞キ得シノミ。

一月十八日ニ於ケル狀況

支隊ノ動作

昨夜十二時ヨリ翌十八日午前二時頃ニ至ルマテハ極メテ靜肅ニシテ單純ナル銃聲スラ絶ヘテ無カリシ。

此時軍司令官ヨリ左ノ通報ヲ受ケタリ曰ク

一、余ハ十六日ニ於ケル騎兵第一聯隊ノ行動ニ對シ最モ満足ノ意ヲ表スルト同時ニ其戰勝ヲ賀ス。

又貴官カ敵狀判斷ニ基キ爲サントスル十七日ノ爲メノ策案ハ本職ノ希望スル所ナリ。

二、艦隊司令官ノ通報ニ由レハ昨(十六日)拂曉我水雷艇隊ハ敵ノ艦隊ヲ襲撃シ其一隻ヲ大島附近ニ於テ擊沈セリ又同日午後ニ至リ敵艦ハ終ニ東京灣内ニ逃入セリ。

三、間諜ノ報告ニ由レハ敵ハ尙ホ東京附近ニ其集合ヲ終ラズ然レトモ其一部(兵力不詳)ハ十六日東京ヲ出發シ大山街道ヲ前進セルモノノ如シト。

四、本日(十七日)ハ風波少シク衰ヘタルヲ以テ午後ニ至ラハ上陸ニ着手シ得

ル見込ナリ。

午前四時三十分ニ至リ支隊長ハ澤田ノ東方ニ於テ各隊ヨリ昨日ニ於ケルカ如キ配備ヲ取り終レリトノ報告ヲ受ケタリ。

是レヨリ前キ我監視部隊ノ前面殊ニ小林方面ニハ敵ノ斥候ノ出沒頻繁ニシテ時々僅少ナル部隊ノ近接スルアリ然レトモ何事モ爲スコトナク午前五時頃ニ至レリ。

午前六時五十分ニ至リ長澤附近ニ在リシ騎兵部隊ヨリ次キノ報告アリ其要旨左ノ如シ。

西部玉川ニハ敵ノ歩兵ヲ見ス唯騎兵斥候ノ出沒スルノミ又新宿ノ兩側ニモ僅少ナル敵ノ騎兵部隊ノミナルカ如シ又玉川以南ノ地區ハ頗ル靜肅ニシテ敵ノ單獨兵ヲモ認メス。

午前七時ニ至リ在小林騎兵聯隊長ヨリ左ノ報告アリ曰ク

一、下土狩ニハ敵ノ僅少ナル歩兵ノ存在スルニ過キササルモノノ如シ下長窪

支隊ノ動作

南方高地ハ依然占領セラレアリ。

二、聯隊ハ今ヨリ主力ヲ以テ先ツ本宿ニ至リ下土狩ノ敵兵ヲ驅逐シ上土狩方面ノ狀況ヲ搜索セントス。

問 題

支隊長ノ爲スヘキ狀況判斷

右答解ニ關スル講評及意見

諸君カ支隊長トシテ爲セル所ノ狀況判斷ハ其理由トスル所多種多樣ナリト雖概ネ左ノ諸項ニ歸着ス。

其一、敵ハ其後衛ヲ以テ下長窪南方高地ヲ占領セシメ主力ヲ以テ遠ク北方ニ退却シアルナラン。

其二、敵ハ御殿場ヲ經テ進出セントスル本軍ノ南進ヲ掩護セントスルモノノ如ク且ツ伊豆島田附近ハ我ニ對シ制高ノ利ヲ有スルヲ以テ之ヲ攻撃スルモ成功覺束ナシ故ニ支隊ハ確實ニ黃瀬川ノ諸橋梁ヲ占領シ我動作ノ自

由ヲ保持センカ爲メ現在ノ姿勢ニ在リテ軍ノ來着ヲ待タントス。

其三、敵ハ我ヨリ優勢ナルモ我陣地ニ對シ現在ノ兵力ヲ以テ到底攻撃シ得ヘカラサルヲ察シ伊豆島田附近ニ防禦ヲ爲セシナラン然ルニ支隊ハ敵陣地ノ地形並ニ我兵力上目下攻撃シ得サルヲ以テ現在ノ姿勢ニ在ルヲ要ス。

其四、敵ハ本宿長澤方面ヨリ渡河スルヲ避ケ上土狩以北ノ地區ヨリ渡河ヲ行ヒ我ヲ攻撃セントスルノ企圖ヲ有スルヤ必セリ故ニ支隊ハ現在ノ陣地ニ在リテ防禦スルヲ有利トス。

諸君ノ答解ニ對シ一々之ヲ講評シ以テ其適不適ヲ指摘スルハ此際之ヲ避ケ其全般ニ亘リ順序的考察ヲ記述シ以テ狀況判斷ノ要領ヲ説示スル所アラント欲ス而シテ諸君カ答案ノ當否モ亦之ニ由リテ自ラ判定セラルヘシ。

夫レ狀況判斷ナル問題ニ對シテ或ハ之ヲ決心ナル問題ト同一視シ恰モ異名同實トセラルルノ感ナキ能ハス或ハ全ク之ヲ同一ナルモノトシ唯出題者其人ノ

慣用語ニ過キサルト言フモノアラシ然レトモ余ハ之ヲ同一ナルモノトセサルナリ既ニ状況判断ナルモノト決心トノ二語アルヲ以テ事實上之ヲ區別スルハ當然ノ事ナルヘシ抑モ決心ハ状況ヲ判断スルコトニ由リテ生スルモノナリト雖状況判断ハ必スシモ決心若クハ處置ヲ爲シ得ヘキモノニアラサルナリ而シテ決心トハ意思ノ發働ニ由リテ生スル確定ニシテ我動作ヲ決定スヘキモノナリ即チ前進停止若クハ退却或ハ右或ハ左ニ轉進セントスル等はレナリ然ルニ状況判断ハ讀シテ字ノ如ク状況ヲ判断スルモノニシテ時々刻々得ル所ノ材料ニ從ヒ之ヲ古來ノ實驗ト戰術上ノ原則トニ對照シ以テ之カ動作ヲ判断スルモノニシテ或ハ之ニ對スル新區處ヲ要スルコトアリ又何事モ處置スルヲ必要トセサルコトアルヘシ是故ニ状況判断ナルモノハ毎時ニ於ケル状況ノ順序ヲ逐フテ之ヲ推理的ニ考察シタル結果ニ外ナラサルナリ若シ夫レ敵ノ爲サントスル動作若クハ其目的企望ヲ揣摩憶測シ之ニ對スル我動作ヲ決定スルカ如キハ所謂状況判断ニアラスシテ偶然發生スル所ノ憶測ニ過キサルナリ而カモ斯ノ

如キ憶測ニ由リテ我動作ヲ決定セント欲ス實ニ危險之ヨリ大ナルハナシ何トナレハ敵ノ爲スヘキ動作ハ決シテ一ニシテ足ラサレハナリ又其目的企望モ我考察ノ外ニ出テサルヲ保シ得ヘカラサレハナリ之ヲ要スルニ敵ノ爲スヘキ動作若クハ希望ヲ滔々トシテ論スルモ遂ニ歸納スルヲ得サルナリ然リト雖状況判断ナルモノ即チ毎時ニ於ケル状況ノ順序ヲ逐フテ之ヲ推理的ニ考察シタル結果必シモ常ニ的中スルヲ保セサルナリ何トナレハ彼我兩者ノ動作ハ決シテ機械的作用ニ從フテ支配セラルルモノニアラサレハナリ夫レ然リ然ルニ状況判断ヲ必要トスル所以ノモノハ我動作ヲ好機ニ適合セシメンカ爲メナリ蓋シ戦闘ノ事總テ慎重ヲ要スト雖總テノ現象明確ニ我面前ニ顯出スルヲ待テ動作センカ恐ラク好機ヲ逸シ却テ不幸ノ状態ニ陥ルコトアルハ過去ニ於ケル戰役ノ吾人ニ教訓スル所ナリ是故ニ至當ノ順序ヲ逐フテ毎時發生スル所ノ複雑ナル状況ヲ明察シテ之ヲ適當ニ判断シ以テ自己ノ意思ヲ確立シ之ヲ至當ニ處理スルハ戦闘ヲ導クノ要訣タラスンハアルヘカラサルナリ。

夫レ支隊長ハ多分昨日敵ノ攻撃ヲ受クルト覺悟セシナラン然ルニ午後ニ至ルモ攻撃ヲ受ケサルノミナラス却テ西部玉川、新宿及下長窪南方高地ニ防禦工事ヲ見又下土狩ハ敵ノ歩兵ニ由リテ占領セラルニ至ル是レ實ニ豫想外タリシナラン然レトモ此狀況ハ唯敵カ此日攻撃シ來ラサルト判斷シ得ルノ外敵ノ希望目的ハ之ヲ推知スルニ由ナカリシ次テ本日午前二時頃軍司令官ヨリ敵ノ艦隊東京灣内ニ逃入セリトノ報ニ接スルヤ支隊長ハ更ニ次キノ判斷ヲナセリ即チ最早敵ハ熱海及東海道ニ退路ヲ有セス而シテ又此兩街道ハ支隊ノ爾後北方ニ作戰スルモ何等ノ顧慮ヲ要セサルニ至レリト是レ我艦隊ハ既ニ相模海灣ヲ占領シ從テ其沿岸ヲ砲火ノ下ニ制シ得ヘケレハナリ然レトモ是等ノ狀況ハ目下ニ於ケル前面ノ敵ニ對シ其攻撃シ來ルト否トヲ判決スヘキ材料ニアラサルヲ以テ支隊ハ依然敵ノ拂曉攻撃ヲ受クルコトアルヤヲ顧慮シ之ニ對スル準備ヲ取リテ夜ヲ徹セリ然ルニ拂曉ニ至ルモ活潑ナル敵ノ行動ナキノミナラス却テ昨日來占領セラレアリシ西部玉川、新宿及下土狩ハ全ク之ヲ放棄シタルモノノ

如ク唯僅ニ敵ノ僅少ナル騎兵部隊存在セルニ過キサルノミ是ニ於テカ支隊長ハ更ニ三島附近ニアリシ敵ハ北方ニ轉進シ北方ノ一地部ニ集合セルナラント判斷シ得タルナルヘシ何トナレハ昨日西部玉川及新宿並ニ下土狩ヲ占領シタルハ全ク三島町附近ノ敵ノ北進掩護ニ外ナラサルヘク而シテ其北方ニ移轉セシハ我艦隊ニ因リテ退路ヲ杜絶セラレタルニ起因セルナラン否ラサレハ南北相連繫シテ直ニ我ヲ攻撃スヘキナルニ却テ攻撃セス午後ニ至リ西部玉川及新宿並ニ下土狩及下長窪南方高地ニ防禦工事ヲ爲スカ如キハ一モ他ニ理由ヲ發見シ得サレハナリ(敵ノ攻撃シ來ラサルヲ以テ或ハ其兵力我ヨリ劣勢ナリトノ推測ヲ降セシモノアラン夫レ或ハ然ラン然レトモ敵カ我ヨリ優勢ナルモ目下ノ狀況ニ於テハ先ツ其退路ヲ確實ニシ然後猛烈ニ攻撃シ來ルモ決シテ遲シトセサルナリ否寧ロ作戰上彼ノ利益トスル所ナルヘシ故ニ攻撃シ來ラサルヲ以テ直ニ我ヨリ劣勢ト爲スハ確乎タル理論ト謂フヲ得サルヘシ)而シテ既ニ北方ニ轉進シ終ラハ西部玉川及新宿並ニ下土狩ノ如キハ毫モ守備スルノ必要ナキ

ヲ以テ之ヲ撤去セシハ理ノ當然ナルヘシ而シテ其騎兵部隊ヲ殘置セシハ彼ノ爲セシ動作ヲ長ク陰匿セントスルニ過キサルヘシ。

之ヲ要スルニ敵ニシテ昨午後ニ於ケル状態ニ在リテ直ニ我ヲ攻撃セントセハ三島町方面ノ敵ハ自然東海道方面ヨリセサルヘカラス此際彼ニシテ若シ不利ノ戰鬪ヲ交フルニ至ラハ御殿場方面ニ退路ヲ取ルコト至難ニシテ自然東海道及熱海街道ニ依ラサルヘカラサルヘシ然ルニ彼我艦隊ノ狀況ハ既ニ彼ノ詳知セル所ナルヘキヲ以テ其退路ヲ失セシニ至ルヲ顧慮スルノ餘、先ツ萬全ノ策ヲ取ル爲メ直ニ我ヲ攻撃シ來ラサリシナラント判斷セハ昨日ヨリ今日ニ至ル敵ノ行動ハ實ニ分明ニシテ其攻撃シ來ラサリシ所以ノ問題自ラ解決セラレ而カモ此好時機ニ乘シ得サリシヲ惜マスンハアルヘカラサルナリ。

抑モ東海道及熱海街道ヲ來リシ敵ノ退路ヲ御殿場方面ニ向ケ全ク北方ヨリセル敵ト相合セシトモハ今ヤ何レノ地點ニ現在スルヤ是レ固ヨリ未タ明知スルヲ得サルナリ或ハ之ヲ北方ニ退却セルナラント謂ヒシ者アルモ是レ實ニ偶然

發生シタル所ノ一種ノ感想ニ基キ生シタル想像ニシテ毫モ確乎タル根據ヲ有セサルナリ未タ以テ當ニ然ルヘシト爲スニ足ラサルナリ。

夫レ目下北方ニ關シテ知り得タル狀況ハ唯下土狩ニ敵ノ監視兵ノ如キモノアルト下長窪南方高地ハ依然トシテ確保セラレアルコト是レナリ或ハ之ヲ敵ノ後衛ナラント言ヒシモノアルモ是レ亦當ニ然ルヘキ理由ヲ發見シ得サルナリ又或ハ上土狩附近ニ集合シアルナラハ寧ロ我ヲ攻撃シ來ルヘシト論スルモノアリ然レトモ敵ノ有セル希望ノ如何ヲ知悉シ得サル間ハ斯ノ如キ理論ノ成立ヲ認ムルヲ得サルナリ況ヤ我ヲ攻撃シ來ランニハ黃瀬川ノ大障礙ヲ越ヘ而カモ其攻撃運動ハ大ニ曝露セル地界ヲ前進セサルヘカラサルカ如キ地形ノ不利アルヲ以テ暫時防守ノ姿勢ヲ裝ヒ我ノ渡河ニ際シ騰然掩撃セントスルノ企圖ハ往々遂行サレ得ルニ於テヤ。

夫レ然リ既ニ敵カ北方ノ一地部ニ其主力ヲ集結セントセハ我ヲ攻撃シ來ルノ困難ハ其南北相分ルルノ時ニ比スレハ一層甚シカルヘシ(敵ハ上土狩以北ノ地

ニ在リテ渡河シ我ヲ攻撃シ來ラント考察スルモノアリ若シ夫レ敵ニシテ此舉ニ出テンカ最早之ニ關スル新ラシキ行動ヲ顯ハササルヘカラス然ルニ下長窪方面ニ於テハ昨日ト異ナリタル狀況ヲ認メス且ツ小林以北黃瀨川右岸ノ地區ハ錯雜ナル高地ニシテ到底大兵ヲ使用スルヲ得サルヘシ彼ニシテ強テ攻撃シ來ラント欲セハ其一部ハ固ヨリ此方面ヨリ來ルヘシト雖其主力ハ我正面前ニ顯出スルノ外恐ラク他ニ策ナカルヘシ故ニ敵ハ一時守勢ヲ取りシヤ實ニ計ラレサルナリ果シテ然ラハ一部ヲ以テ下長窪南方高地ヲ占領シ主力ヲ上土狩附近ニ集結シアルナラント考察スルハ決シテ理ナキニアラサルナリ現ニ下長窪南方高地ヲ守備シ且ツ下土狩ニハ監視兵ノ如キモノノ存スルアリ且ツ敵ニシテ此姿勢ヲ保チアラシカ我攻撃ニ對シ最モ有利ニ攻勢ニ轉スルノ機會ヲ得ルコトアリ何トナレハ我ノ全ク黃瀨川ヲ渡リ終ラサルニ先タチ既ニ展開シタル兵力ヲ以テ壓迫シ來ルヘケレハナリ若シ此危險ヲ避ケンカ爲メ我レハ主力ヲ以テ下長窪南方高地ニ對シ小林方面ヨリ敵ヲ攻撃センカ敵ハ其主力ヲ以テ運

動容易ナル黃瀨川左岸ノ地區ヨリ我右側背ニ迫ラハ我ハ運動容易ナラサル錯雜地内ニ彷徨スルノ間側背ニ大ナル打撃ヲ受クルニ至ルヘシ故ニ我攻撃モ亦主力ヲ黃瀨川左岸ノ地區ニ使用セサルヘカラサルナリ是故ニ敵ハ一部ヲ以テ下長窪南方高地ヲ固守シ以テ其右側ヲ確實ニ掩護シ主力ヲ上土狩附近ニ集結シアルハ決シテ不利ナルニアラスシテ寧ロ有利ナル處置ナルヘシ殊ニ遠ク北方ニ退却シタルノ形跡ヲ認メス又其主力ヲ以テ黃瀨川右岸ノ地區ニ移轉セシノ状態ヲ顯サストセハ之ヲ上述ノ姿勢ニ在ルト推測スルハ毫モ不當ニアラサルヘシ然レトモ是レ固ヨリ戰術上ノ原則ニ基キタル一ノ推測ニシテ明確ナル事實ト揚言スルヲ得サルナリ唯我動作ニ對シ敵ノ最モ有利トシテ爲スヘキ方法ヲ考察シ之ニ應スヘキ我適當ナル處置ヲ決定セントスルニ過キス而シテ其的中スルト否トハ暫ク之ヲ不問ニ屬セサルヘカラサルナリ。

以上ノ如ク昨日來ノ狀況ヨリ順序ヲ逐フテ一々之ヲ考察シ終ニ敵ハ北方ノ一地區ニ於テ其主力ヲ集結セルナラントノ判斷ニ歸納スルニ至レリ然ラハ則チ

支隊ハ輕舉ニ黃瀬川ヲ越ルコト並ニ主力ヲ以テ下長窪南方高地ニ向テ攻撃スルコトハ暫ク之ヲ避ケサルヘカラスト雖依然陣地ヲ占領シアルヲ必要トセサルナリ則チ支隊長ハ敵ニ對シテ防禦セントスルノ考案ヲ撤退シ今ヤ上土狩附近ニ向ヒ我ヨリ進ンテ攻勢ニ移轉セントスル堅確ナル意思ヲ有セサルヘカラスナルナリ蓋シ敵ノ企圖如何ニ關セス既ニ防守ノ姿勢ニ在ルニ方リテハ動作ノ自由全ク我ニ存シ而シテ我適當ナル區處ハ彼ノ企圖ヲ畫餅ニ歸セシメ得ヘシ。是故ニ支隊ハ先ツ上土狩附近ノ狀態ヲ搜索スルノ必要ヲ來スヘン何トナレハ此狀態ハ我區處ヲ決定スヘキ基礎タレハナリ。

以上ハ狀況ヲ順序ニ從フテ考察シタルヲ以テ一モ漏ス所ナク記載セリ然レトモ之ヲ狀況判斷トシテ記スルニ當リテハ所謂多ク考ヘテ短ク記スルノ法則ニ從ヒ其要綱ヲ掲クルヲ以テ足レリトスヘシ余ハ茲ニ諸君ノ他日ニ於ケル參考トシテ記スル所アラントス然レトモ是レ決シテ一定ノ書式アルニアラサルナリ要ハ人ヲシテ自己カ考察セシ所ヲ容易ニ理解セシムルニアリ。

判 決

三島町附近ニ在リシ敵ハ御殿場方面ヨリ南進セシ敵ト共ニ北方ノ一地部ニ集結セラレシナラン之カ爲メ支隊ハ先ツ現在地附近ニ主力ヲ集結シアルヲ要ス。

理 由

一、敵ハ昨日來攻撃ヲ躊躇セルノミナラス最モ豫期セシ拂曉攻撃ヲモ施行スルコトナク尙ホ且ツ堅固ニ占領シアリシ西部玉川及新宿ヲ撤去シ又下土狩ノ如キハ僅ニ監視兵ノ如キモノヲ殘置セシニ過キサリニ至リシハ是レ多分其退路ノ顧慮上ヨリ北方ノ一地部ニ相合セシナルヘシ何トナレハ相模海灣ハ昨日來確實ニ我領有ニ歸シ從テ敵ノ退路トナルヘキ熱海東海ノ兩街道ハ我艦隊砲火ノ下ニ制壓サレ得ルニ至レハナリ而シテ昨午後西部玉川及新宿並ニ下土狩ノ占領ノ如キハ單ニ此方面ノ敵方北方ニ轉進スルノ掩護タリシニ過キサリヤ實ニ明カナルヘシ。

支隊ノ動作

二、下長窪南方高地ハ依然敵歩兵ノ守備スルアリ又下土狩ノ如キハ其占領ヲ撤去シタルカ如キモ現ニ一部ノ監視隊アリ殊ニ敵ノ我ヲ攻撃スルノ困難ハ昨日ノ如ク分在セルニ比シテ一層甚シカルヘキヲ以テ或ハ一時防勢ヲ取り上土狩附近ニ其主力ヲ集結シアルニアラサルヤ蓋シ疑ナキ能ハサルナリ況ヤ我ノ動作ニ應シ彼ノ攻勢ニ轉スルカ爲メニハ上土狩附近ニ主力ヲ集結シ置クハ爲シ得ヘキ至當ナル區處ナルニ於テヤ。

三、是故ニ支隊ハ輕舉黃瀨川ヲ渡ランカ或ハ主力ヲ以テ下長窪南方高地ニ向ツテ攻撃センカ彼力術中ニ陷ルノ危険ナシトセサルナリ之ヲ要スルニ支隊ノ主力ヲ以テ黃瀨川左岸ニ移ルハ上土狩附近ノ状態ヲ搜索シタル結果ニ由ラサルヘカラサルナリ之カ爲メ陣地ヲ撤シ沼津町北側ニ主力ヲ集結シ置クヲ適當トス。

處置

一、騎兵聯隊ヲシテ主力ヲ以テ上土狩方面ヲ搜索セシメ尙ホ歩兵及砲兵ノ

將校斥候ヲ幸原、納米里及八反田方面ニ出シテ敵狀及地形ヲ搜索セシム。

二、歩兵第一聯隊第一大隊ハ香貫山上ニ一中隊ヲ殘置シ東海道附近黃瀨川左岸ノ地區ヲ監視セシメ其他ハ陣地ヲ撤シ日吉ノ西側ニ其他ノ諸隊ハ沼津町北側ニ集合セシム但シ黃瀨川右岸ニ出シアル監視部隊及小林附近ヲ占領シアル中隊ハ其儘トス。

狀況

午前七時三十分支隊長ハ右ノ狀況判斷ニ基キ各隊ニ命令ヲ降シ且ツ搜索ニ關スル區處ヲ爲セリ。

同時支隊長ハ澤田ノ東方ニ於テ騎兵聯隊ノ南下シテ上石田ニ進入セルヲ見シ間モナク聯隊長ヨリ報告アリ曰ク

一、下長窪南方高地ノ工事ハ擴張セラレ現ニ三三個ノ散兵壕ヲ見ル又八反田西側ニモ一個ノ散兵壕アリ。

又上土狩ノ附近及幸原東方高地ニモ斷續セル工事アルモノノ如ク殊ニ上

支隊ノ動作

土狩南側ハ敵部隊ノ占領シアルヲ認ム。

二、聯隊ハ今ヨリ一部ヲ小林ニ殘置シ主力ヲ以テ竹原附近ニ至リ上土狩方面ヲ搜索セントス。

午前七時四十分小林北方高地ニ在リシ砲兵將校斥候ヨリ右ト殆ント同様ナル報告ヲ來セリ。

次テ支隊長ハ騎兵聯隊長ヨリ一葉ノ新聞紙(一月十五日附)ト共二次キノ報告ヲ受領ス曰ク

一、新宿附近ニ在リシ敵ノ騎兵ハ四五十ニシテ幸原方向ニ退却セリ今ヤ三島町附近ニハ敵ノ部隊アラサルモノノ如シ。

二、本新聞紙ハ我斥候ノ新宿附近ニ於テ拾得セシモノニシテ紅色ノ圓點ヲ附シアル所ヲ一覽セラレタシ。

右新聞紙ニ記載セルモノノ要旨

我艦隊ノ勢力遙ニ敵ニ劣ル所アルハ今更ラ痛恨ニ堪ヘサル所ナリ然レト

モ吾人ハ茲ニ我忠勇ナル司令官以下各艦兵卒ノ能ク堅忍不拔ノ精神ヲ以テ長ク優勢ナル敵艦ニ對シ其自由ナル行動ヲ妨害シツツアルヲ深ク感謝セサルヲ得サルナリ而シテ吾人ハ此狀態ヲ永ク保持スルコトヲ希望シテ止マスト雖モ運命ハ之ヲ許ササルノ時機アルヲ虞ルルナリ若シ夫レ已ムヲ得サルノ狀況ニ至ランカ勝敗ヲ一六ニ賭センヨリハ身命ヲ保全シ東京灣内ニ退テ靜ニ灣口ヲ扼守センコトハ吾人ノ最モ希望スル所ナリ海戰何ソ必スシモ戰爭ノ運命ヲ決スヘキモノナランヤ我ニ忠勇無比ノ陸軍アリ一タヒ氣勢ヲ整備スルニ至ラハ彼奴輩ヲシテ恐ラク生還ヲ得シメサルヘシ。

足柄街道ノ用兵上ニ於ケル價值ハ今日ヲ待ツテ始メテ認メラレタルニアラサルナリ吾人ハ屢々之ヲ論セシコトアリ然レトモ今ヤ當局者ノ責任ヲ問フモ何等ノ益ナカルヘシ聞説ク沿道附近ノ村民ハ老弱男女ヲ問ハス自ラ奮テ之カ修繕ニ努力シ豫定ノ期ニ先タナテ完成ヲ見ルニ至ラン而カモ

野砲兵ハ勿論重砲兵ト雖自由ニ通過シ得ヘシトハ豈ニ絶快ナラスヤ世間
 往々現時派遣シアル支隊ハ既ニ上陸シアル敵ニ對シ劣勢ナルヲ以テ初戰
 ノ敗ヲ取ルコトナキヲ保セストノ憂慮ヲ懷クモノアリ是レ理ナキニアラ
 ス然レトモ戰鬪ハ必スシモ兵數ノ如何ニ因リテ勝敗ヲ決スルモノニアラ
 ス我卓越ナル指揮官ハ安ソ無謀ノ舉ニ出テ敗滅スルカ如キコトヲ爲サン
 ヤ殊ニ足柄街道ヲ修繕セハ某將軍ハ優勢ナル増援隊ヲ率ヒテ赴援スルニ
 アラスヤ吾人ハ某將軍ノ數度ノ戰役ニ從事シ常ニ赫々タル功績ヲ顯ハシ
 且ツ今日ニ至ルモ勇猛ニシテ老練ナル將軍トシテ尊敬セラレアルヲ思ヘ
 ハ逐次敵ノ來加ニ先タチ之ヲ擊破スルコトハ實ニ火ヲ睹ルヨリ明力ナル
 ヘシ。

問 題

以上ノ狀況ニ由リ支隊長ハ差シ當リ何事カ決行スル所アルヤ

右答解ニ關スル講評及意見

諸君ノ答案ヲ概括スレハ左ノ諸項ニ歸着ス但シ其記述セラレタル理由ハ一様
 ナラス而シテ正當ナルアリ或ハ不當ナル所アリ要スルニ首尾一貫能ク理論ニ
 合スル所ノ答案ヲ見ルヲ得サルナリ余ハ茲ニ先ツ答解ニ關スル注意ヲ述ヘ他
 日ニ於ケル諸君ノ參考ニ供セントス是レ必スシモ不要ニアラサルナリ何トナ
 レハ戰術上ノ判斷力ヲ發達セシムルハ一ニ適當ナル答解ヲ求ムルヲ以テ特ニ
 利益トスレハナリ。

夫レ答案ハ出題者ノ意向ニ合致セルヲ以テ上乘トセサルナリ何トナレハ戰術
 上ノ問題ハ決シテ數理的答解ヲ得ルモノニアラサルナリ蓋シ人各其思想ヲ異
 ニスルヲ以テ決シテ之ヲ一定ノ規矩ニ當テ嵌メ得サルノミナラス其目達ヲ達
 スル爲メニハ其方法一ニシテ足ラサルヘシ且ツ實際ニ在リテ或ハ當時平凡ト
 スル所ノ處置却テ他ノ非難スル所ナキ卓越ナル考案ヨリモ有利ニ遂行セラル
 ルコトナシトセサルナリ是故ニ答案ハ出題者ノ意向ニ合スルト否トハ毫モ問
 フ所ニアラサルナリ唯之ヲ理論ニ從ヒ明瞭ニ記載セラレアルヤ否ヤヲ以テ其

價值ヲ定ムルモノトス。

凡ソ答解ヲ爲スニ當リテハ先ツ狀況ヲ暗熟シ且ツ遲疑ノ境ヲ脱シテ明瞭ノ域ニ入ランカ爲メ順序ヲ逐フテ十分ニ考察セサルヘカラサルナリ而シテ其考察ノ結果ハ所謂明確ナル決心トナリ其順序ハ則チ理由トナルモノトス若シ夫レ問題ヲ通讀スルヤ否ヤ偶然發生スル所ノ思想ニ基キテ立案シ後ニ至リテ種々牽強附會ノ理由ヲ求ムルカ如キハ本末ヲ顛倒シ遂ニ至當ノ答案ヲ得サルヘシ是レ決シテ戰術上ノ判斷力ヲ發達スヘキ方法ニアラサルヘシ。

其一、支隊ハ敵ヲ攻撃スルノ目的ヲ以テ現在地附近ノ守備ヲ撤シ一部ヲ以テ下土狩ニ主力ヲ以テ三島ニ向ヒ前進セントス之カ爲メ歩兵一聯隊(一大隊缺)工兵中隊ヲ前衛トシ新宿ヲ經テ三島ニ向ヒ歩兵一大隊砲兵一若クハ二中隊ヲ以テ北部下土狩ニ向ヒ前進セシメ他ハ本隊トナリ前衛ニ續行セシム但シ騎兵ハ上土狩方面ヲ搜索セシム。

其二、支隊ハ今ヨリ主力ヲ黃瀬川左岸ニ移シ次テ中土狩ヨリ上土狩ニ向ヒ攻撃セントス之カ爲メ歩兵一大隊(若クハ大隊長ノ指揮スル二中隊)ヲ岡一色ニ前進セシメ爾後本攻ニ連繫シテ下長窪南方高地ニ向テ攻撃セシメ他ヲ中土狩北端ニ展開シ上土狩ニ向ヒ攻撃セシム但シ歩兵一大隊(若クハ二中隊)ヲシテ壹町田方面ヨリ徳倉東北高地ニ向ヒ攻撃セシメ砲兵聯隊ヲシテ三島町北方ニ放列ヲ布カシム。

其三、支隊ハ敵ヲ攻撃スルノ目的ヲ以テ先ツ主力ヲ竹原東方乾田ニ開進セントス之カ爲メ歩兵一大隊(或ハ工兵一中隊ヲ屬ス)ヲ以テ下土狩ヲ占領(若クハ歩兵一大隊及工兵中隊ヲ以テ下土狩附近ヲ歩兵一大隊若クハ大隊長ノ指揮スル二中隊ヲ以テ小林方面ヲ占領セシメ)セシメ其他ハ東海道並ニ上石田ノ橋梁ニ依リ黃瀬川ヲ渡河シ竹原東方ニ開進セシム。

其他細部ニ至リテハ多少異ナル所アリト雖敢テ之ヲ示摘スル程ノ價值ヲ有セサルナリ之ヲ要スルニ諸君ノ答案ハ總テ敵ヲ攻撃スルノ決心ヲ以テ各處置スル所アリ是レ固ヨリ至當ノ決心ナルヘシ余ハ之ニ對シテ毫モ反駁ヲ試ミルノ

餘地ヲ有セサルナリ然レトモ余ハ其一ニ屬スル答案ニ對シテ爾他ノ理由ハ之ヲ措キ其主力ヲ以テ三島町ニ向ヒ前進セントスルニ關シ如何ナル理由ヲ存スルヤヲ問ハント欲スルナリ其所謂「支隊カ今後攻撃ノ企圖ヲ實行スルニ當リテハ三島ノ領有ヲ除外スルヲ得ス故ニ我ハ是非トモ本日黃瀬川ノ障碍ヲ通過シ一部ヲ以テ下土狩附近ヲ占領セシメ主力ヲ以テ三島ニ向ヒ前進スルヲ可トス」トハ多クノ諸君カ述フル所ナリト雖是レ果シテ三島ニ向ヒ前進セサルヘカラスルコトノ確乎タル理由ト爲シ得ヘキヤ夫レ三島町方面ニ尙ホ敵ノ騎兵部隊在リトセンカ第一日ニ於ケル狀態ト異ナル所ナシ故ニ支隊ハ何レノ方面ニ對シテモ俄ニ攻撃スルヲ得サルナリ若シ又攻撃中三島方面ヨリ敵部隊ノ顯出スルコトアリトセンカ是レ亦支隊ノ俄ニ攻撃ヲ斷行シ得サル所ナリ而シテ支隊長ノ敵ヲ攻撃スルニ決心セシ所以ノモノハ最早攻撃中我右側ニ危險ヲ生セス換言セハ三島町方面ニ敵部隊ノ存セサル狀況ノ明白ナリシニ之レ由ラスンハアルヘカラス然ルニ尙ホ三島町ニ向ヒ前進セントス是レ恐ラク何人モ了解ス

ル能ハサル所ナルヘシ且ツ夫レ上土狩附近ヲ占領セル敵ニ對シ東海道ヲ三島町ニ向ヒ前進スルカ如キハ極メテ危險ナル側敵運動ニシテ縱令一部ヲ以テ下土狩附近ヲ占領シ之カ掩護ニ任スルトスルモ之カ爲メ毫モ危險ヲ免レサルヘシ斯カル危險ヲモ顧慮スルコトナク我企圖ヲ遂行セント欲セハ何ソ必ス本日ヲ待タンヤ昨日既ニ三島ニ向ヒ攻撃ヲ實行スヘキナリ是故ニ本考案ヲ忌憚ナク評セシメハ即チ偶然發生スル所ノ思想ニ基キ立案シ後ニ至リテ種々牽強附會ノ理由ヲ求メタルト謂フニ外ナラサルナリ安ソ順序的考察ヲ經由シタル結果ナランヤ。

抑モ新聞紙ノ言固ヨリ信ヲ措クニ足ラサルヘシト雖モ昨日來ノ行動並ニ彼カ動作ノ自由ヲ放棄シ以テ防禦ノ姿勢ニ立チタルノ狀態並ニ増援隊ニ關シ軍司令官ノ通報ト符號スルカ如キハ支隊長ヲシテ信セサラント欲スルモ能ハサラシムル所ナリ而シテ其砲兵ノ如キハ或ハ唯熱海街道ヲ前進シ來リシモノノ外之レ無キヤ亦實ニ計ラレサルナリ何トナレハ馬背ニ馱載シアルハ獨リ火砲

ノミナラス機關銃モ亦然リトス然レトモ今ヤ其兵力ハ我力斷乎タル決心ヲ左
 右スヘキモノニアラサルナリ蓋シ地形ノ利不利ヲ問ハス兵力ノ優否及戰鬪企
 圖ノ如何ニ關セス防禦ヲ爲スヘキ決心ヲ爲シタルトキハ業ニ既ニ動作ノ自由
 ナ放棄シタルモノナリ斯ノ如キ敵ニ對シテ此際特ニ慎重ヲ守ルカ如キハ支隊
 ノ任務ヲ重スル所以ノモノニアラサルヘシ況ンヤ某將軍ノ率フル増援隊ハ目
 下行進途上ニ在ルト推測セラレ得ルニ於テヤ若シ夫レ此好機ヲ失セハ或ハ
 我後續團隊ノ來加セサルニ先タテ彼レハ増援隊ヲ得テ攻勢ニ轉スルニ至ルヤ
 實ニ計ラレサルナリ。

凡ソ決心ハ任務地形狀況ニ由リテ定マルモノトス然レトモ任務ハ決心ノ基礎
 ニシテ地形ノ不利敵狀ノ不明等ニ由リ其遂行ヲ躊躇スヘキモノニアラサルナ
 リ故ニ支隊ノ任務遂行ニ關シテ最早攻撃スルノ外他ノ策案ヲ採ルノ不適當ナ
 ルコトハ何人モ疑ヲ容ルルノ餘地ナカルヘシ然レトモ支隊ノ受ケン任務ノ重
 大ナルコトハ後續團隊ノ參加ヲ期シ得ヘカラサルニ從ヒ益々大ナルヲ以テ之

カ攻撃モ亦慎重ヲ要セサルヘカラサルヤ固ヨリ論ヲ俟タサルナリ況ヤ敵ハ既
 ニ動作ノ自由ヲ放棄シタルヲ以テ我ハ敵陣及攻撃ノ爲メニ呈スル總テノ利益
 ナ偵察スルノ餘裕ヲ有スルニ於テヤ是レ余力其二屬スル答案ノ如ク目下
 直ニ攻撃ノ部署ヲ定ムルモノニ同意スル能ハサル所ナリ殊ニ各部隊ヲ展開シ
 且ツ之レニ負擔スヘキ敵線ノ部分ヲ與ヘ以テ攻撃ヲ實行セシムルカ如キハ實
 ニ早計ト謂フノ外ナキナリ。

夫レ敵線ノ狀態ハ未タ之ヲ十分ニ偵察シアラサルナリ我展開スヘキ地域モ亦
 未タ十分ニ知悉シアラサルナリ且ツ攻撃ノ爲メニ要スル大部ノ區處ハ障碍タ
 ル黃瀬川ヲ通過シタル後ニアラサレハ之ヲ實行スル能ハス又縱令敵ハ防禦ニ
 決シアリトハイヘ何時タリトモ攻勢ニ轉シ得ヘシ若シ夫レ支隊力不用意ノ渡
 河ニ對シ猛然トシテ攻撃シ來ラハ忽チ彼我ノ狀勢ヲ一轉シ我ハ慘憺タル光景
 ノ内ニ浮沈セサルヘカラサルニ至ルコト蓋シ疑ヒナキ能ハサルナリ思フテ茲
 ニ至ラハ支隊ノ攻撃ヲ遂行スル爲メニハ必ス先ツ確實ナル方法ヲ以テ主力ヲ

黃瀬川ノ左岸ニ移スコトノ是非トモ必要ナルコトヲ覺知セラルヘシ(主力ヲ以テ小林方面ヨリ攻撃スルノ不利ハ前段ニ於テ既ニ述ヘタルヲ以テ茲ニ之ヲ省略ス)

其ニ屬スル答案ハ至當ノ順序ヲ以テ考察サレタル結果ナルコト固ヨリ論ヲ俟タサルナリ然レトモ尙ホ茲ニ一二注意ヲ喚起セサルヘカラサルコトアリ既ニ述フルカ如ク敵ハ自ラ動作ノ自由ヲ放棄シ以テ防禦ノ姿勢ニ立チシト雖或ハ攻勢ニ轉スルノ企圖ヲ有スルコトナシトセス我カ半渡ニ乘シ主力ヲ以テ猛烈ニ前進シ來ランカ此場合ニ在リテ其企圖ヲ妨害シ得ヘカラシメンカ爲メニハ獨リ歩兵火ヲ以テ足レリトセス必ス砲兵ノ火力ニ依頼セサルヘカラサルナリ殊ニ敵ノ此動作ヲ爲スニ當リテハ必ス先ツ其砲兵ヲ以テ我掩護部隊ヲ猛射スヘキヲ以テ少クモ一二中隊ノ砲兵ヲ掩護部隊ニ參加シ以テ上土狩南方地帯ヲ射撃シ得ヘキ陣地ヲ占領セシメサルヘカラサルナリ諸君ノ茲ニ着意セサリシハ實ニ遺憾トスル所ナリ。

凡ソ攻撃ノ爲メ軍隊ヲ一地ニ集合スルニハ次テ起ルヘキ攻撃ノ部署ニ便ナル位置ナラサルヘカラス又此準備運動ヲ敵ニ秘スルヲ要ス夫レ敵陣地ノ状態ハ目下未タ明カナラスト雖之ヲ攻撃スルニ當リテ我展開スヘキ地域ハ三島町北方並ニ其東方高地ヲ普ク利用セラレサルヘカラス殊ニ該高地ハ多少運動困難ナル嫌ヒアリト雖我攻撃ノ進捗ニ關シ大ナル價值ヲ有スルモノトス然ルニ我主力ヲ竹原東方乾田ニ集合セシメンカ此動作ハ全ク敵ニ曝露シテ施行セサルヘカラサルノ不利アルノミナラス殆ト側方ニ運動セサルヘカラサルナリ斯ノ如キ動作ハ有爲ノ敵ニ對シテ全ク攻勢移轉ノ好時機ヲ與フルニ外ナラス危險之レヨリ大ナルハナシ是レ亦諸君ノ茲ニ着意セサリシヲ遺憾トスル所ナリ。

夫レ新宿若クハ伏見ノ南側ハ毫モ敵ニ曝露スルコトナク且ツ最容易ニ前述ノ動作ヲナスコトヲ得ヘク而シテ敵ヲ距ルコト比較的遠キヲ以テ敵ノ我未タ展開セサルニ先タチ攻撃ニ轉シ來ルモ之ニ對シテ相當ノ區處ヲ爲スコトヲ得ヘシ是故ニ主力ヲ集合スルニハ伏見附近ヲ適當トスヘシ又小林北方ノ高地ハ

音ニ支隊ノ左側ヲ掩護スルニ適當ナルノミナラス茲ニ砲兵ヲ配置セハ上土狩方面ニ對シテ十分ニ掃射シ得ヘキヲ以テ下土狩ト相待チテ我主力ノ渡河ヲ掩護セハ敵ノ之ニ對スル攻撃企圖ヲ妨害シ得ルコト確實ナルヘシ。
 以上ノ如ク考察シ來ラハ支隊長ノ攻撃スヘキ決心ヲ以テ差シ當リ爲スヘキ處置トシテハ即チ歩兵及砲兵ノ一部ヲ以テ小林北方ノ高地及下土狩ヲ確實ニ占領セシメ之カ掩護ノ下ニ主力ヲ伏見附近ニ集合セシムルコト是レナリ但シ此間百方手段ヲ盡シテ敵ノ陣地並ニ攻撃ノ爲メニ呈スル總テノ利益ヲ偵察セシムルコトハ當然ノ事タルヘシ。

開進ナル兵語ニ關シテ我操典ハ之ニ定義ヲ附シアラサルナリ然レトモ從來ノ慣用ニヨルニ開進ト稱スルハ行軍縱隊ヨリ密集部隊ノ橫線ニ移ルコトノ意義ニシテ又行軍長徑ノ短縮並ニ集合ニ適用セラルルモノナルヤ固ヨリ論ヲ俟タサルナリ今ヤ支隊ハ沼津北側ニ集合シアリ其黃瀬川左岸ニ到ルハ即チ其集合場ヲ移轉スルニ外ナラス所謂行軍長徑ノ短縮ニアラス又行軍ヨリ

ノ集合ニアラサルナリ故ニ之ヲ竹原東方乾田ニ開進セント、スト言フハ意義ニ於テ穩當ヲ缺クノ嫌ヒナキ能ハサルナリ寧ロ單ニ集合セント、スト言フヲ至當トスヘシ。

以上述フル所ノ理論ハ本問題ヲ答解スルニ就テ必ス考察セサルヘカラサル事トス而シテ其要旨ヲ約記セハ左ノ如シ。

支隊ハ攻勢ニ轉スルノ目的ヲ以テ先ツ主力ヲ新宿及其附近ニ集合セシメン
 トス。

理由

一、新聞紙ノ言固ヨリ信ヲ措クニ足ラスト雖昨日來ニ於ケル敵ノ行動殊ニ自ラ動作ノ自由ヲ放棄シタル狀態並ニ軍司令官ノ通報ト符合スル所アルヲ以テ之ヲ信セサラント欲スルモ能ハサル所ナリ夫レ然リ然ルニ尙ホ徒ラニ慎重ノ態度ヲ守ランカ或ハ好機ヲ失シ任務ノ達成ヲ困難ナラシムルニ至ルヤ知ルヘカラサルナリ況ヤ某將軍ノ率フル増援隊ハ既ニ行軍途上

ニ在リト信シ得ルニ於テヤ則チ今ヤ攻勢ニ轉スルノ好時機タルヤ更ニ疑ヲ容ルノ餘地ナカルヘシ。

二、小林以北黃瀬川右岸ノ地ハ蔭蔽錯雜ナル高地ニシテ彼我共ニ主力ヲ使用スルニ適セス之ニ反シテ左岸ノ地ハ稍々敞開シ且ツ中土狩及下土狩附近ノ部落ハ共ニ我展開動作ヲ掩護シ得ルノ利アリ故ニ支隊ハ敵線ノ狀態如何ニ拘ラス主力ヲ黃瀬川左岸ノ地ニ使用セサルヘカラサルナリ是故ニ安全ナル方法ニ依リテ渡河シ得ルニアラサレハ未タ俄ニ攻撃ノ部署ヲ決行スル能ハサルナリ況ンヤ攻撃計畫ニ資スヘキ要件ヲ知悉シアラサルニ於テヤ。

三、小林北方ノ高地ハ支隊ノ左側ヲ掩護スルニ適當ナルノミナラス茲ニ砲兵ヲ配置セハ上土狩方面ヲ有利ニ掃射シ得ヘキヲ以テ下土狩ト相待テ我主力ノ渡河及集合ニ對スル敵ノ攻撃企圖ヲ妨害スルニ足ルヘシ又新宿附近ハ比較的敵ニ遠サカリ且ツ其南側乾田ハ全ク敵ニ蔭蔽シ殊ニ集合後ニ

於ケル各部隊ノ展開動作ヲ永ク敵ニ秘匿シ得ルノ利ヲ有スヘシ故ニ支隊ハ一部ヲ以テ下土狩及小林北方高地ヲ占領セシメ主力ヲシテ新宿南側ニ集合セシムルヲ適當トスヘシ。

處 置

- 一、騎兵聯隊ヲシテ主力ヲ以テ三島町ヲ占領シ北上村方面ニ對シ支隊主力ノ集合ヲ掩護シ且ツ幸原方面ヲ搜索セシム。
- 二、歩兵第一聯隊長ヲシテ其第二大隊及砲兵第一大隊(第三中隊缺)ヲ指揮シ小林北方ノ高地ヲ占領シ主力ノ集合ヲ掩護シ且ツ左側背ヲ警戒セシム。
- 三、歩兵第二中隊ノ第一小隊及騎兵一分隊ヲ屬ス。
- 三、歩兵第一聯隊第三大隊(騎兵一分隊ヲ屬ス)ヲシテ下土狩ヲ成ルハク蔭蔽シテ占領シ主力ノ集合ヲ掩護セシム。
- 四、其他ノ諸隊ハ東海道及其南方並ニ上石田ノ徒涉場ヲ通過シ新宿附近ニ集合セシム。

五、支隊長ハ砲兵聯隊長ヲ隨ヘ先ツ小林北方高地ニ至リ次テ下土狩ニ至リ敵狀及彼我一般ノ地形ヲ偵察ス。

狀況

午前八時支隊長ハ各隊長ヲ新田東側ニ集メ右ニ關スル命令ヲ降セリ但シ騎兵聯隊ニハ筆記シテ送達セリ又今朝來ノ敵狀並ニ之ニ對シテ取ラントスル支隊ノ策案ヲ筆記シ新聞紙ト共ニ軍司令官ニ送呈ス。午前八時十分掩護ニ任セラレシ各部隊(騎兵聯隊ヲ除ク)ハ各其任地ニ向ツテ集合場ヲ出發セリ。

午前八時四十分支隊長ハ新田ノ東方ニ於テ騎兵聯隊長ヨリ次キノ報告ヲ受領ス曰ク

- 一、幸原東南端及壹町田北方高地ニハ敵ノ監視部隊アリ又幸原南端ニハ散兵壕ヲ築設セラレアルモノノ如シ。
- 二、聯隊ハ一部ヲ以テ壹町田南方高地ヲ主力ヲ以テ三島神社北方ヨリ小松

宮別邸ノ北端ニ亘リ占領セリ。

三、三島町東端ヲ流ルル細流ハ水量極メテ少ク壹町田下流ハ到ル所歩兵ノ通過自在ナリ。

此時掩護ニ任セラレシ各部隊ハ殆ト黃瀨川右岸ニ達セリ支隊長ハ今ヤ主力ヲシテ集合地ニ向ツテ前進セシメントス。

問題

支隊長ハ如何ナル區處ヲ以テ主力ヲ集合セシムルヤ

右答解ニ關スル講評及意見

中石田ノ東方ニ於テ黃瀨川ヲ徒涉シタル軍隊ヲ新宿南側乾田ニ集合セシムルカ如キハ頗ル迂ナルヘシ縱令數縱隊トナリ東海道ヲ横切り得ヘシト雖東海道及其南方ヨリ前進セシ諸隊ト混スルノ虞ナシトセサルナリ凡ソ軍隊ヲ集合スルニハ必スシモ一地點ナルヲ必要トセサルナリ爾後ニ於ケル使用ヲ顧慮シ之ヲ適當ノ地點ニ分離シテ集ムルハ決シテ不利トセサルナリ否、寧ロ之ヲ便トス

支隊ノ動作

ルコト多シ但シ之カ爲メ行進方向及部署ヲ隨意ニ選擇シ得サルカ如キコトナキヲ要スルハ勿論ナリトス又砲兵ノ前方ニ步兵ヲ進メサルモノアリ是レ不可ナリ元來砲兵ハ自衛力ニ乏シキヲ以テ二三ノ騎兵斥候ニ出會スルモ其行進ヲ遲滞セシメラルルコトアルモノトス故ニ必ス之ヲシテ步兵部隊ニ續行セシメ以直接ノ掩護ヲ得シムルヲ要ス又之ヲ集合スルニハ成ルヘク道路上ニ於テスルヲ可トス是レ無益ノ勞ヲ避クルト爾後ニ於ケル前進ヲ遲緩セシメサランカ爲メナリ余ハ次ノ如キ區處ヲ以テ集合セシムヘシ。

一、步兵第一聯隊第一大隊ヲシテ中石田東方ニ於テ黃瀬川ヲ徒涉シ伏見西北側凹地ニ集合セシム。

二、步兵第二聯隊及工兵中隊衛生隊二分一ヲシテ步兵聯隊長ノ區處ヲ以テ東海道ノ橋梁及其南方徒涉場ヲ通過シ新宿南側ノ乾田ニ集合セシム但シ一部ハ砲兵ノ先頭ニ在リテ東海道ヲ前進セシム。

三、砲兵第一聯隊(第一大隊本部並ニ二中隊缺)及榴彈砲中隊ヲシテ步兵第二

聯隊ニ續行シ伏見西南端ヲ先頭トシ東海道上ニ集合セシム。

狀 況

午前九時十分支隊長ハ高田北方ヲ行進中步兵第一聯隊長及同第三大隊長ヨリ陣地占領ノ報告ヲ受ク其概要左ノ如シ。

一、步兵第一聯隊第二大隊ハ一部ヲ以テ下土狩ノ北端ヲ蔭蔽シテ占領セシメ主力ハ南部下土狩ノ東側ニ位置シアリ。

中土狩ニハ僅少ナル敵ノ監視部隊アリシモ大隊ノ前進スルヤ漸次上土狩ニ退却セリ。

二、步兵第一聯隊長ノ指揮スル第一大隊ハ其中隊ヲ以テ小林北方ノ高地ヲ占領シ其他ハ豫備トシテ小林東北側ニ位置セシメ其砲兵大隊ハ小林ヨリ北方上長窪ニ通スル道路ニ沿ヒ遮蔽シテ陣地ヲ占領セリ。

午前九時二十分支隊長ハ小林北方ノ高地ニ着シ該地ニ在ル聯隊長及第五中隊長並ニ騎兵將校ヨリ敵狀ノ報告ヲ受ケ且ツ自ラモ亦至細ニ偵察シ砲兵聯隊長